山形県埋蔵文化財調査報告書第206集

分布調査報告書(32)

2006

山形県教育委員会

分布調査報告書(32)

平成18年３月

山 形 県 教 育 委 員 会

序

本書は、山形県教育委員会が平成16年度に実施した遺跡詳細分布調査と、平成14年度に実施した記録保存調査の成果をまとめたものです。

第５次山形県教育振興計画の「山形の教育『いのち』そして『まなび』と『かかわり』」をテーマとし、その中で、文化財の保存と活用については、文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知の徹底・普及に務めることが大きな柱とされました。この中で埋蔵文化財の周知に欠かせない台帳整備も平成12年度までに終了し、完全とまではいかないまでもデジタル化による周知システムを発足させ、各開発関係公所並びに市町村教育委員会等の保護部局で活用いただいているところです。

遺跡詳細分布調査は周知の埋蔵文化財包蔵地や未発見のままとなっている埋蔵文化財包蔵地と各種の開発計画との調整資料を得るために実施しておりますが、この調査により、埋蔵文化財包蔵地の従来の情報を変更する必要が生じます。本書は、ＣＤで配布いたしました埋蔵文化財情報システムの内容を一部改訂し、新情報をお知らせするものでもあります。開発計画の策定にあたり活用していただければ幸いです。

平成18年３月

山形県教育委員会

教育長　佐　藤　敏　彦

例　　言

1　本書は平成16年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成17年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査（県内遺跡発掘調査）及び平成14年度に実施した記録保存調査の報告書である。

2　本書の作成は山形県教育庁社会教育課文化財保護室の名和達朗、阿部明彦、高橋　敏及び渋谷孝雄（平成14年度担当者）の４名が担当した。

3　第Ⅰ章に平成16年度の調査遺跡一覧を、第Ⅱ章に個々の調査結果を記した。また、第Ⅲ章に記録保存調査報告と平成14年度に実施した記録保存調査を、第Ⅳ章には調査結果をまとめるともに、平成15～16年度に国等の機関や市町村教育委員会、地権者から、通知または届出があった新規発見遺跡の一覧を示した。平成16年度までの新規発見遺跡、登録抹消遺跡、範囲・位置の変更については本書の発行をもって周知されたものとする。

4　挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。遺跡地図は国土地理院発行の２万５千分の１の地図を使用した。なお、第Ⅱ章－２、３及び第Ⅲ章ではこれを縮小して使用した。使用地図の図幅一覧は巻末に掲載した。

5　挿図及び文中の記号は以下のとおりである。

Ｔ、ＴＴは試掘溝、ＴＰ、□は試掘坑を表す。図中の赤色部分は遺構・遺物が検出されたことを示し、黒色部分は遺構・遺物が未検出であることを示す。

遺跡位置図の赤色部分は遺跡の範囲を示す。

ＳＴ－竪穴住居跡、ＳＢ－建物跡、ＳＫ－土坑、ＳＤ－溝跡、ＥＢ－掘り方、ＥＰ－柱穴、ＳＸ－性格不明落ち込みを示す。

6　図版の遺物は任意縮尺である。

7　調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者のご協力を得た。ここに、記して感謝申し上げる。

目　次

Ⅰ　調査の目的、方法と経過
1　調査の目的、方法……1
2　調査の経過……1
Ⅱ　調査の概要
1　遺跡地名表
（1）県農林事業関係遺跡……4
（2）県土木事業関係遺跡　4
（3）県総務部事業関係遺跡　4
（4）国土交通省事業関係遺跡　6
（5）日本道路公団事業関係遺跡　6
（6）土地再生機構関係遺跡　6
2　試掘調査の概要
（1）長瀞本楯遺跡　18
（2）上野遺跡……22
（3）上の寺遺跡……24
（4）北沢遺跡……28
（5）石畑遺跡……30
（6）八幡西遺跡……34
（7）山形城三の丸跡……36
（8）庚壇遺跡……40
（9）百刈田遺跡……42
(10)川前飛び地遺跡・上敷免遺跡……44
(11)堤屋敷遺跡……50
(12)万治ヶ沢遺跡……52
(13)木ノ下館跡……53
(14)行司免遺跡……54
(15)興屋川原遺跡……55
(16)玉作１遺跡……56
(17)玉作２・３遺跡……57
Ⅲ　記録保存調査の概要
（Ⅰ部）たらのき代Ｆ遺跡……60
（Ⅱ部）根際的場遺跡……１～
Ⅳ　まとめ
1 調査遺跡について……111
2 新規登録遺跡および記載事項変更遺跡、登録抹消遺跡……111

（1）県教育委員会が発見し登録した遺跡……111
（2）国等の機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出により登録した遺跡……111
（3）範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡……112

挿図目次

第1図　長瀞本楯館跡概要図……19
第2図　上野遺跡概要図……22
第3図　上の寺遺跡概要図……24
第4図　上の寺遺跡調査平面・断面略図……25
第5図　北沢遺跡概要図……28
第6図　石畑遺跡概要図……30
第7図　石畑遺跡調査平面・断面略図……31
第8図　石畑遺跡出土遺物実測図（1）……31
第9図　石畑遺跡出土遺物実測図（2）……33
第10図　八幡西遺跡概要図……34
第11図　八幡西遺跡出土遺物実測図……35
第12図　八幡西遺跡調査平面・断面略図……35
第13図　山形城三の丸跡概要図……36
第14図　山形城三の丸跡出土瓦実測図（1）……37
第15図　山形城三の丸跡出土瓦実測図（2）……38
第16図　山形城三の丸跡出土瓦実測図（3）……39
第17図　庚壇遺跡概要図……40
第18図　庚壇遺跡調査平面・断面略図……41
第19図　百刈田遺跡概要図……42
第20図　百刈田遺跡調査平面・断面略図……43
第21図　川前飛地遺跡・上敷免遺跡概要図……45
第22図　川前飛地遺跡調査平面・断面略図……46
第23図　上敷免遺跡調査平面・断面略図……46
第24図　川前飛地遺跡・上敷免遺跡出土遺物実測図……47
第25図　堤屋敷遺跡概要図……50
第26図　堤屋敷遺跡調査平面・断面略図……51
第27図　万治ヶ沢遺跡概要図……52
第28図　木ノ下館跡概要図……53
第29図　行司免遺跡概要図……54
第30図　興屋川原遺跡概要図……55
第31図　玉作1遺跡概要図……56

第32図　玉作２・３遺跡概要図……58
Ⅲ　記録保存調査
Ⅰ部　椛代Ｆ遺跡
第33図　たらのき代Ｆ遺跡概要図……60
第34図　たらのき代Ｆ遺跡遺構配置図……61
第35図　たらのき代Ｆ遺跡出土遺物実測図……61
Ⅱ部　根際的場遺跡
第１図　根際的場遺跡と周辺の遺跡、遺構配置図……1
～
第17図　落込み平面断面図……17
第18図　出土土器（１）……19
～
第29図　出土土器（12）……30

図版目次

図版１　長瀞本楯跡……18
図版２　長瀞本楯跡……20
図版３　長瀞本楯跡……21
図版４　上野遺跡……23
図版５　上の寺遺跡……26
図版６　上の寺遺跡……27
図版７　北沢遺跡……29
図版８　石畑遺跡……33
図版９　八幡西遺跡……35
図版10　庚壇遺跡……41
図版11　百刈田遺跡……43
図版12　川前飛地遺跡・上敷免遺跡空中写真……45
図版13　川前飛地遺跡・上敷免遺跡……48
図版14　川前飛地遺跡・上敷免遺跡……49
図版15　堤屋敷遺跡……51
図版16　万治ヶ沢遺跡・興屋川原遺跡……58
図版17　行司免遺跡・興屋川原遺跡……59
Ⅰ部　椛代Ｆ遺跡
図版18たらのき代Ｆ遺跡……62
図版19たらのき代Ｆ遺跡……63
Ⅱ部　根際的場遺跡
図版１　根際的場遺跡遺構・土器・石器……33
～
図版14……46

附表目次

表－１　平成16年度分布調査遺跡一覧……2
表－２　平成16年度県内遺跡分布・試掘調査工程表……3
表－３　掲載遺跡位置図使用図幅一覧（２万５千分の１）
Ⅱ部　根際的場遺跡
表－１　根際的場遺跡遺物属性表……31

遺跡地名表　挿図・図版目次
遺跡地名表　位置図・図版１　県農林事業関係遺跡……8
遺跡地名表　位置図・図版２　県農林事業関係遺跡……9
遺跡地名表　位置図・図版３　県農林事業関係遺跡……10
遺跡地名表　位置図・図版４　県農林事業関係遺跡・県土木事業関係遺跡……11
遺跡地名表　位置図・図版５　県土木事業関係遺跡……12
遺跡地名表　位置図・図版６　県土木事業関係遺跡……13
遺跡地名表　位置図・図版７　県土木事業関係遺跡……14
遺跡地名表　位置図・図版８　県土木事業関係遺跡・県教育庁関係遺跡……15
遺跡地名表　位置図・図版９　県教育庁関係遺跡・国土交通省関係遺跡……16
遺跡地名表　位置図・図版10　国土交通省関係遺跡・道路公団関係遺跡……17

Ⅰ　調査の目的、方法と経過

1　調査の目的、方法

本調査は、平成１７年度以降に予定されている開発計画に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、今年度までの調査結果に基づき、記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会いの調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

（１）Ａ調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

（２）Ｂ調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、意向確認面までの深さ等を把握して、開発計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

（３）Ｃ調査（記録保存のための発掘調査）

Ａ・Ｂ調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

（４）立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2　調査の経過

山形県教育委員会では、毎年５～６月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、７月上～中旬に聴き取りを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査に基づく調査も随時行っている。

平成16年度の調査は表－１・２に示した各遺跡の調査を平成16年４月から平成17年３月まで表－３の工程で行うと共に、事業予定区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。

なお、平成16年度に県教育委員会が新たに発見した遺跡（平成16年度登録遺跡）、範囲等を訂正した遺跡、登録を抹消した遺跡は、Ⅳ章のまとめに示した。

平成16年度埋蔵文化財遺跡詳細分布調査一覧

No.	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分				備考
				A	B	C	立会	
1	国道１３号主寝坂道路	金山町中田	未確認	○				
2	国道１３号上山バイパス	上山市中山	上ノ山楯跡		○			
3	国道１１３号赤湯バイパス	南陽市長瀞	庚壇		○			範囲修正
4	国道１１３号赤湯バイパス	南陽市中川	可能性地１		○			
5	国道１１３号赤湯バイパス	南陽市島貫	百刈田(可能性地３)		○			範囲修正
6	国道１１３号赤湯バイパス	南陽市中落合	中落合		○			範囲修正
7	須川河川改修	山形市中野目	川前飛地		○			新規
8	須川河川改修	山形市成安	上敷免		○			新規
9	国道１１２号鶴岡北改良　宝田・本田線	鶴岡市本田	本田	○				
10	都市公園整備事業	寒河江市島	高瀬山		○			
11	最北高等技術専門学校校舎等解体工事	大石田町大石田	角二山		○		○	
12	ＰＦＩ山形県営鈴川住宅改築事業	山形市十日町	山形城三の丸		○		○	
13	一般農道整備事業　天童市成生(成生２期)	天童市成生	熊野堂前		○			
14	一般農道整備事業　東根市長瀞西部４期	東根市長瀞	長瀞本楯		○			
15	農村公園整備事業	山辺町大寺	蓮台寺	○				
16	農免農道整備事業	寒河江市日和田	上の寺	○	○			新規
17	農免農道整備事業	遊佐町吉出	宮山坂Ｆ・小山崎				○	
18	広域営農団地農道整備事業(水芭蕉の丘)	羽黒町上川代	東増川山	○	○		○	新規
19	広域営農団地農道整備事業飽海中央地区	酒田市生石	生石５		○			範囲修正
20	水田農業経営確立排水対策事業端水路整備(山崎)	高畠町一本柳	寝鹿	○				
21	水田農業経営確立排水対策事業端水路整備(山崎)	高畠町一本柳	トフキ塚	○				
22	農地環境整備事業南陽市上野	南陽市上野	上野	○	○			新規
23	過疎基幹農道整備事業白椿地区	飯豊町小白川	長者原				○	
24	ため池等整備事業	羽黒町上野新田	東山Ｄ	○				
25	中山間地域総合農地防災事業	鶴岡市東目	河倉Ｂ	○				
26	地域用水環境整備事業	鶴岡市大山	尾浦城跡				○	
27	中山間地域整備事業あつみ鶴岡南地区	鶴岡市田川	田川館跡				○	
28	農地環境整備事業櫛引町たらのき代地区	櫛引町たらのき代	たらのき代Ｆ			○		
29	県営ほ場整備事業鮭川左岸地区	鮭川村京塚	小反・上野	○				
30	経営体育成基盤整備事業	真室川町釜淵	釜淵Ｃ				○	
31	広域農道整備事業飽海中央地区南北線	八幡町一条	北沢		○			新規
32	(一)東山七浦線	山形市風間	北向				○	
33	主要地方道山形上山線	上山市弁天	湯坂山				○	
34	緊急地方道路整備大野目内表線	山形市陣場	梅ノ木前１		○			範囲修正
35	地方特定道路整備事業山形羽入線	山形市渋江	向河原	○				
36	地方特定(主)山形南陽線	南陽市金山	石畑		○			範囲修正
37	地方特定(主)山形南陽線	南陽市長瀞	可能性地１		○			
38	地方特定(主)山形南陽線	南陽市西落合	檜原		○			
39	都市計画街路事業高畠町中央通外	高畠町高畠	大在家				○	
40	道路改築事業一般国道２８７号	川西町西大塚	八幡西		○			
41	道路改築事業一般国道２８７号	長井市河井	源徳原館跡				○	
42	新井田川基幹河川改修事業	酒田市荻島	船止		○			
43	楯岡急傾斜地崩壊対策事業	村山市楯岡	楯岡小学校	○				
44	七郎ヶ沢通常砂防事業	米沢市関根	七郎ヶ沢遺跡	○				新規
45	竹森沢通常砂防事業	高畠町竹森	未確認	○				

No.	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分 A	調査区分 B	調査区分 C	調査区分 立会	備考
46	大樽川地方特定環境整備事業	米沢市立石	立石	○				
47	笊籬沢通常砂防事業	米沢市万世町梓山	笊籬e	○				
48	綱木川通常砂防事業	米沢市綱木	板小屋館跡	○				
49	水上急傾斜地崩壊対策事業	八幡町一条	八森A	○				
50	水上急傾斜地崩壊対策事業	八幡町一条	八森B	○				
51	県立山形西高校校舎改築事業	山形市鉄砲町	山形西高敷地内遺跡				○	
52	県立酒田東高校校舎改築事業	酒田市亀ヶ崎	亀ヶ崎城跡				○	
53	東北中央自動車道福島米沢間梓山地区	米沢市万世町桑山	堤屋敷		○			
54	東北中央自動車道福島米沢間梓山地区	米沢市万世町梓山	稲荷山館跡		○			
55	東北中央自動車道福島米沢間梓山地区	米沢市万世町梓山	町在家館跡・梓山a	○	○			範囲修正
56	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市中清水	玉作1・2・3		○			新規
57	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市田川	興屋川原		○			新規
58	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市水沢	行司免		○			新規
59	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	可能性地6		○			
60	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	可能性地9		○			
61	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	万治ヶ沢		○			新規
62	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	可能性地11		○			
63	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	可能性地12		○			
64	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	可能性地13		○			
65	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	矢引		○			新規
66	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市矢引	可能性地15		○			
67	日本海沿岸東北自動車道鶴岡温海間	鶴岡市水沢	木ノ下館		○			
68	山形ニュータウン整備事業	山形市松原	可能性地22		○			
69	その他分布調査依頼の出されたもの	上山市	月岡城跡	○				
70	〃	左沢町	左沢館山城跡	○				
71	〃	羽黒町	羽黒山	○				

表－2　平成１６年度県内遺跡分布・試掘調査工程表

事業名	平成16年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成17年 1月	2月	3月	平成18年 1月	2月	3月
県農林・土木事業関係	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―					
国土交通省・道路公団他関係		―	―	―	―		―	―	―			―	―		
平成17年度以降の埋蔵文化財包蔵地に関わる開発事業計画の聴き取り				―											
遺物資料整理										―	―	―			
報告書原稿作成												―	―	―	―

Ⅱ　調査の概要

1　遺跡地名表

(1)　県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	熊野堂前	天童市成生源蔵旦浦	縄文時代	平地 (100m)	畑地
2	集落跡	蓮台寺	東村山郡山辺町大字大寺字蓮台寺	弥生時代 (後期) 平安時代	台地 (133m)	宅地 公園
3	散布地	宮山坂F	飽海郡遊佐町大字吉出字宮山坂	旧石器 時代	山麓 (83m)	山林 畑地
4	集落跡	東山D	東田川郡羽黒町上野新田	縄文時代	山麓 (175m)	山林
5	集落跡	生石5	酒田市大字生石字平林	平安時代	山麓 (21m)	山林 畑地
6	集落跡	寝鹿	東置賜郡高畠町大字一本柳字三百野	古墳時代	平地 (214m)	水田 畑地
7	散布地	トフキ塚	東置賜郡高畠町大字川沼字トフキ塚	縄文時代	平地 (212m)	畑地
8	散布地	長者原	西置賜郡飯豊町大字小白川字長者原	縄文時代	段丘 (216m)	山林 畑地
9	散布地	東増川山	東田川郡羽黒町川代字東増川山	縄文時代	山麓 (350m)	山林
10	集落跡	河倉B	鶴岡市東目字河倉	縄文時代	山麓 (350m)	宅地 畑地
11	城館跡	尾浦城跡	鶴岡市大山三丁目大字都沢	中世	平地 (12m)	公園 旧水田
12	城館跡	田川館跡	鶴岡市田川	中世	平地 (40m)	学校敷地 水田
13	集落跡	釜淵C	最上郡真室川町大字釜淵字五郎前	縄文時代	段丘 (125m)	水田 畑地

(2)　県土木関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
14	集落跡	北向	山形市大字楯山字北向	奈良時代 平安時代	平地 (125m)	畑地
15	散布地	湯坂山	上山市弁天	奈良・ 平安時代	段丘 (186m)	施設 敷地
16	集落跡	梅野木前1	山形市大字江俣字梅野木前	古墳時代 平安時代	平地 (104m)	水田 畑地
17	散布地	檜原	南陽市大字西落合字西原	縄文時代	自然堤防 (221m)	樹園地 ・宅地 穴など
18	集落跡	大在家	高畠町大字高畠字大在家	飛鳥～奈良・ 平安時代、戦 国～江戸時代	平地 (225m)	宅地・水 田・学校 敷地
19	城館跡	源徳原館跡	長井市河井字若宮前	平安時代 戦国時代	平地 (209m)	畑地 原野 宅地 水田

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
押切川右岸の自然堤防止に位置する。遺跡域の北縁に係る農道の整備事業に従って分布調査を実施したが、遺構・遺物共に検出されなかった。	なし	№67
農村公園工事中に発見された貯蔵用の横穴ないし戦時中の防空壕の立会確認調査。出土品他の手懸りはなかったので性格は不明。	なし	№347
遊佐町吉出から同岩野へ向う県道沿いに所在する旧石器時代の遺跡。開田中の旧石器の出土で注目されたが、現在はほとんど収集されない。	なし	№2142
東山農場ライスセンターに隣接する独立丘上に位置する。台帳では縄文晩期とされるが、溜池脇で収集された土器は円筒系の中期であった。	縄文土器（木目状撚紋） 石器剥片	№1852
通越・泉森線沿いの東側山麓に位置する。現況は山林で、市道へと通じる林道の路肩で若干ながら赤焼土器類が採取できる。	赤焼土器	№2063
昭和61年・63年の県教委による発掘調査で、本遺跡は置賜では貴重な古墳時代後期を中心とした集落であることが明らかとなった。	なし	№1304
寝鹿遺跡の北に隣接する縄文時代の遺跡であるが、これまで調査等の履歴がなく詳細不明。	なし	高畠町遺跡地図 Ｃ－37
白川左岸の段丘上に立地。平成15年度の試掘調査によって確認された遺構等遺存部分に係る農道工事の立会調査	石器剥片１点	平成６年度登録 分布調査報告（22） 分布調査報告（31）
藤島川右岸の山麓に位置し、東側には月山高原牧場が広がる。広域農道の整備事業によって発見された新規の包蔵地である。	石器剥片１点	平成16年度新規登録
栗田俣川右岸の山腹台地に位置する縄文時代の集落跡。隣接地にあるため池の改修工事に伴って確認調査を行った。計画地は地区外。	なし	№1560
大山下池の堰堤下に拡がる湿地帯。尾浦域の外縁部に当る立会調査を実施したが、何らの遺構・遺物も発見されなかった。	なし	№1658
大山川右岸の台地に位置する域館跡、学校西側の旧水田地に農村公園を造成する工事に伴って立会調査を実施したもの。	なし	山形県中世域館跡調査報告書　№203－022
遺跡はＪＲ釜淵駅の南約800m、真室川の支流塩根川左岸の段丘上に立地する。近年実施されたほ場整備により大規模な調査が行われた。	なし	山形県埋蔵文化財センター調査報告書第115集

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
ＪＲ仙山線楯山駅の西片200m、山形市立高瀬小学校の敷地を含む広範な集落遺跡である。県道東山七浦線の工事に伴って発掘調査がなされた。	須恵器・土師器・砥石	平成13年度登録
（財）山形県埋蔵文化財センター敷地内に立地する。今回の路線内の試堀調査では、近・現代の溝跡と陶磁器片の出土にとどまった。	陶磁器	平成15年度登録
ＪＲ奥羽本線北山形駅の北西2.5kmに位置し、馬見ヶ崎川扇状地の扇端部に立地する。県道大野目内表線の工事に伴って発掘調査が行われた。	土師器	平成３年度登録 試掘調査により水田遺構を検出した。
南陽市赤湯市街地から西約３km、上無川右岸の自然堤防に立地する。試掘調査では、溝跡・柱穴を検出。平安時代の可能性も考えられる。	土器片	平成８年度登録
高畠町の中心部、高畠小学校・旧高畠高校敷地を含む広大な集落遺跡である。平成16年度（財）山形県埋蔵文化財センター発掘調査	陶磁器片・木製品	平成３年度登録
ＪＲ米坂線今泉駅の北北東1.4kmの平地に所在する。バイパス建設に伴う立会調査で、須恵器片などが出土。遺構は確認されなかった。	須恵器片	山形県中世城館跡調査報告書402－024

No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	時　期	立　地	地　目
20	集落跡	船　　止	酒田市大字漆曽根	奈良時代 平安時代	平　地 （2 m）	水　田
21	集落跡	楯岡小学校校地内	村山市大字楯岡楯3823－3	縄文時代 奈良時代	山　麓 （90m）	宅　地
22	散布地	七　郎　ヶ　沢	米沢市大字関根	縄文時代	段　丘 （324m）	畑　地 宅　地
23	城館跡	板 小 屋 館 跡	米沢市大字綱木	戦国時代	山　地 （567m）	宅地・ 畑　地
24	集落跡	八　森　A	飽海郡八幡町大字市条字八森1	旧石器時代 縄文時代	山　麓 （50m）	山　林 畑　地
25	集落跡	八　森　B	飽海郡八幡町大字市条字八森13	平安時代	山　麓 （60m）	畑　地
26	集落跡	高瀬山ＨＯ 2期	寒河江市高瀬山	旧・縄・奈良・平安・中世	段　丘 （112m）	畑　地
27	集落跡	角　二　山	北村山郡大石田町字上ノ原乙509－4	旧石器時代 縄文時代 （前期末）	段　丘 （80m）	施設敷地
28	集落跡	立　　石	米沢市大字立石	縄文時代	河岸段丘 （421m）	宅地・ 水　田
29	集落跡	笊　籠　e	米沢市万世町梓山字道帰	縄文時代	河岸段丘 （342m）	山　林

(3)　県教育庁

No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	時　期	立　地	地　目
30	集落跡	山形西高敷地内	山形市鉄砲町一丁目	縄文～平安時代	平　地 （134km）	学校敷地
31	城館跡	亀 ヶ 崎 城 跡	酒田市亀ヶ崎	戦国～江戸時代	平　地 （3m）	学校敷地

(4)　国土交通省

No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	時　期	立　地	地　目
32	城館跡	上 ノ 山 楯 跡	上山市大字中山	中世・近世	山　地 （290m）	山林・樹園地
33	集落跡	中　落　合	南陽市大字中落合字寺西・前田	奈良・平安時代	自然堤防 （221m）	水　田
34	散布地	本　　田	鶴岡市大字本田	平安時代	平　地 （11m）	水　田 畑　地

(5)　日本道路公団

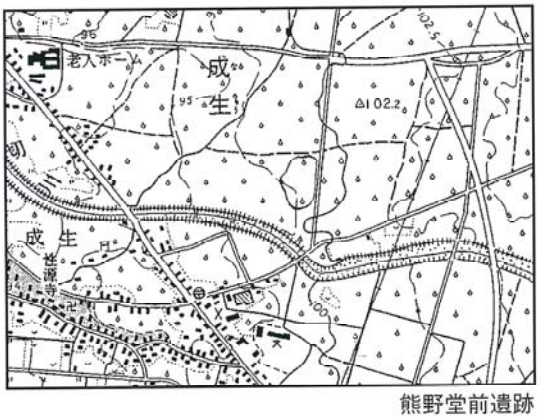
No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	時　期	立　地	地　目
35	城館跡	稲 荷 山 館 跡	米沢市万世町梓山	室町時代	山　麓 （283m）	山林・ 宅　地 道　路
36	城館跡	町 在 家 館 跡	米沢市万世町梓山字町在家	縄文時代 ・中世	山　麓 （303m）	荒　地
37	散布地	梓　山　a	米沢市万世町梓山字馬乗塚	縄文時代	河岸段丘 （315m）	畑地・ 宅　地 山　林
38	散布地	矢　　引	鶴岡市大字矢引字矢引	縄文時代	山　麓 （77m）	畑　地

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
漆曽根集落の南西600m、新井田川に架かる船止橋の西側に位置する。河川改修に係る範囲で試掘調査を行い、溝跡他の遺構が検出された。	土師器	№2023 山形県埋蔵文化財調査報告書第205集
楯岡小学校の敷地内グラウンドに位置する。縄文晩期の土器・石器、奈良・平安時代の須恵器壺などの出土品が知られている。	なし	№564
ＪＲ奥羽本線関根駅の南東約300mの段丘上に立地する。近隣には、周知の普門院東遺跡が存在する。	縄文土器片、砥石、陶磁器片	平成16年度登録
米沢市大字綱木地内、綱木川左岸に立地する。遺跡本体は段丘上にあると考えられ、本工事による影響は少ないと判断される。	なし	（H587）
西流する荒瀬川の形成した左岸段丘に位置する。八森Ａ遺跡は同Ｂ遺跡より一段低い段丘面に立地し、旧石器時代の遺物が注目される。	なし	№2274 八幡町教委2002「八森遺跡」
八森Ｂ遺跡は、掘立柱建物跡や礎石立建物跡他の遺構から官衙関連遺跡として注目される。性格については「高敵国府」跡の説が有力である。	なし	八幡町教委2002「八森遺跡」
最上川左岸の段丘上に展開する広大な遺跡群の一角。平成16年度の調査では古代と中世の遺構が検出された。	なし	歴史の丘・コミュニテー広場造成に伴う立会調査
ＪＲ奥羽本線大石田駅の西方約250m、尾花沢Ｉ面の段丘上に位置する。遺跡は多数の細石刃出土で知られる他、縄文前期の復元住居は県史跡。	なし	最北高等技術専門学校の解体に伴う立会調査
米沢市街地から南南東約７km、大樽川右岸の段丘上に立地する。踏査の結果、事業範囲外であることが判明した。	なし	1191
米沢市八幡原工業団地の南東約４km、天王川右岸の段丘上に立地する。踏査の結果、事業範囲外であることが判明した。	なし	米沢市遺跡地図（Ａ－94）

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
県立山形西高校敷地内を中心とする広範な遺跡である。仮設電柱設置工事に伴い、立会調査を実施した。	なし	29
県立酒田東高校敷地内を中心とする広範な遺跡である。校舎改築工事に伴う、第二校舎解体工事の立会を行った。	なし	2071

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
中世からの山城である中山城の東、半島状に突きでた丘陵上に立地する。階段状の帯曲輪が、幾重にも配置される。	陶磁器片	平成７年度登録
南陽市中落合地区南西側、上無川左岸の自然堤防に立地。試掘調査で土坑、柱穴等を検出。市道南側にも広がる。平成17年度発掘予定。	須恵器片、土師器片	昭和54年度登録
本田集落北東500mの微高地上に立地。三川バイパスと国道７号線との交差点の南側、約200m四方の範囲と推定される。	なし	平成13年度登録

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
八幡原工業団地の南約1.5kmに位置する。米沢市教委による調査では、堀や柱穴が検出され、内耳土鍋などが出土している。平成17年一部発掘。	なし	米沢市遺跡地図（Ａ－393）
平成16年度発掘調査区北側の谷状部分及び、北西の台地について範囲確認のため試掘を実施。遺跡は当該区域まで拡がらないことが判明。	なし	米沢市遺跡地図（Ａ－373）
平成16年度発掘調査区・南側・北側の遺跡範囲内について、調査区拡張の有無を判断するため試掘実施。遺構・遺物の確認により、拡張。	縄文土器片	米沢市遺跡地図（Ａ－278）
鶴岡市大字矢引地区の南西50mに位置する。試掘調査の結果、３ヶ所の試掘坑から縄文土器片及び陶磁器片が出土した。	縄文土器片、陶磁器片	平成16年度登録

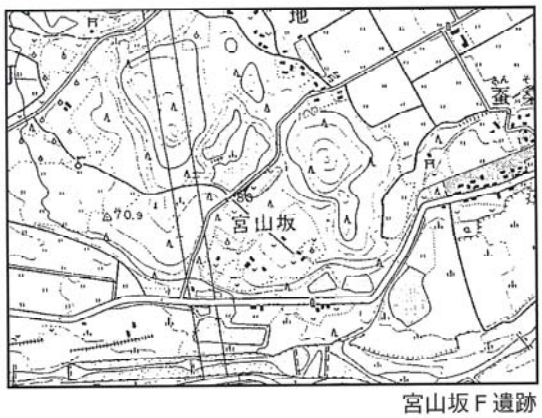


熊野堂前遺跡

熊野堂前遺跡近景

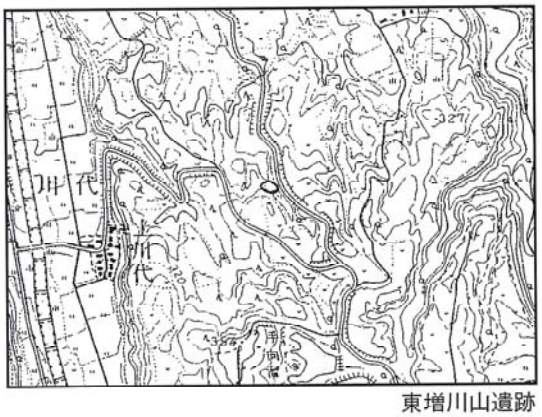
蓮台寺遺跡

蓮台寺遺跡立会



宮山坂Ｆ遺跡

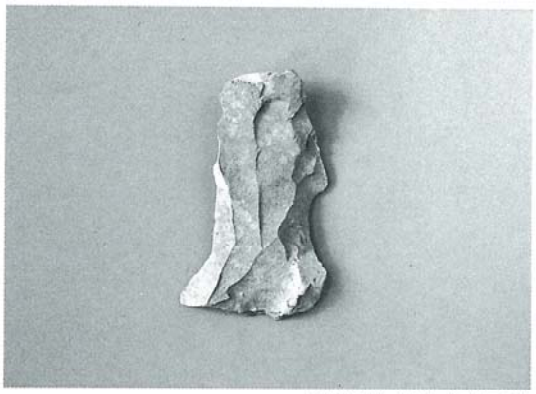
宮山坂Ｆ遺跡調査風景



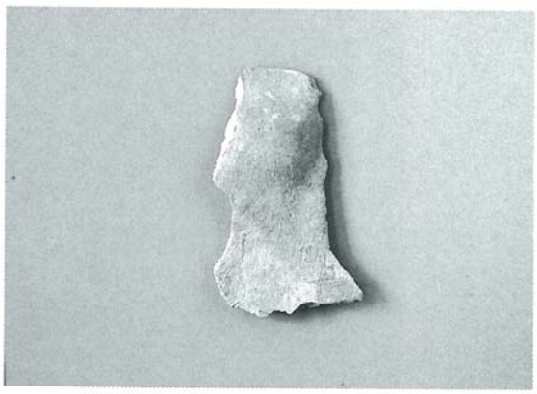
東増川山遺跡

東増川山遺跡近景

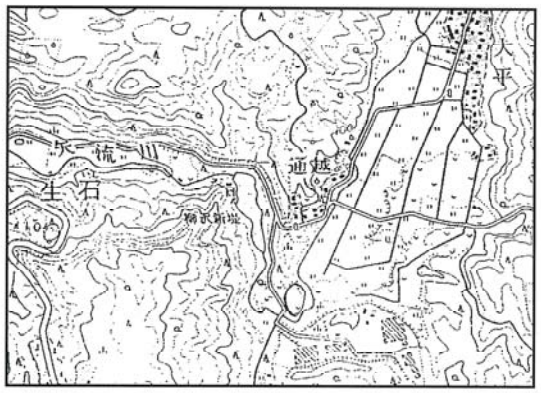
位置図・図版１



東増川山遺跡出土石器

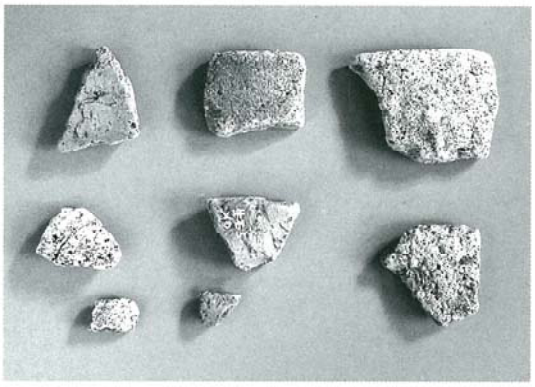


東増山遺跡出土石器

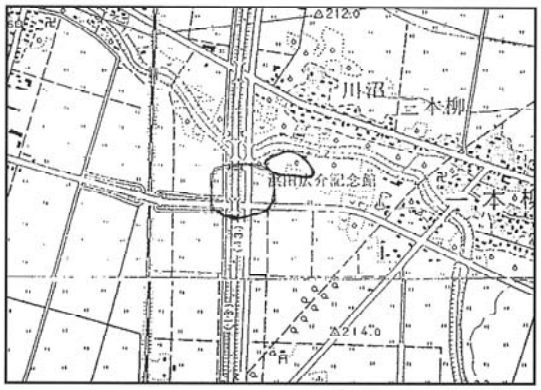


生石５遺跡

生石５遺跡近景



生石５遺跡表採遺物

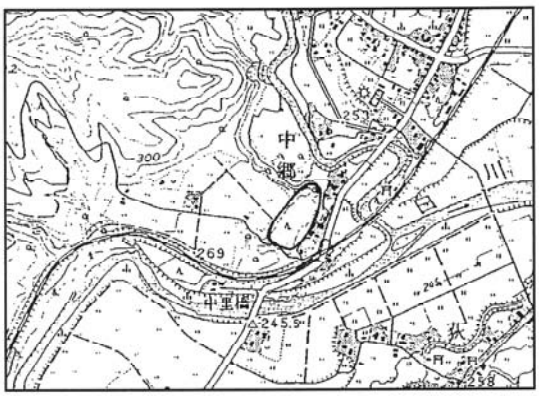


寝鹿・トフキ塚遺跡

寝鹿遺跡近景

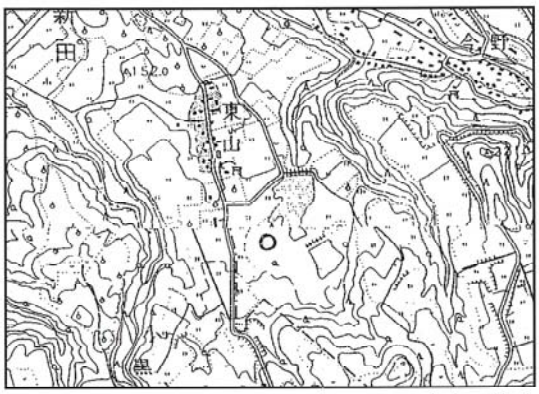
トフキ塚遺跡近景

位置図・図版２



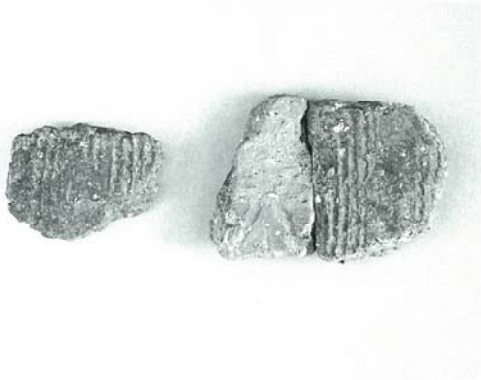
長者原遺跡

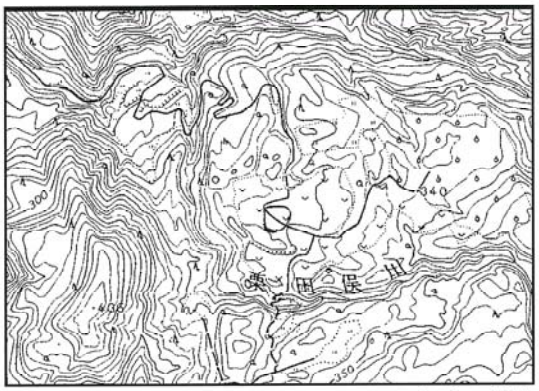
長者原遺跡立会



東山Ｄ遺跡

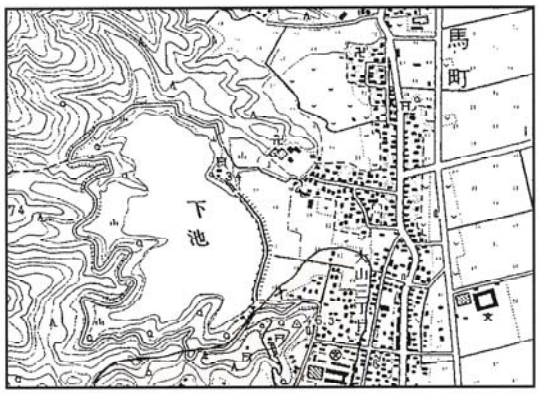
東山Ｄ遺跡遠景


東山Ｄ遺跡表採遺物



河倉Ｂ遺跡

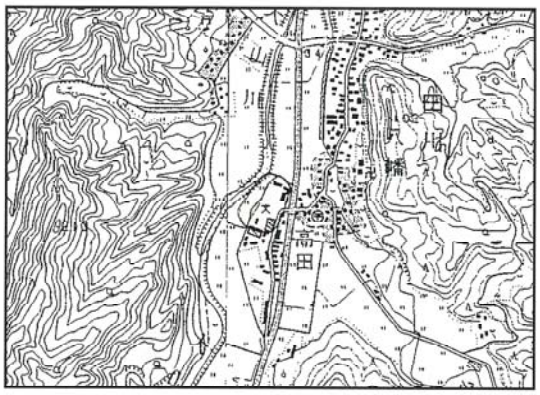
河倉Ｂ遺跡近景



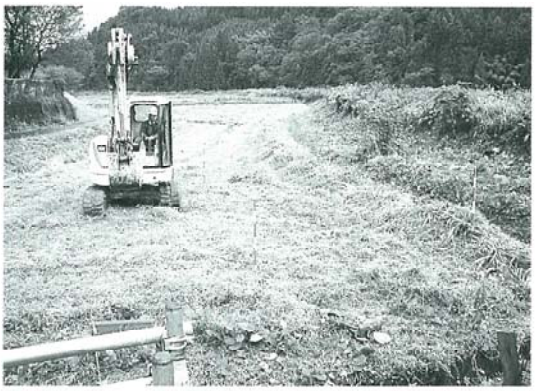
尾浦城跡

位置図・図版３

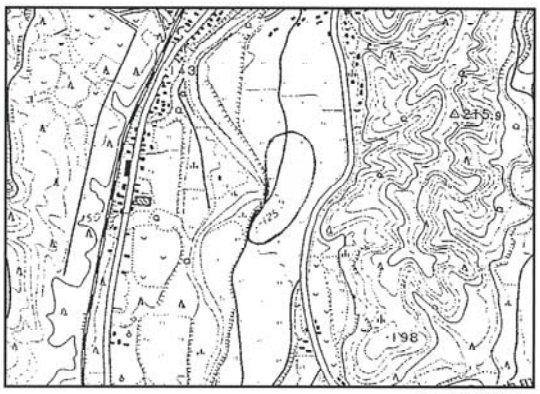
尾浦城跡近景



田川館跡

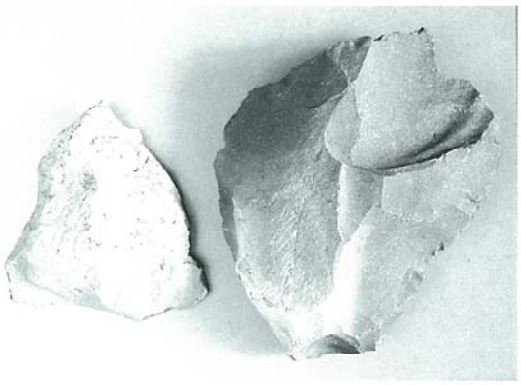


田川館跡調査風景

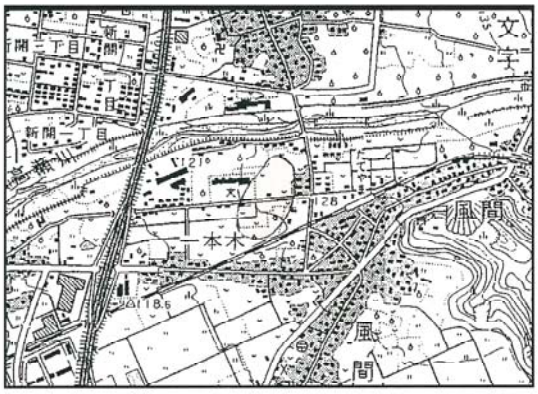


釜淵Ｃ遺跡

釜淵Ｃ遺跡近景



釜淵Ｃ遺跡採集遺物



北向遺跡

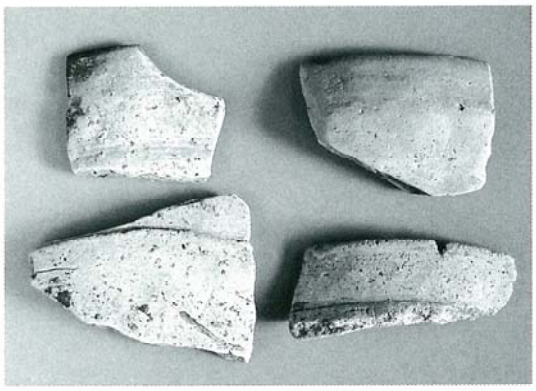
北向遺跡近景

位置図・図版 4

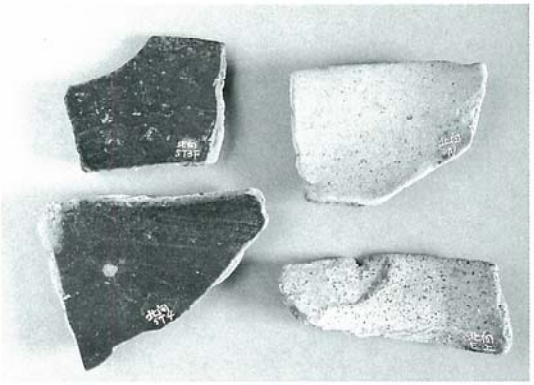
北向遺跡立会

北向遺跡検出遺構

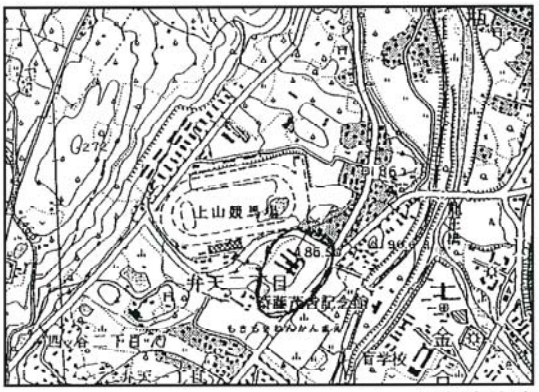
北向遺跡砥石出土状況



北向遺跡出土土師器杯

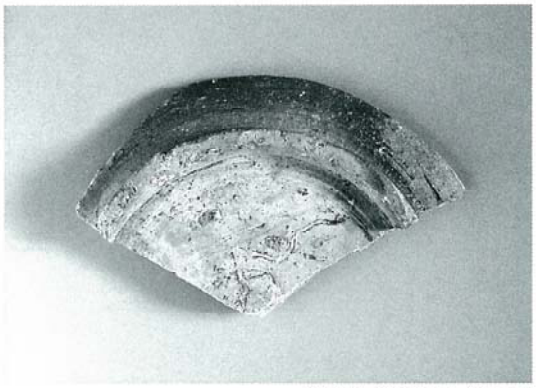


北向遺跡出土土師器杯（内面）



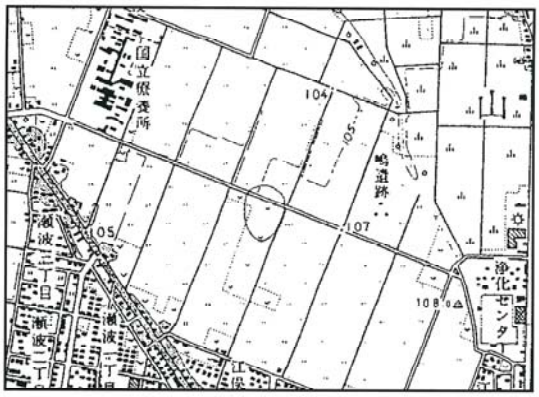
湯坂山遺跡

湯坂山遺跡遠景

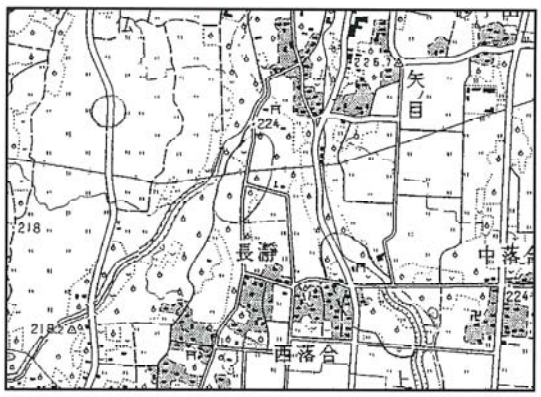


湯坂山遺跡出土須恵器

位置図・図版 5

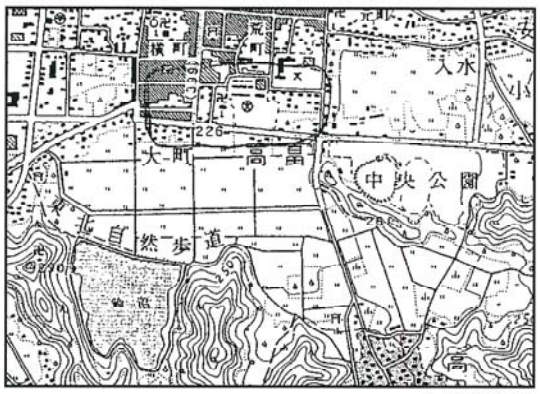


梅野木前１遺跡

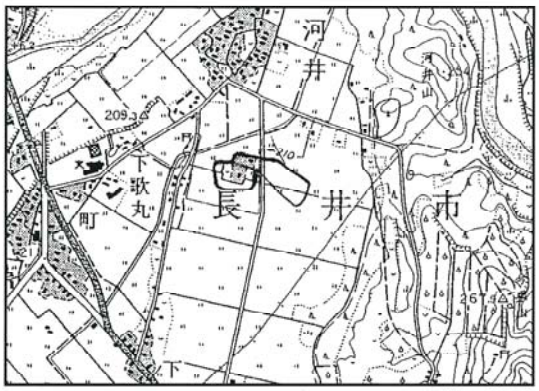


檜原遺跡

檜原遺跡ＴＴ２

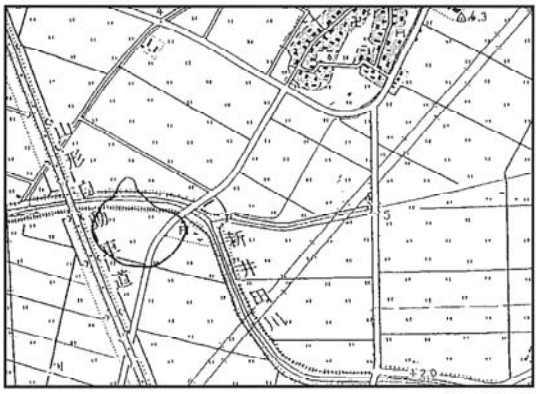


大在家遺跡

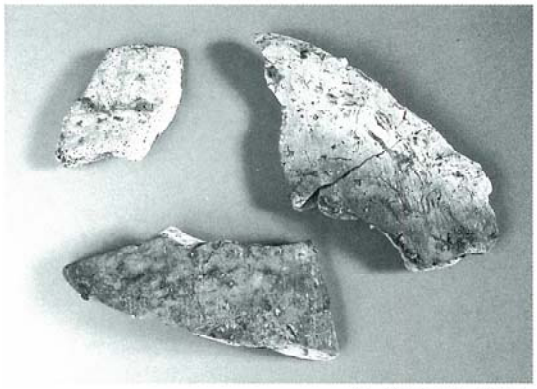


源徳原館跡

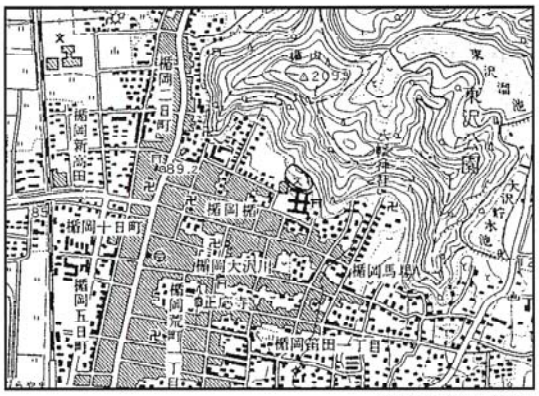
源徳原館跡近景



船止遺跡

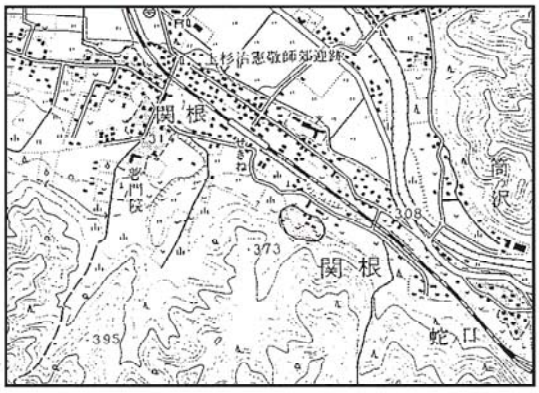

船止遺跡出土遺物

位置図・図版６



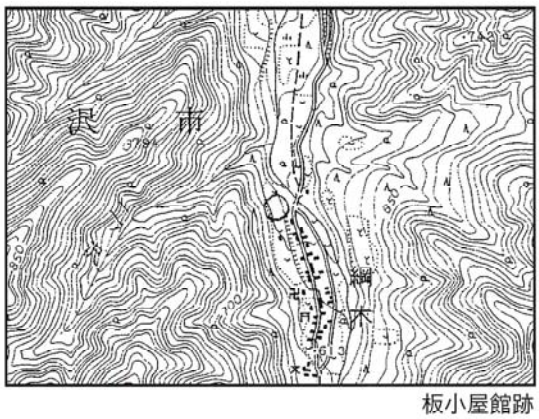
楯岡小学校遺跡

楯岡小学校遺跡近景



七郎ヶ沢遺跡

七郎ヶ沢遺跡近景



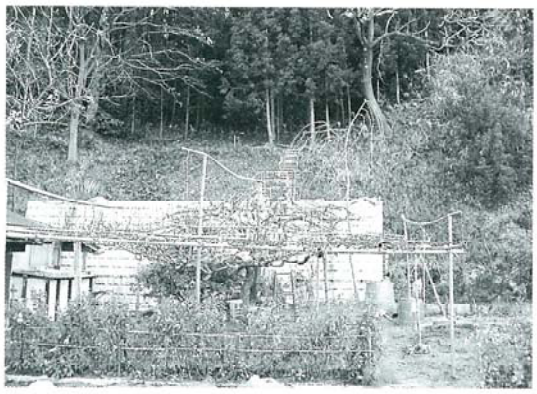
板小屋館跡

板小屋館跡近景

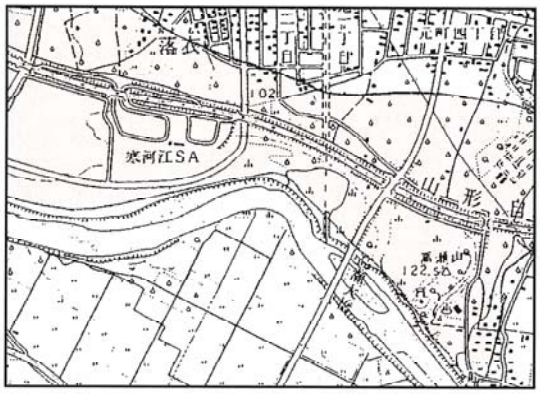
八森Ａ・Ｂ遺跡

八森Ｂ遺跡近景

位置図・図版７

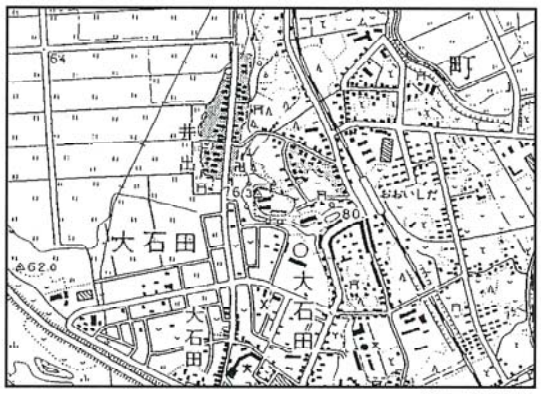


八森Ｂ遺跡近景



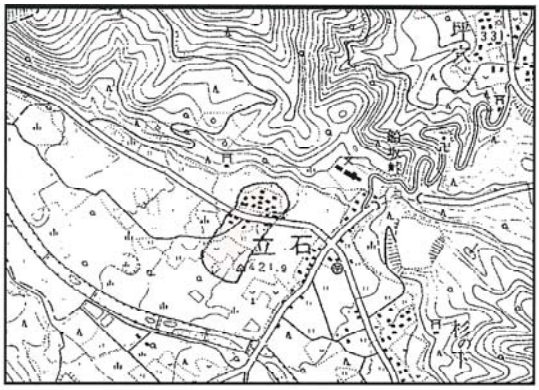
高瀬山ＨＯ２期遺跡

高瀬山ＨＯ２期遺跡近景

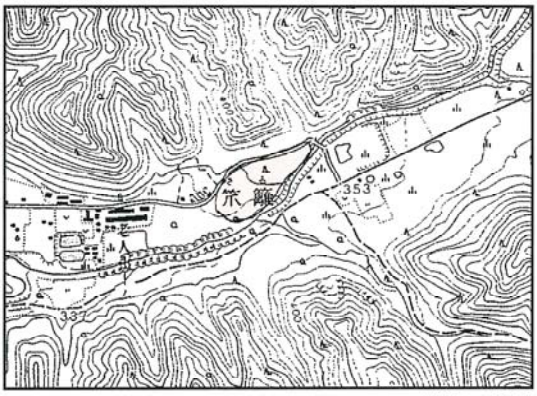


角二山遺跡

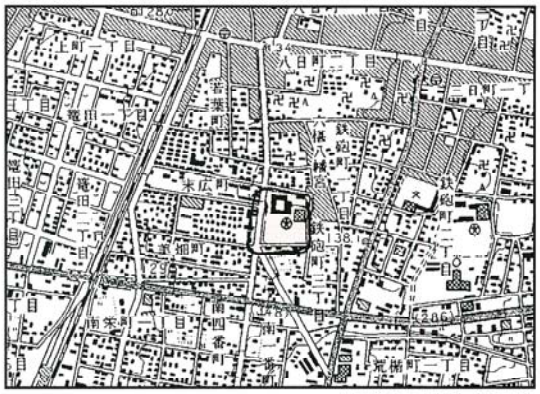
角二山遺跡検出遺構



立石遺跡



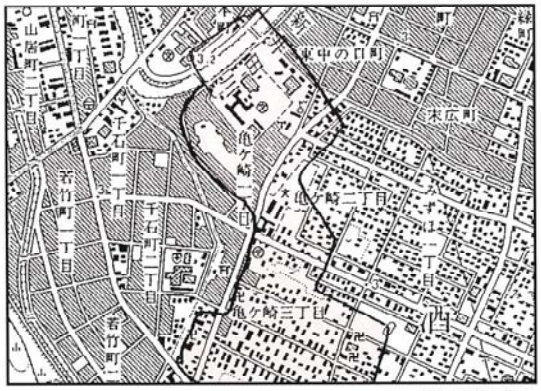
笊籠ｅ遺跡



山形西高敷地内遺跡

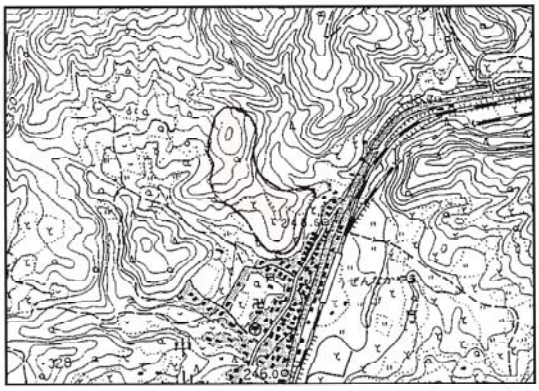
位置図・図版８

山形西高遺跡立会調査



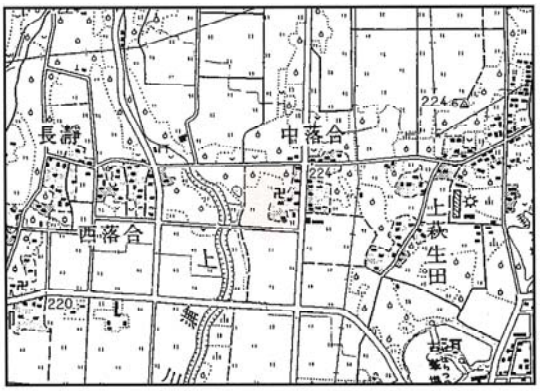
亀ヶ崎城跡

亀ヶ崎城跡立会



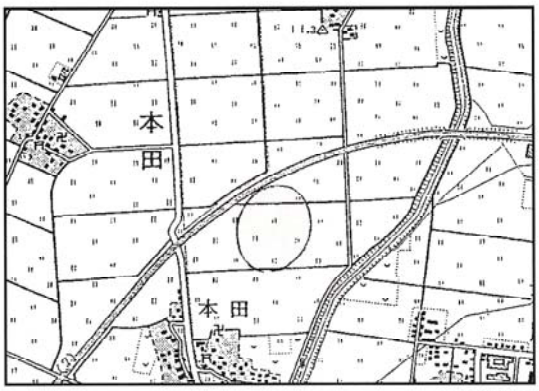
上ノ山楯跡

上ノ山楯跡近景



中落合遺跡

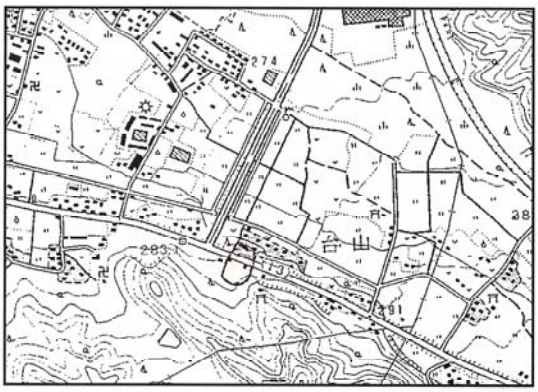
中落合遺跡遺構検出状況



本田遺跡

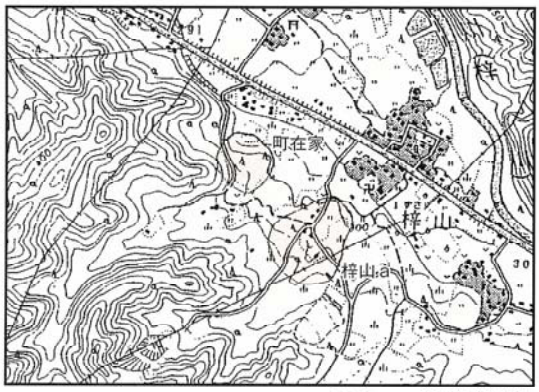
位置図・図版 9

本田遺跡近景



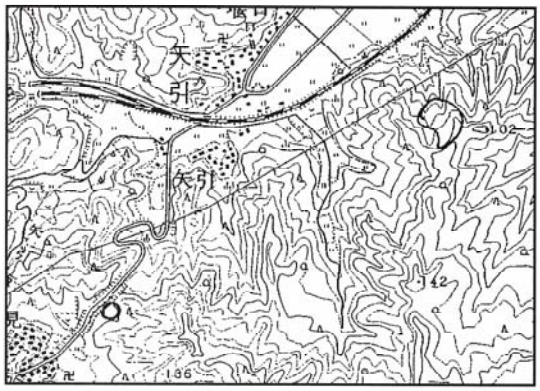
稲荷山館跡

稲荷山館跡近景



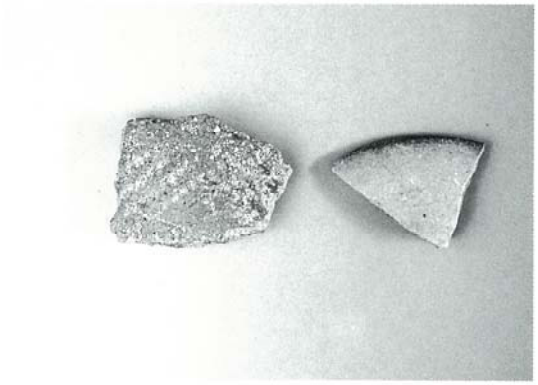
梓山ａ・町在家遺跡

町在家館跡近景



矢引遺跡

矢引遺跡近景



矢引遺跡出物遺物

位置図・図版10

2　試掘調査の概要

(1)長瀞本楯館跡（遺跡番号722中世城館遺跡調査報告書登録番号211－016）

所　在　地　山形県東根市大字長瀞字本楯

調　査　員　阿部明彦

調査期日　立会調査　平成16年11月10日・11月24～26日・12月15日?17日

起因事業　一般農道整備事業（支線13・15・16号）長瀞西部４期地区

遺跡環境　最上川と白水川の合流地点から北東約1.5km、最上川の旧河道右岸（東側）の自然堤防上に立地する。標高80m内外で、地目は畑地、水田である。

調　査　区　農道計画内に係る遺跡範囲を対象として調査区を設定した。

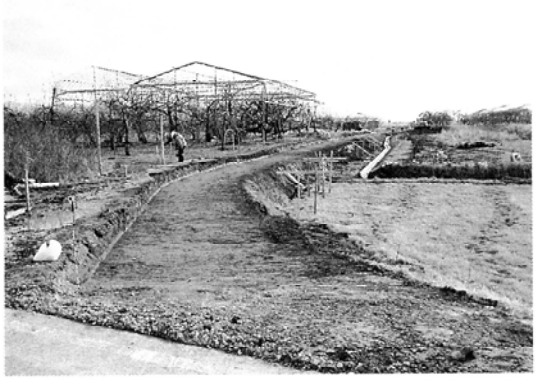
調査方法　計画農道内の表土を重機で除去した後、人力で面整理・面精査を実施した。

調査面積　支線13号：６箇所の試掘坑計６㎡（対象面積約960㎡）。支線15号：約660㎡（対象面積約700㎡）、支線16号：約440㎡（対象面積約1,280㎡）、計1,146㎡。

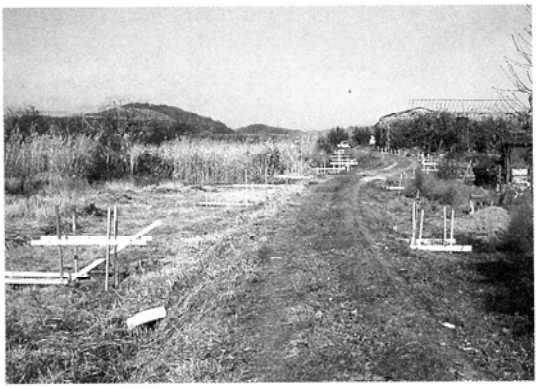
検出遺構　支線15号では、杭№12及び終点側の№15周辺で土坑や溝跡が検出された。遺物は古墳時代中期の高坏他を除けば大半は古代のものである。支線16号では、センター杭№７周辺から堀跡に並走する溝跡や、土坑、柱穴等が検出された。これら遺構の時期は遺物から観て１５世紀代が中心と考えられる。なお、支線13号及び支線16号の南側（杭№１～４）では圃場整備事業の影響からか何らの遺構も検出されなかった。

出土遺物　支線15号から須恵器、赤焼土器、土師器。支線16号から古瀬戸瓶子、在地産と考えられる瓷器系陶器、近世陶磁器などがあり、古瀬戸類の製品が注目される。

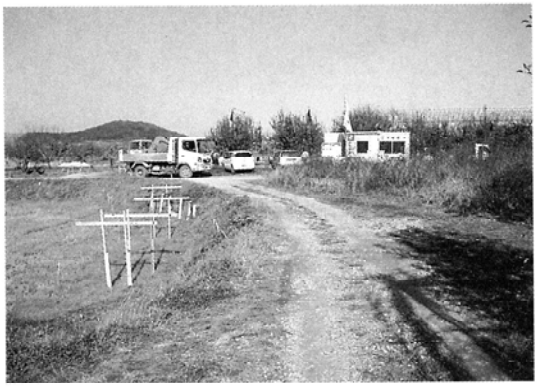
長瀞本楯館跡支線15号北東部調査前状況



長瀞本楯館跡支線16号基点部と堀跡

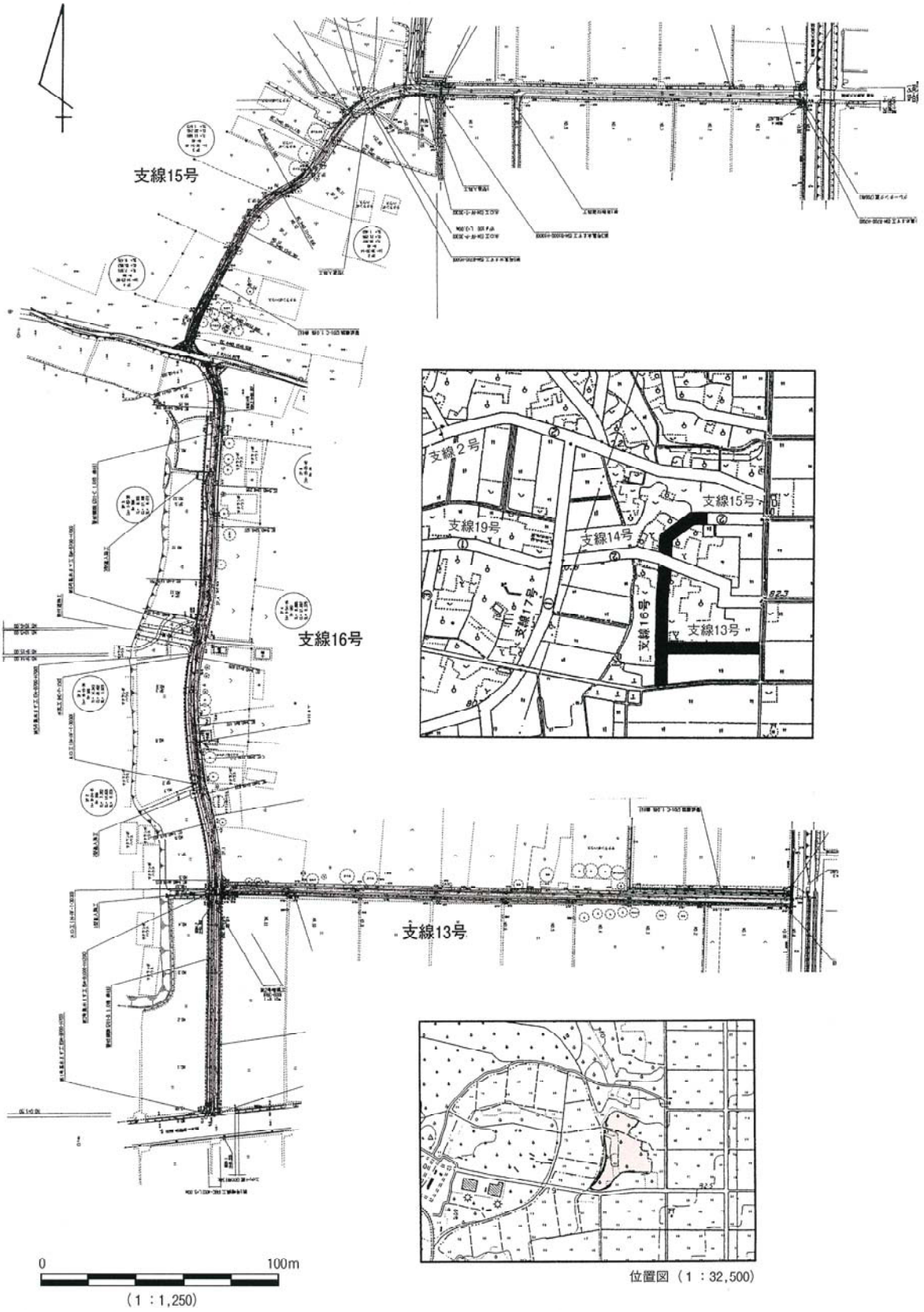


長瀞本楯館跡支線16号中央部と堀跡



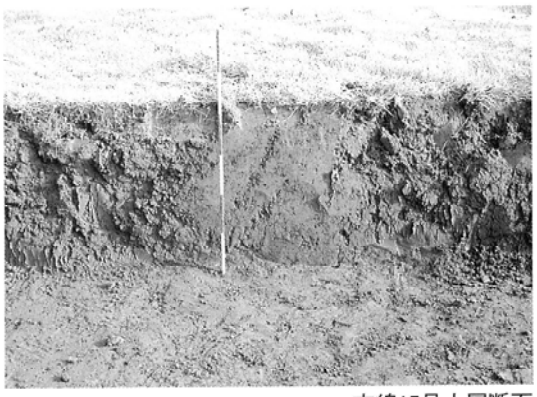
長瀞本楯館跡支線16号基点部と支線15号終点

図版１　長瀞本楯館跡



第１図　長瀞本楯館跡概要図

支線15号北東部遺構確認状況

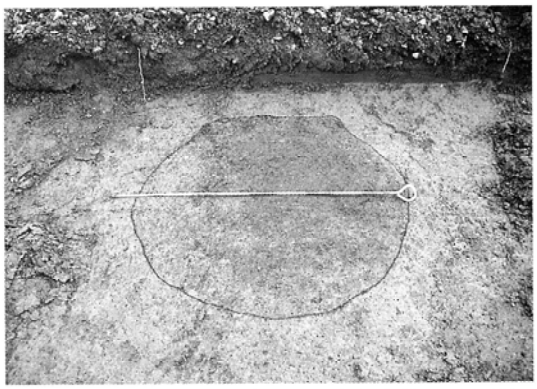


支線15号土層断面

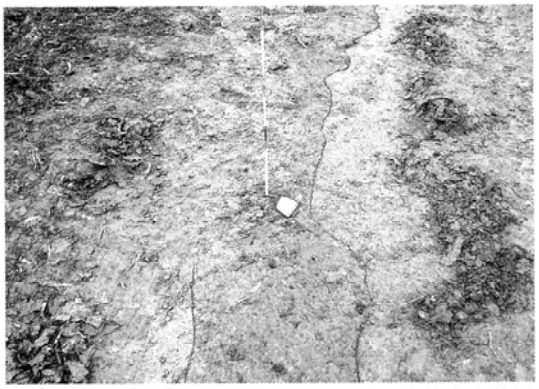
支線15号南端部遺物検出状況

支線15号南端部検出遺構（土坑・柱穴）

支線16号中央部遺物出土状況



支線16号遺構検出状況（土坑）

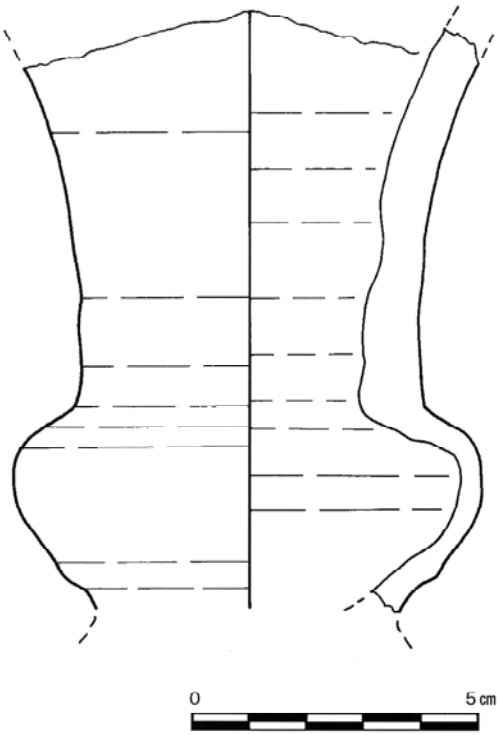


支線16号検出溝跡と遺物出土状況

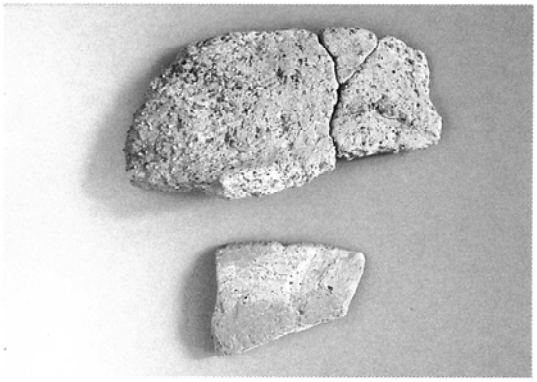
支線16号遺物出土状況（古瀬戸花瓶）

図版２　長瀞本楯館跡

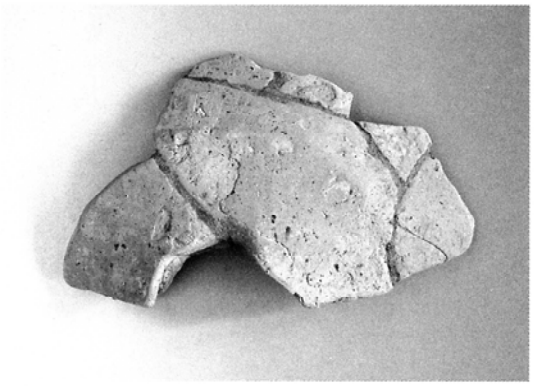
古瀬戸（支線16号RP1 SD2F）



古瀬戸花瓶実測図

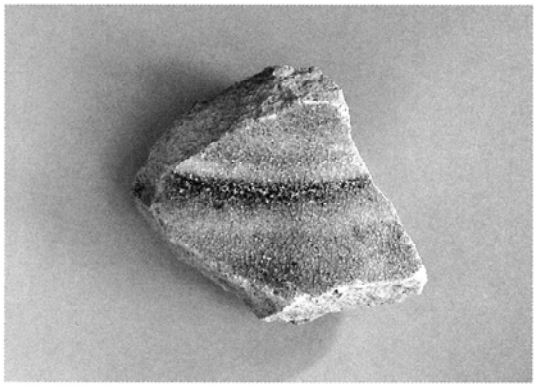


土師器（支線15号No.1　5＋11,7R）



土師器高坏（支線1　5号No.1　5＋11,7R）

古瀬戸（支線16号RPSDF）



古瀬戸壷（支線16号RP5（SDF）

図版３　長瀞本楯館跡

（２）上野（わの）遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県南陽市大字上野字上野

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年12月27日・28日

起因事業　農地環境整備事業(上野地区)

遺跡環境　南陽市街地から北西約1.5ｋｍの台地上に立地する。標高は、235mを測る。地目は、樹園地・畑地及び水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ14ヶ所を設定。

試掘方法　重機及び人力で試掘調査を実施。

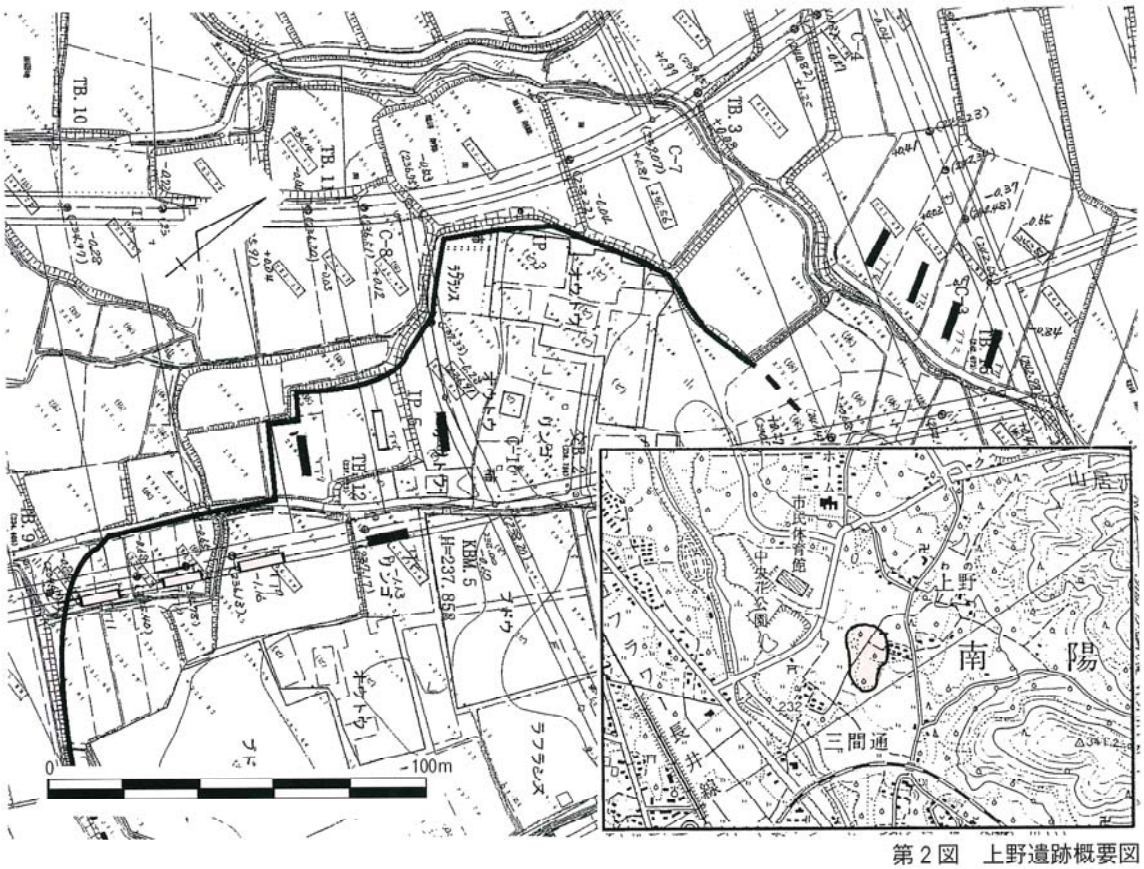
試掘面積　280㎡（対象面積約15,000㎡）

検出遺構　ＴＴ５、ＴＴ８～11の計５本のトレンチから溝・柱穴を検出。遺構・遺物確認面は、35～40cm。

出土遺物　ＴＴ５、ＴＴ８～11から縄文土器片・フレーク、中世陶器出土。

時　　代　縄文時代・中世

所　　見　設定したトレンチ14本のうち５本から溝跡や柱穴が検出された。特にＴＴ８～11からは中世の所産と考えられる柱穴や溝跡が確認されているが、やや希薄である。開田の際削平を受けたと考えられる。残る台地東側を中心とする区域は平成17年度試掘予定。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第２図　上野遺跡概要図

上野遺跡近景

上野遺跡ＴＴ５

上野遺跡ＴＴ６

上野遺跡ＴＴ５土層断面

上野遺跡ＴＴ８全景

上野遺跡ＴＴ８土層断面

上野遺跡ＴＴ８遺物出土状況

上野遺跡ＴＴ８遺物出土状況

図版４　上野遺跡

（３）上の寺（かみのてら）遺跡（平成15年度新規登録）

所　在　地　山形県寒河江市大字慈恩寺字上の寺249・250他

調　査　員　阿部明彦、高橋　敏

調査期日　平成16年８月18～27日（延７日間）

起因事業　農免農道整備事業（寒河江中央地区）

遺跡環境　慈恩寺境内の北東約１kmに位置し、東に張出す丘陵の平坦面を占地する。標高は170～180m内外で、地目は樹園地や畑地などが大半となる。

調　査　区　地形現況と施工計画の路線範囲内に調査区（ＴＴないしＴＰ）を設定した。

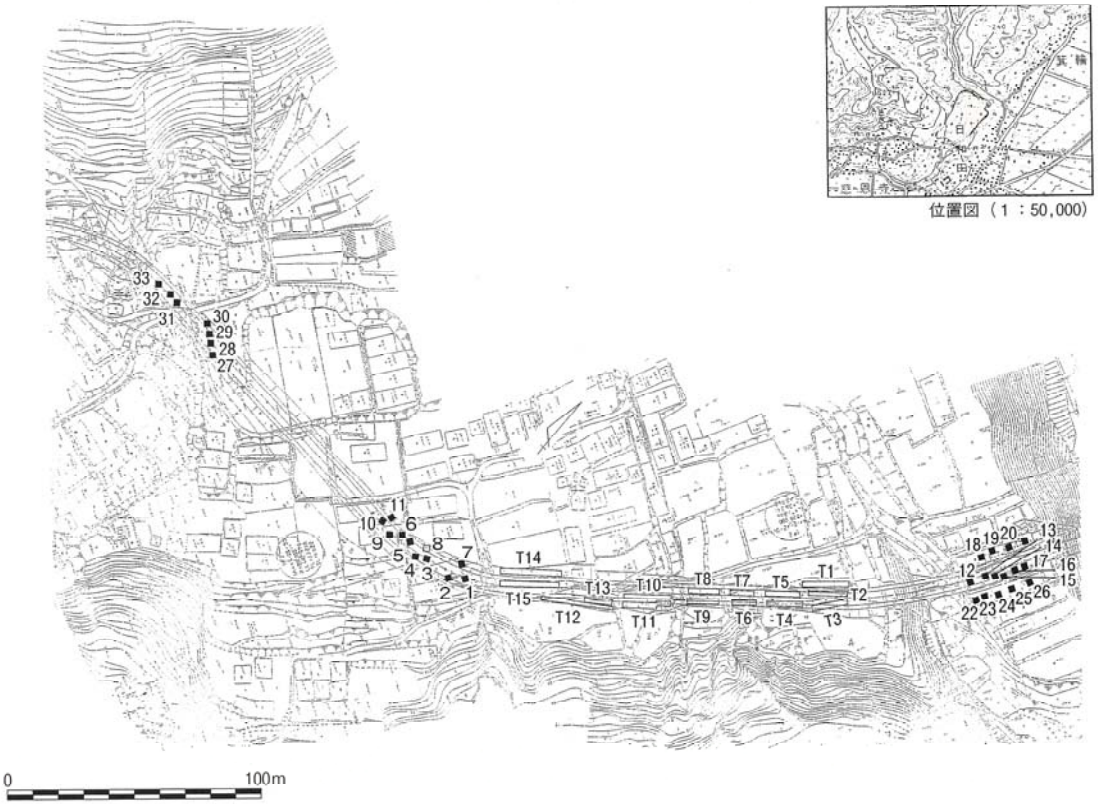
調査方法　重機を用いて対象地の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施した。また、一部の樹園地内では、人力による坪掘（ＴＰ）を行っている。

調査面積　トレンチ調査14箇所：177㎡・坪掘調査：33㎡、計210㎡。

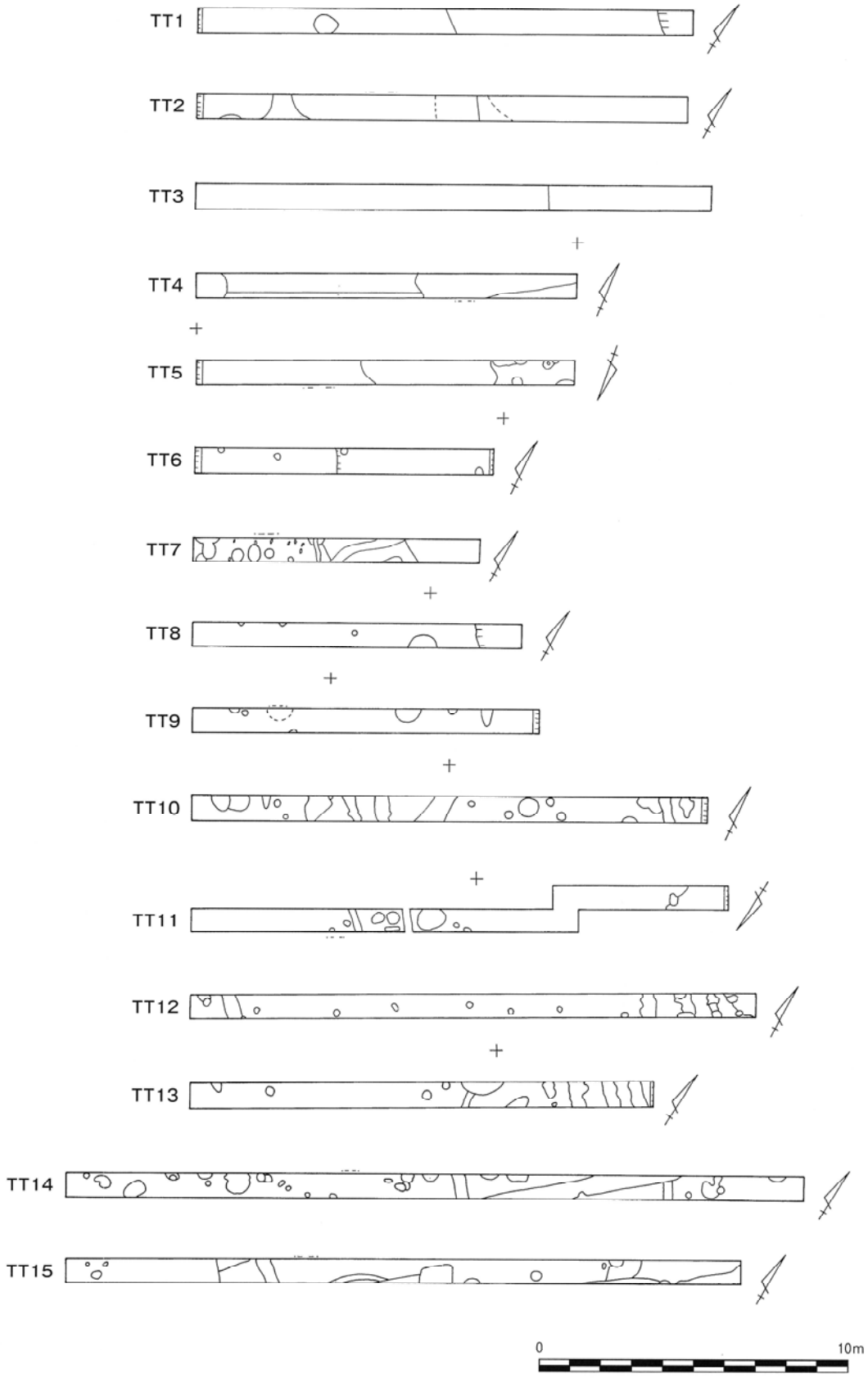
検出遺構　柱穴、土坑、溝、整地層など30基以上。

出土遺物　弥生土器（中期）石器剥片、石核、青磁、中世陶器。なお、ＴＴ13・14トレンチの西側では、須恵器、赤焼土器などが採集される。

所　　見　ＴＰ31～33を除く調査区からは整地層、溝跡、柱穴、土坑、弥生中期の遺物包含層などが確認された。以上の結果から、当該地区は古代から中世にかけての広範な集落跡と考えられる。また、遺構・遺物と地名・伝承なども考え併せれば、その性格は慈恩寺旧境内に存在した聞持院（寺）や薬師寺の所在地であった可能性が高い。



第３図　上の寺遺跡概要図

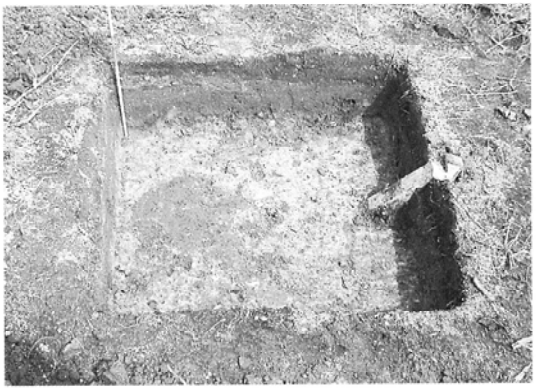


第４図　上の寺遺跡概要図

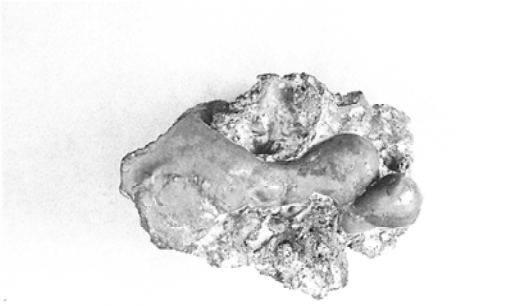
上の寺遺跡検出柱穴（ＴＴ13）

上の寺遺跡ＴＴ14トレンチ全景（南から）

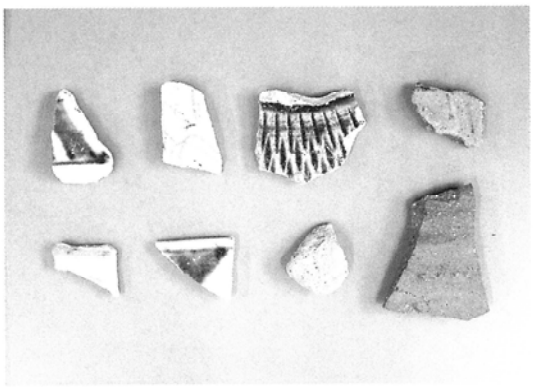
上の寺遺跡検出柱穴と青磁



上の寺遺跡検出柱穴（ＴＰ10）



上の寺遺跡出土鉄滓（ＴＰ７）



上の寺遺跡出土須恵器・陶磁器

上の寺遺跡出土弥生土器（ＴＴ４）

上の寺遺跡出土青磁（ＴＴ14）

図版５　上の寺遺跡

上の寺遺跡調査風景（北から）

上の寺遺跡土器出土状況（ＴＴ4）

上の寺遺跡遺構検出状況（ＴＴ7）

上の寺遺跡ＴＴ12トレンチ全景（南から）

上の寺遺跡柱穴検出状況（ＴＴ13）

図版６　上の寺遺跡

（4）北沢遺跡（平成16年度新規登録）

所　在　地　山形県酒田市北沢

調　査　員　阿部明彦　黒坂雅人（財団法人山形県埋蔵文化財センター）

調査期日　平成16年12月9日～10日

起因事業　広域農道整備事業（飽海中央地区南北線）

遺跡環境　小平4遺跡の南東約0.5km、新井田川上流部の右岸（東側）段丘に立地する。標高75m内外で、地目は畑地および山林である。

調　査　区　地形現況と遺物散布域を考慮して計画農道の範囲内に調査区を設定した。

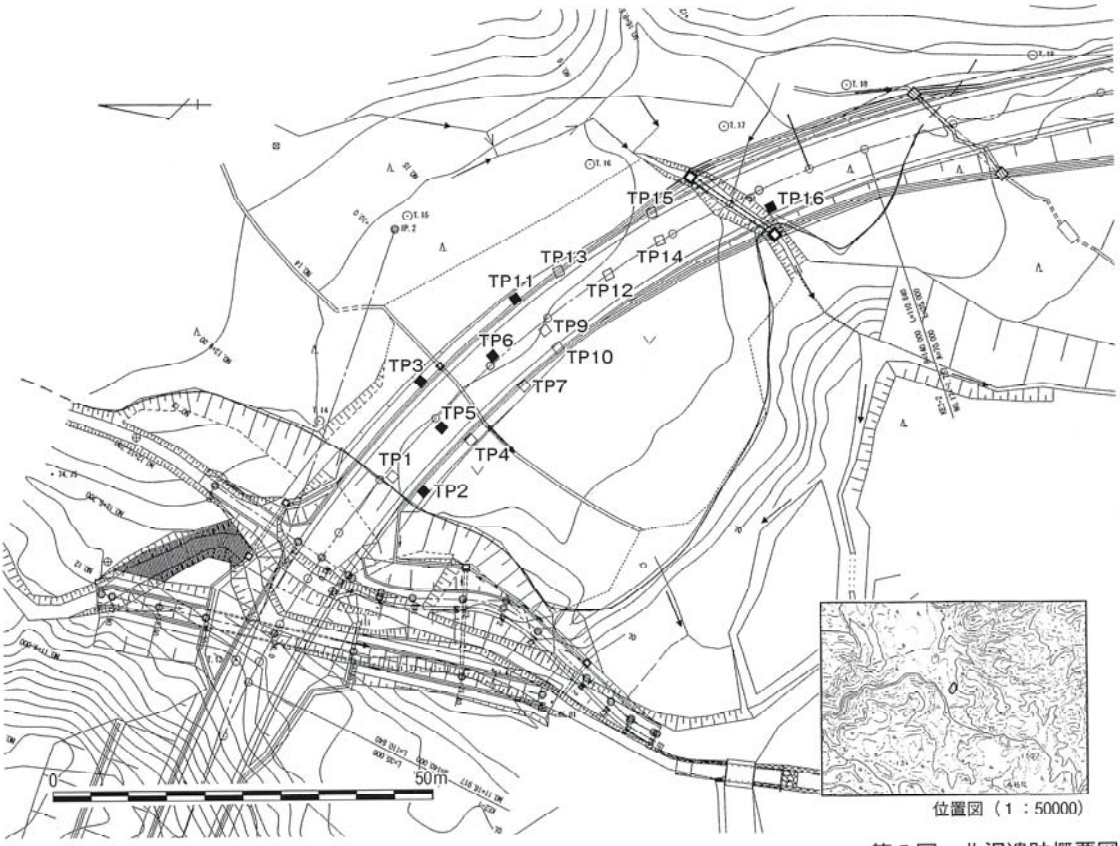
調査方法　センター杭、幅杭に沿って試掘坑（1×1m）を設置し、人力で面整理・面精査を実施した。

調査面積　16箇所の試掘坑、計16㎡。

検出遺構　柱穴、性格不明土坑などの遺構が、TP3・5・6・11・16の5箇所から検出された。

出土遺物　TP1・3・6から縄文土器片（縄文後期）。

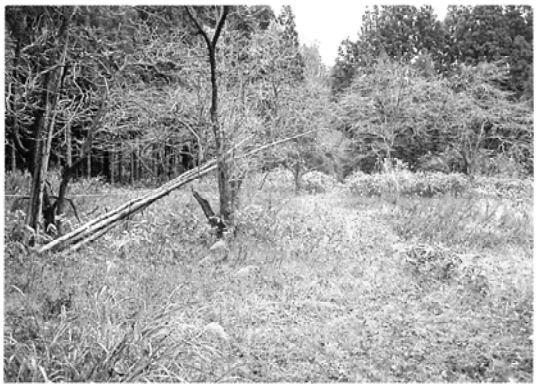
所　　見　西に張出す丘陵の先端部に遺跡が所在すると考えられるが、南側のセンター杭No.14とNo.14＋10m杭の間には隠れ沢があり、遺物の捨て場などが存在することも推測される。なお、遺物の散布を確認できた箇所は、旧畑地部分に限定されるが、遺跡と同等の平坦面はさらに東側山麓へと続いている。



第5図　北沢遺跡概要図

北沢遺跡近景（北から）

北沢遺跡近景（南端部）



北沢遺跡近景（中央部）

北沢遺跡ＴＰ１土層状況（南から）

北沢遺跡出土遺物・表採遺物

図版７　北沢遺跡

（５）石畑（いしばたけ）遺跡（南陽市ＭＩ）

所　在　地　山形県南陽市大字金山

調　査　員　高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年12月13日～14日

起因事業　主要地方道山形南陽線改良事業

遺跡環境　宮内の市街地北東約4.5km、吉野川右岸の河岸段丘の縁辺部に立地する。標高は、287mを測る。地目は、宅地及び畑地である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲及び可能性地１に試掘トレンチ計７ヶ所を設定。

試掘方法　重機＋人力で試掘調査を実施。

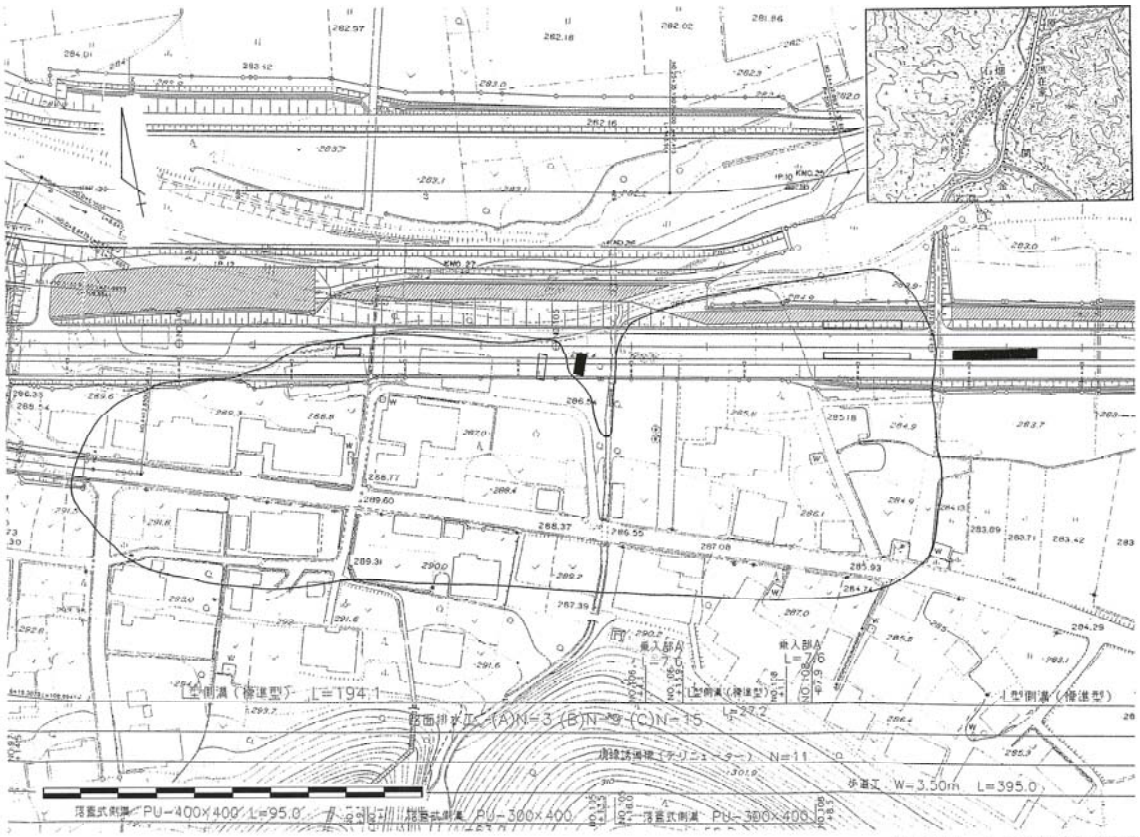
試掘面積　122.3㎡（対象面積約3,000㎡）

検出遺構　石畑遺跡ＴＴ１・２、可能性地１ＴＴ１・２の計４本のトレンチから竪穴状遺構や土坑を検出。遺構・遺物確認面は、15～40cm。

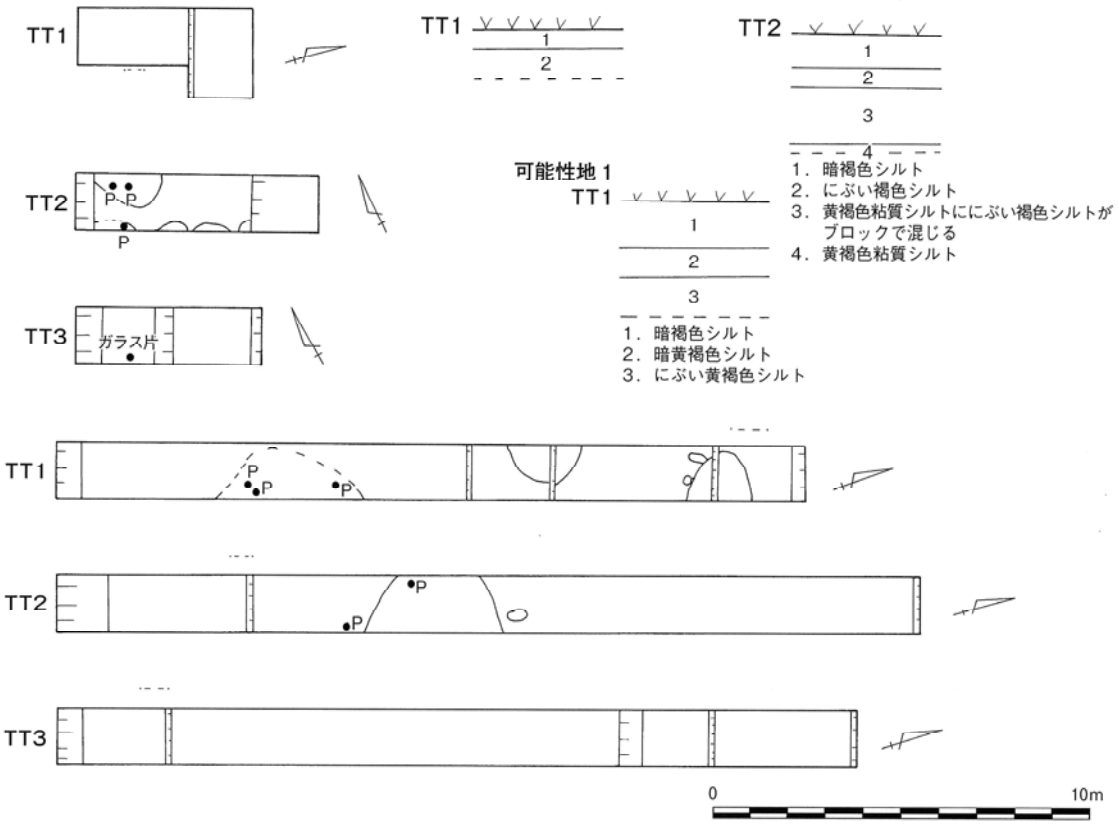
出土遺物　石畑遺跡ＴＴ１・２から縄文・弥生土器片・石器出土、可能性地１ＴＴ１・２から縄文土器片出土。

時　　代　縄文時代後期から晩期、弥生時代

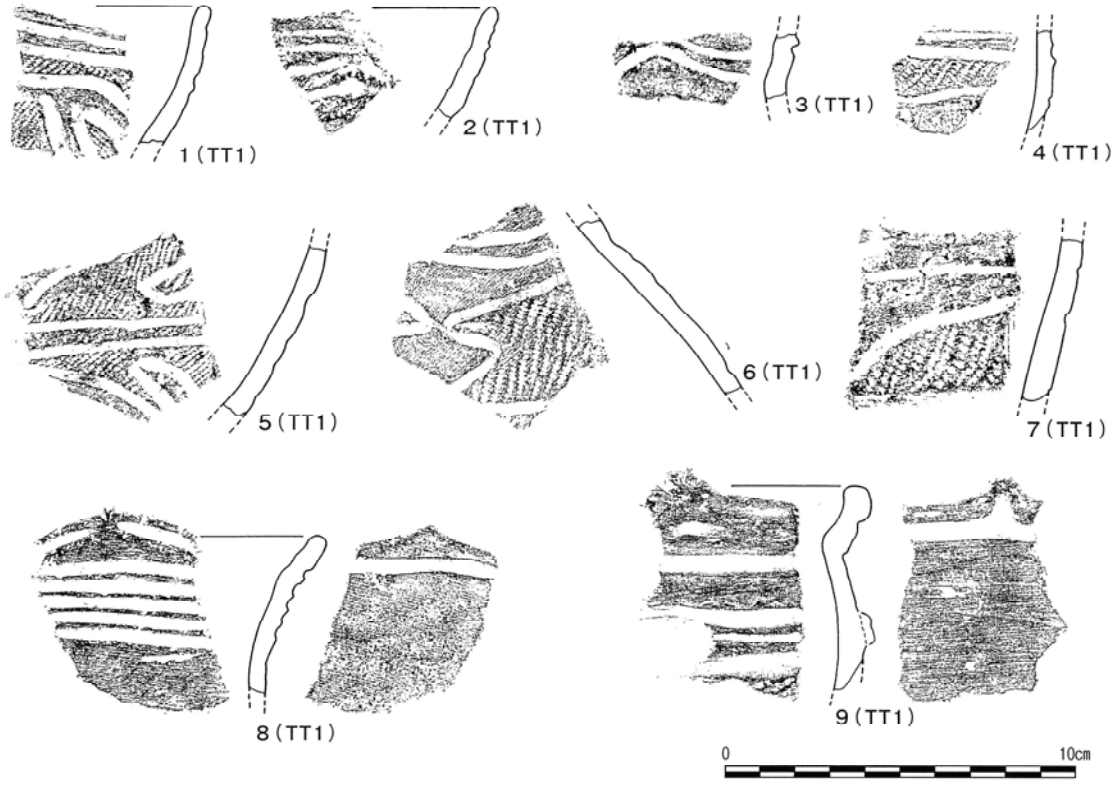
所　　見　石畑遺跡及び可能性地１に設定したトレンチ7本のうち４本から、遺物が出土し、竪穴状遺構や土坑が検出された。可能性地1については、石畑遺跡の南半部分に組み入れることとする。平成18年度山形県埋蔵文化財センター調査予定。



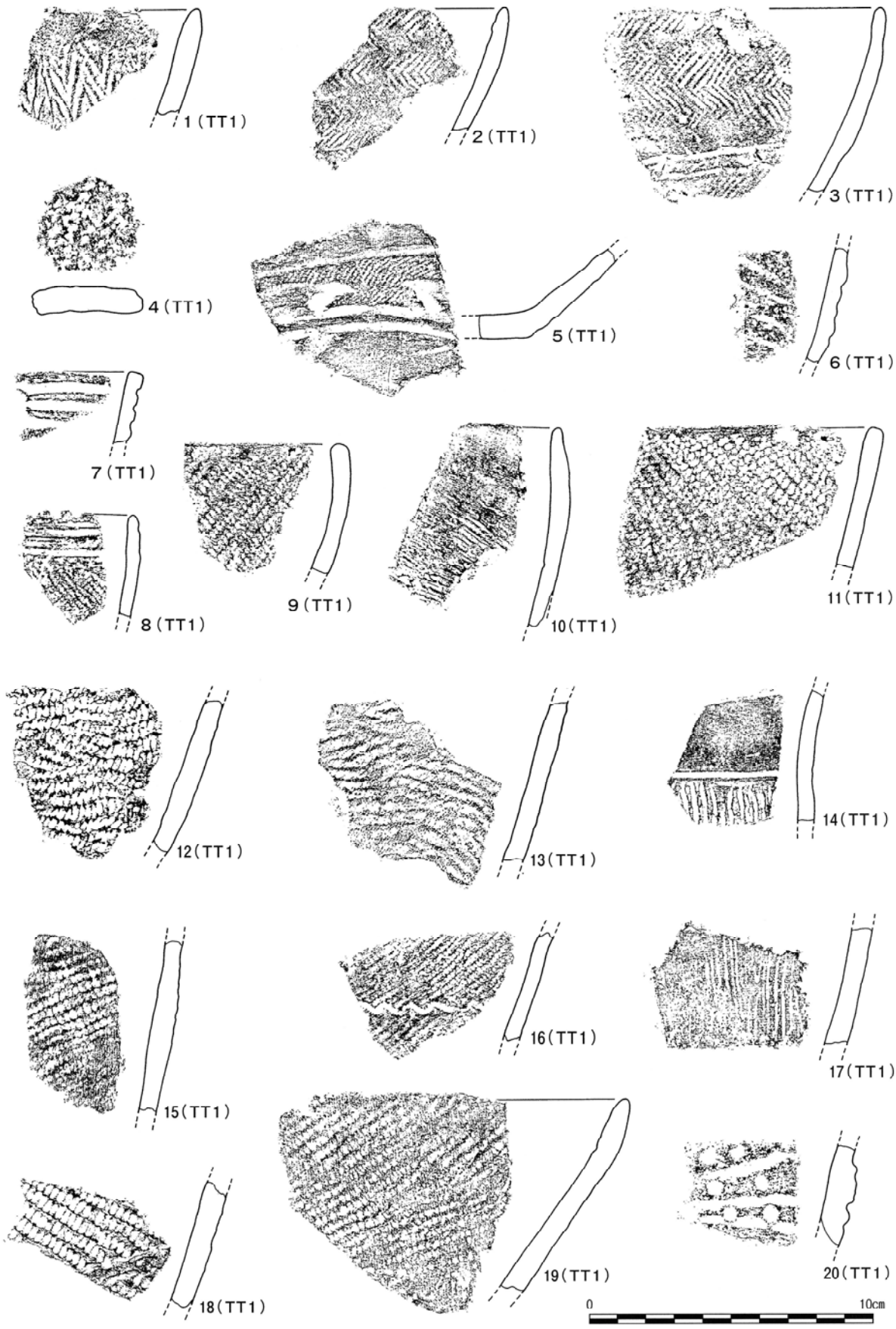
第６図　石畑遺跡概要図



第７図　石畑遺跡平面・断面略図



第８図　石畑遺跡出土土器拓影図（１）

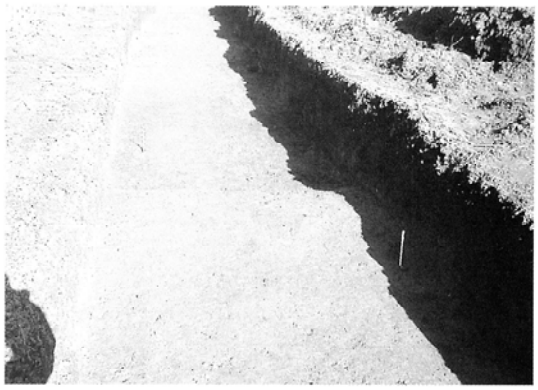


第９図　石畑遺跡出土土器拓影図（２）

石畑遺跡近景

石畑遺跡ＴＴ１遺物出土状況

石畑遺跡ＴＴ１土層断面



石畑遺跡（可能性地）ＴＴ２

石畑遺跡出土土器

石畑遺跡出土土器

石畑遺跡出土縄文土器

石畑遺跡出土石器（石鏃）

図版８　石畑遺跡

（６）八幡西（はちまんにし）遺跡（平成９度登録）

所　在　地　山形県川西町大字西大塚字八幡西

調　査　員　高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年12月15日～16日

起因事業　一般国道287号長井南バイパス道路改良事業

遺跡環境　公立置賜病院の南約500m、最上川左岸の河岸段丘に立地する。標高は、211mを測る。地目は、宅地及び畑地である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ１１ヶ所を設定。

試掘方法　重機＋人力で試掘調査を実施。

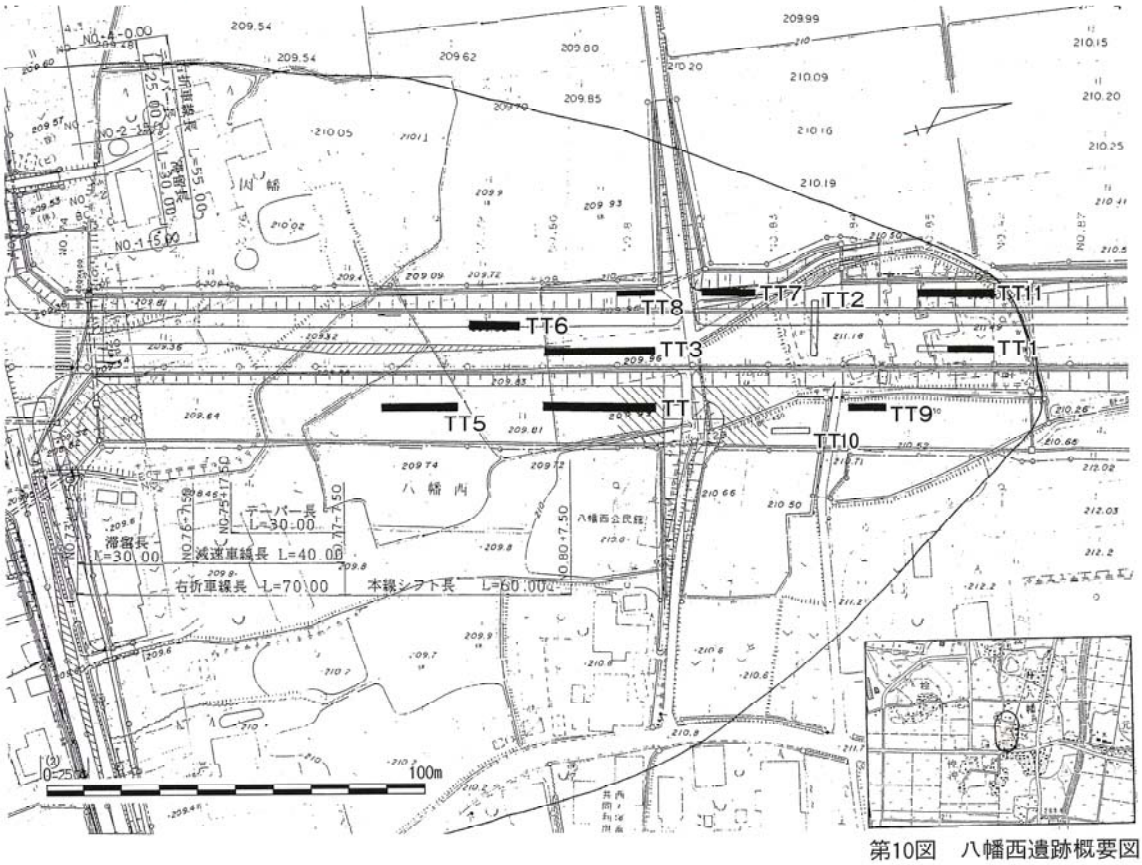
試掘面積　290㎡（対象面積約9,600㎡）

検出遺構　ＴＴ１・ＴＴ２の２本のトレンチから柱穴や土坑を検出。遺構・遺物確認面は、5～25cm。

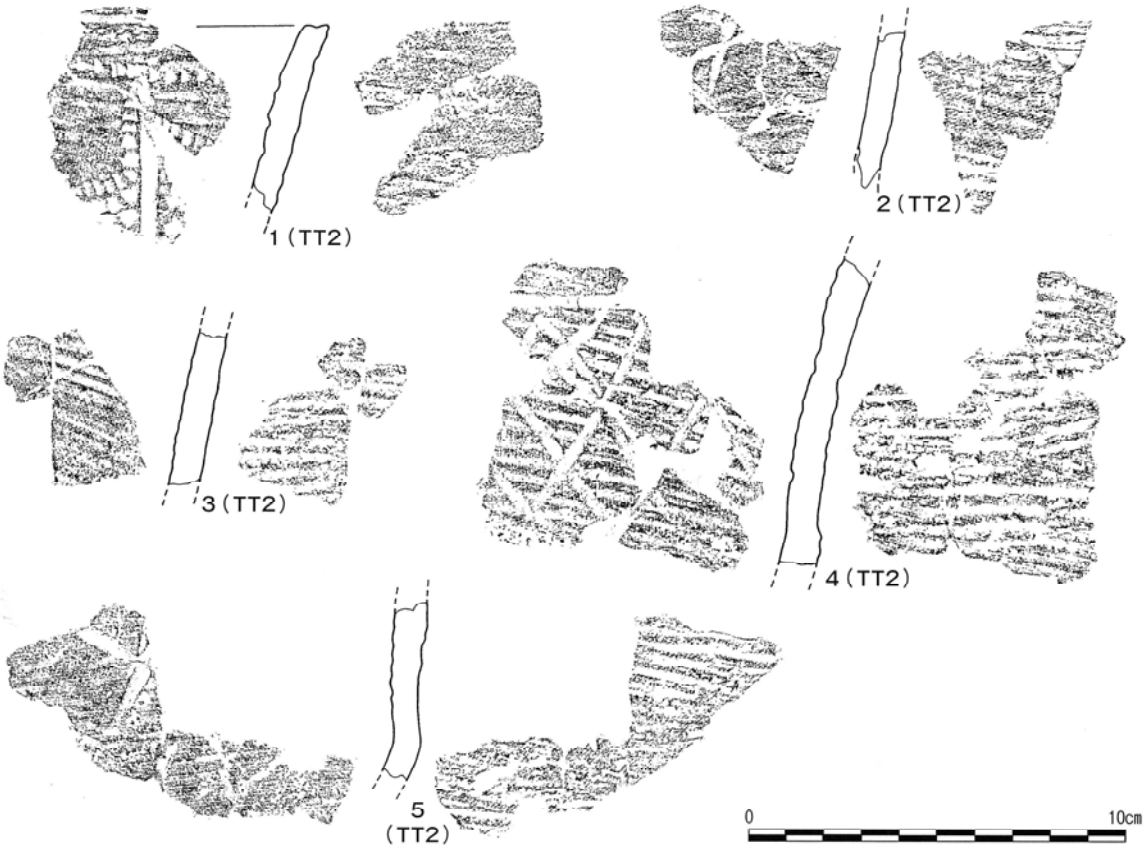
出土遺物　ＴＴ２から縄文時代早期の土器片出土。

時　　代　縄文時代早期

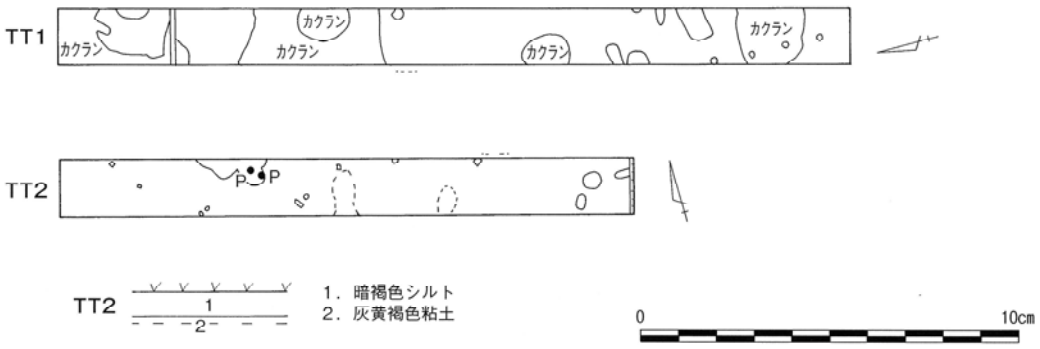
所　　見　旧宅地であった小規模な微高地の2本のトレンチから、土坑や不整形の落ち込みが検出され、縄文時代早期の土器片が出土した。その確認状況により、埋蔵文化財包蔵地と考えられるが、宅地造成や開田などである程度削平されたと思われる。



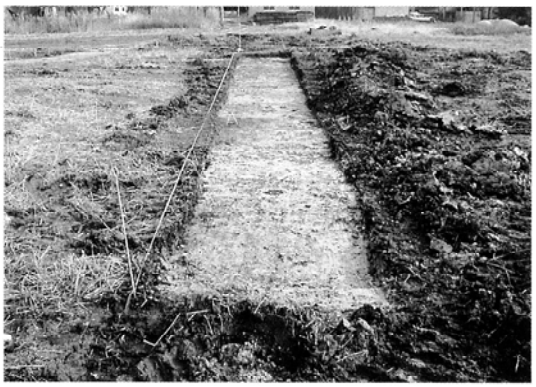
第10図　八幡西遺跡概要図



第11図　八幡西遺跡出土土器拓影



第12図　八幡西遺跡平面・断面略図



八幡西遺跡ＴＴ２全景

八幡西遺跡出土土器

図版９　八幡西遺跡

（７）山形城三の丸跡（山形県中世城館遺跡調査報告書第２集）

所　在　地　山形県山形市十日町一丁目７番13号

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年11月９日・平成17年2月25日

起因事業　ＰＦＩによる県営住宅鈴川団地移転建替等事業

遺跡環境　山形市街地のほぼ中心、山形中央郵便局の西側隣接地に立地する。標高は、145mを測る。地目は、住宅地である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ２ヶ所、試掘坑６ヶ所を設定。

試掘方法　重機及び人力で試掘調査を実施。

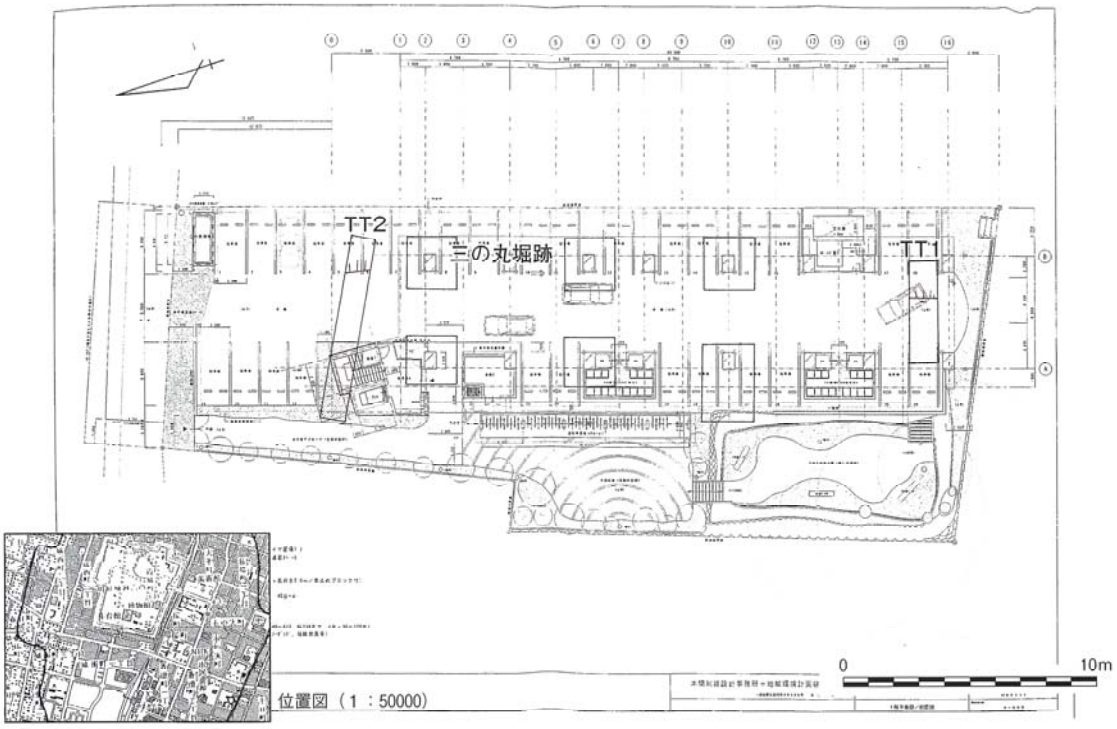
試掘面積　146.4㎡（対象面積約720㎡）

検出遺構　ＴＴ１・２、ＴＰ２から堀跡と考えられる落ち込み、ＴＰ１～６の計５本のトレンチから近現代のごみ穴検出。遺構・遺物確認面は、－190～200cm。

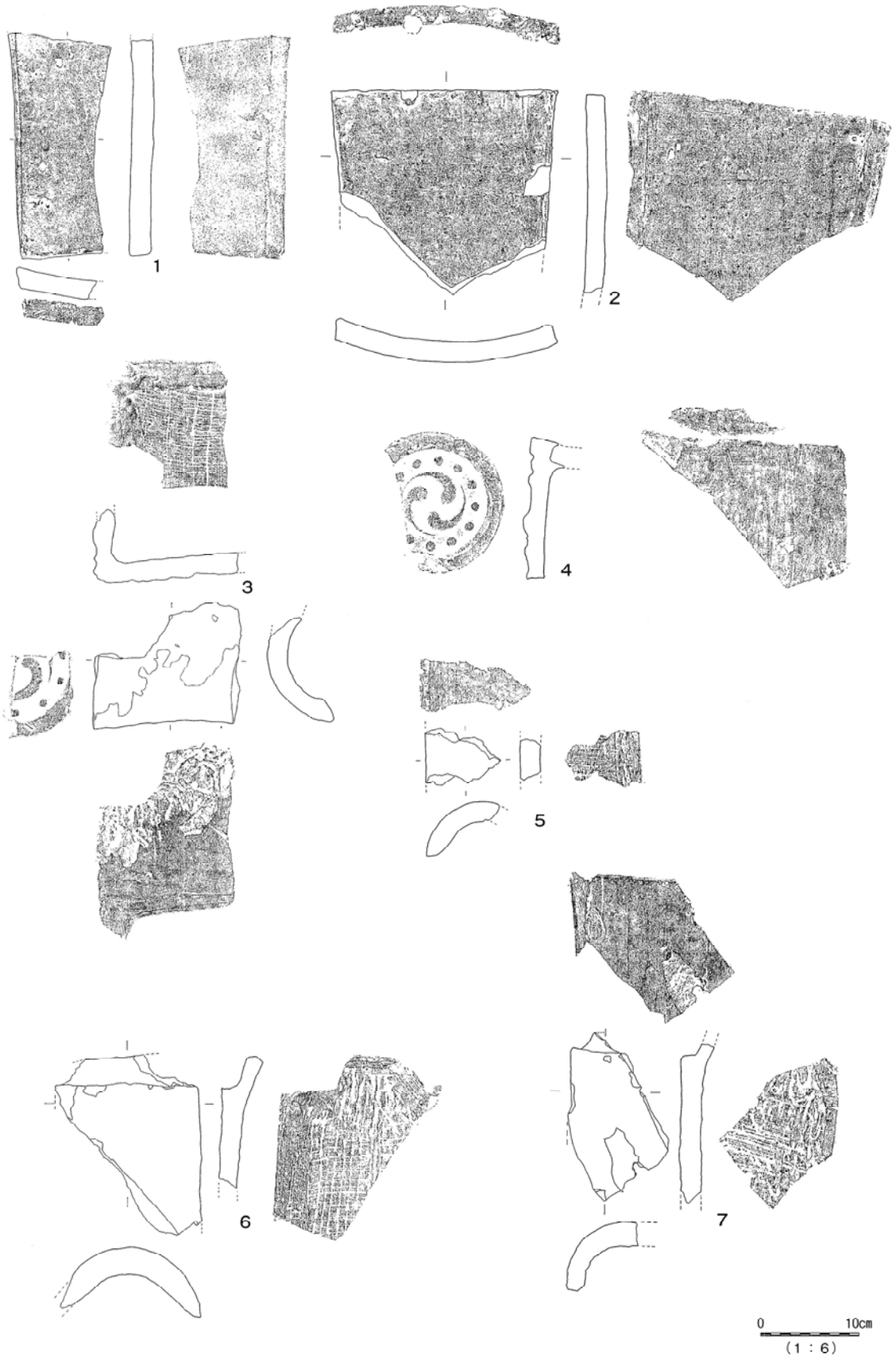
出土遺物　ＴＴ２から瓦、他のトレンチ及び試掘坑から近現代陶器多数出土。

時　　代　江戸時代

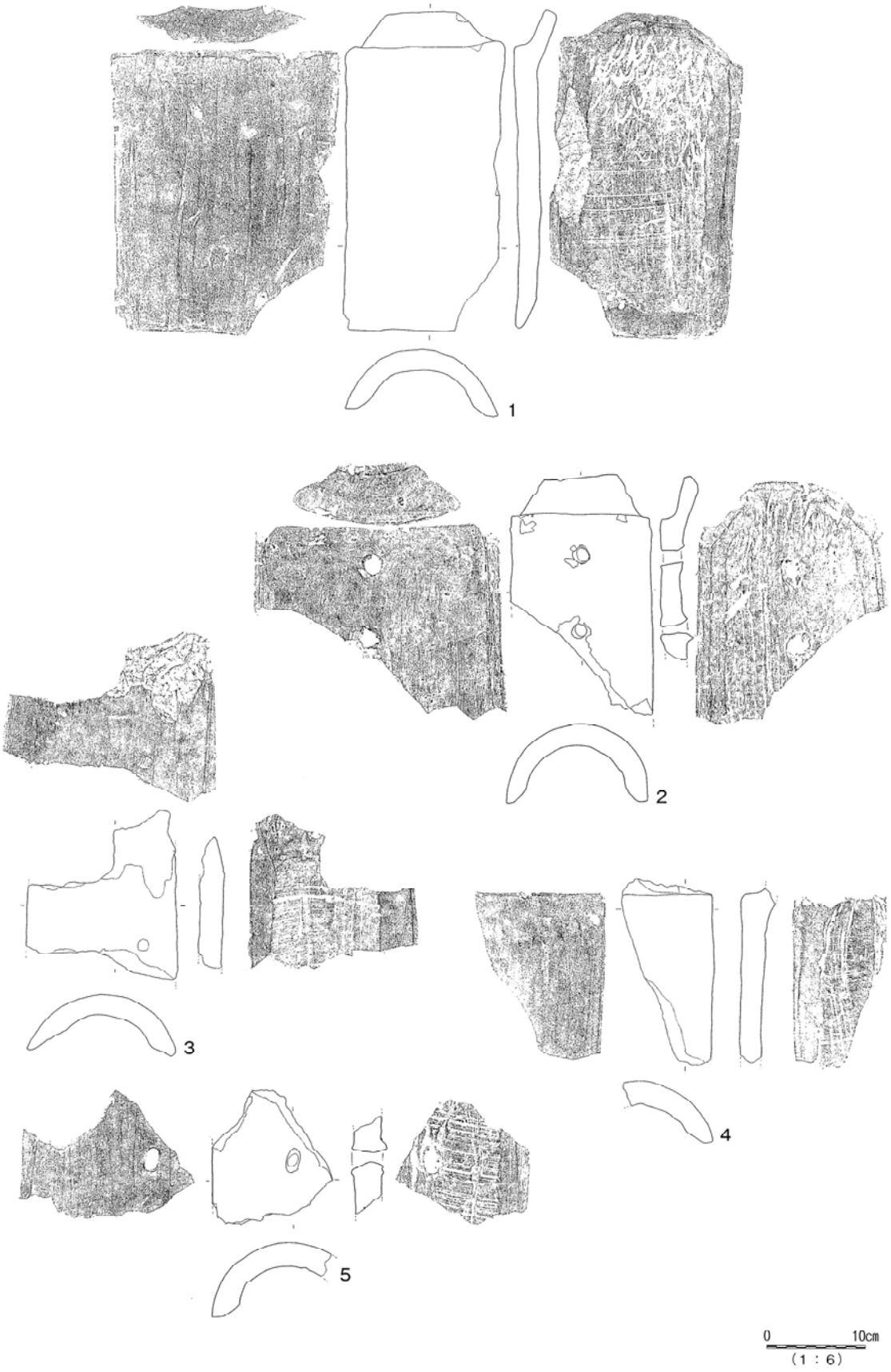
所　　見　設定したトレンチ２本から山形城三の丸の堀跡と考えられる落ち込みが検出された。特にＴＴ２からは、横町口と称される門に由来すると考えられる瓦片が落ち込みの傾斜面から多く出土した。また、近現代陶磁器片が夥しい量出土したが、旧地権者である明治以来の陶器店に由来するものと判断された。



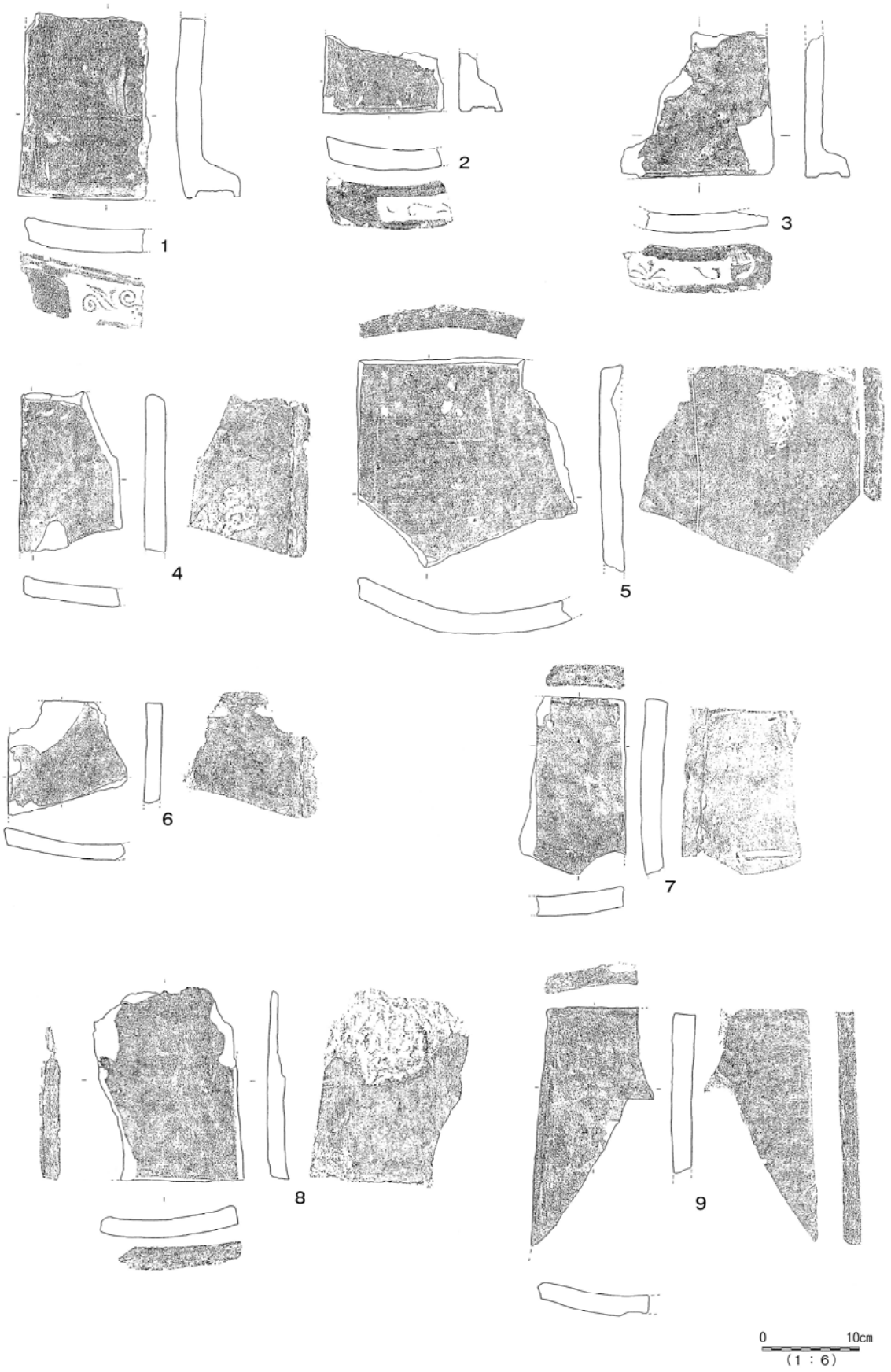
第13図　山形城三の丸跡概要図



第14図　山形城三の丸跡出土瓦（1）



第15図　山形城三の丸跡出土瓦（2）



第16図　山形城三の丸跡出土瓦（3）

（８）庚壇（かのえだん）遺跡（平成８年度登録）

所　在　地　山形県南陽市大字長瀞

調　査　員　高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年11月25日～26日

起因事業　一般国道113号赤湯バイパス改築事業

遺跡環境　宮内の市街地南西約2.5km、織機川左岸の自然堤防上に立地する。標高は、222mを測る。地目は、樹園地及び水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ５ヶ所を設定。

試掘方法　重機＋人力で試掘調査を実施。

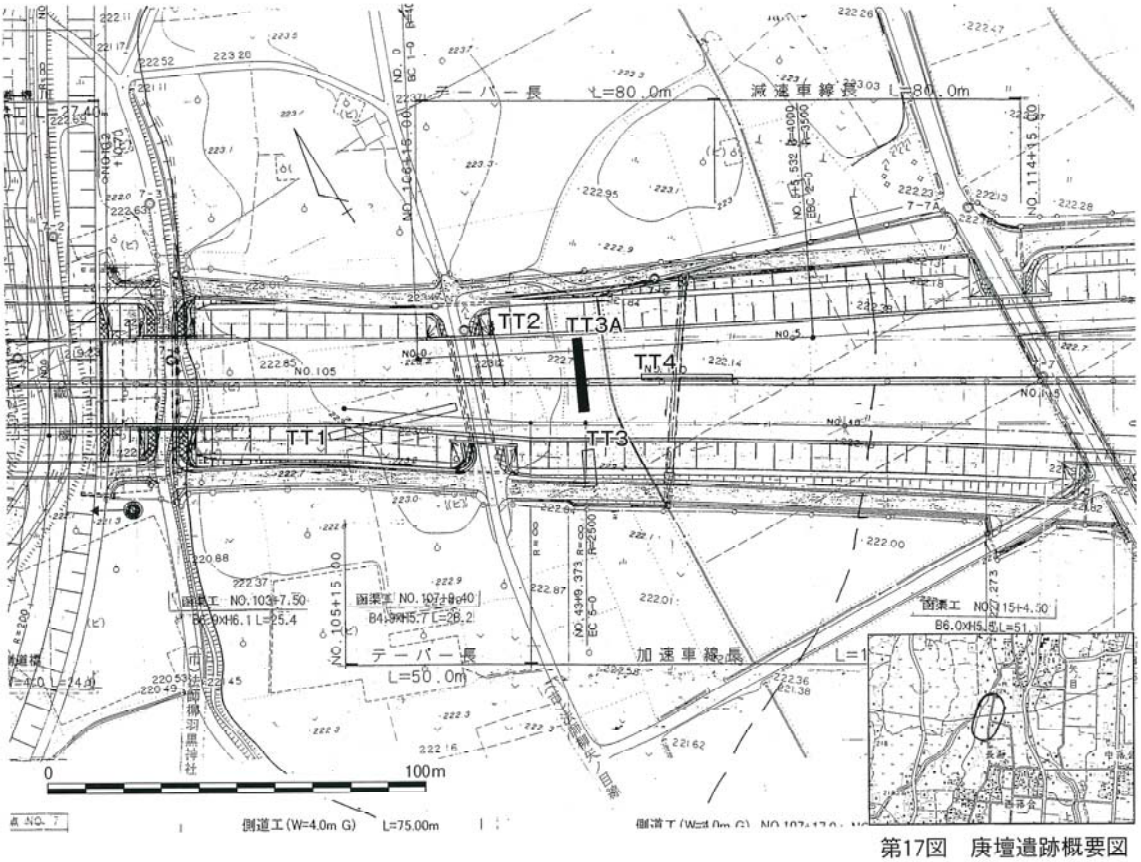
試掘面積　167㎡（対象面積約12,000㎡）

検出遺構　ＴＴ１・２・３Ｂ・４の計４本のトレンチから竪穴状遺構や溝・柱穴を検出。遺構・遺物確認面は、－15～40cm。

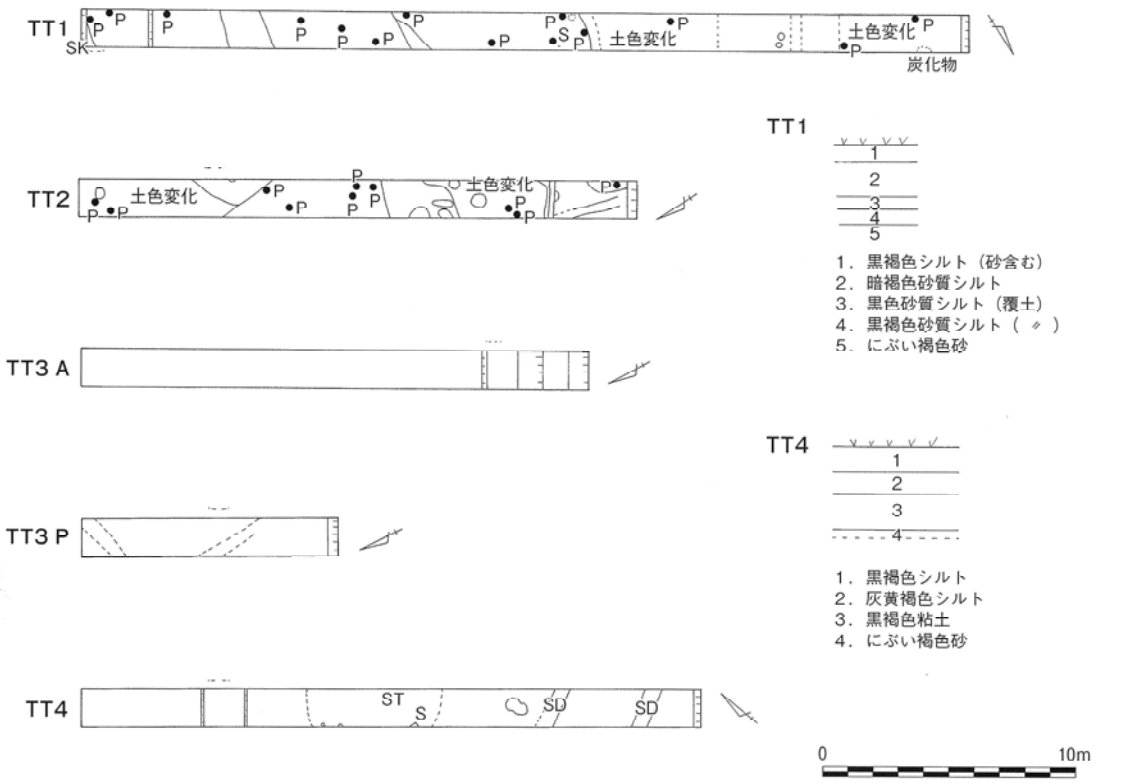
出土遺物　ＴＴ１・２から須恵器・土師器出土、ＴＴ４から縄文土器片出土。

時　　代　縄文時代・平安時代

所　　見　トレンチ５本のうち４本から溝跡や柱穴が検出された。ＴＴ１・２から平安時代の土器とともに竪穴住居と考えられる土色変化や柱穴が、ＴＴ４からは土色変化の範囲から平石と縄文が施文される土器片が出土した。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第17図　庚壇遺跡概要図

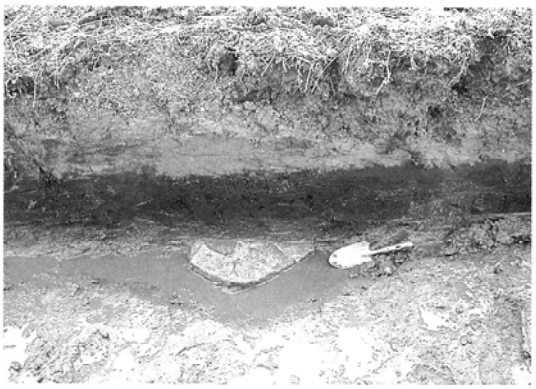


第18図　庚壇遺跡平面・断面略図

庚壇遺跡全景

庚壇遺跡ＴＴ１全景

庚壇遺跡ＴＴ４全景



庚壇遺跡ＴＴ４遺物出土状況

図版10　庚壇遺跡

（９）百刈田（ひゃくかりだ）遺跡（平成14年度登録）

所　在　地　山形県南陽市大字島貫字百刈田

調　査　員　高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年10月6日

起因事業　国道113号赤湯バイパス改築事業

遺跡環境　市街地南側約500m、東西に位置するＪＲ奥羽本線と市立沖郷小学校間の沖積地に立地する。標高は、217mを測る。地目は、樹園地である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ３ヶ所を設定。

試掘方法　重機＋人力で試掘調査を実施。

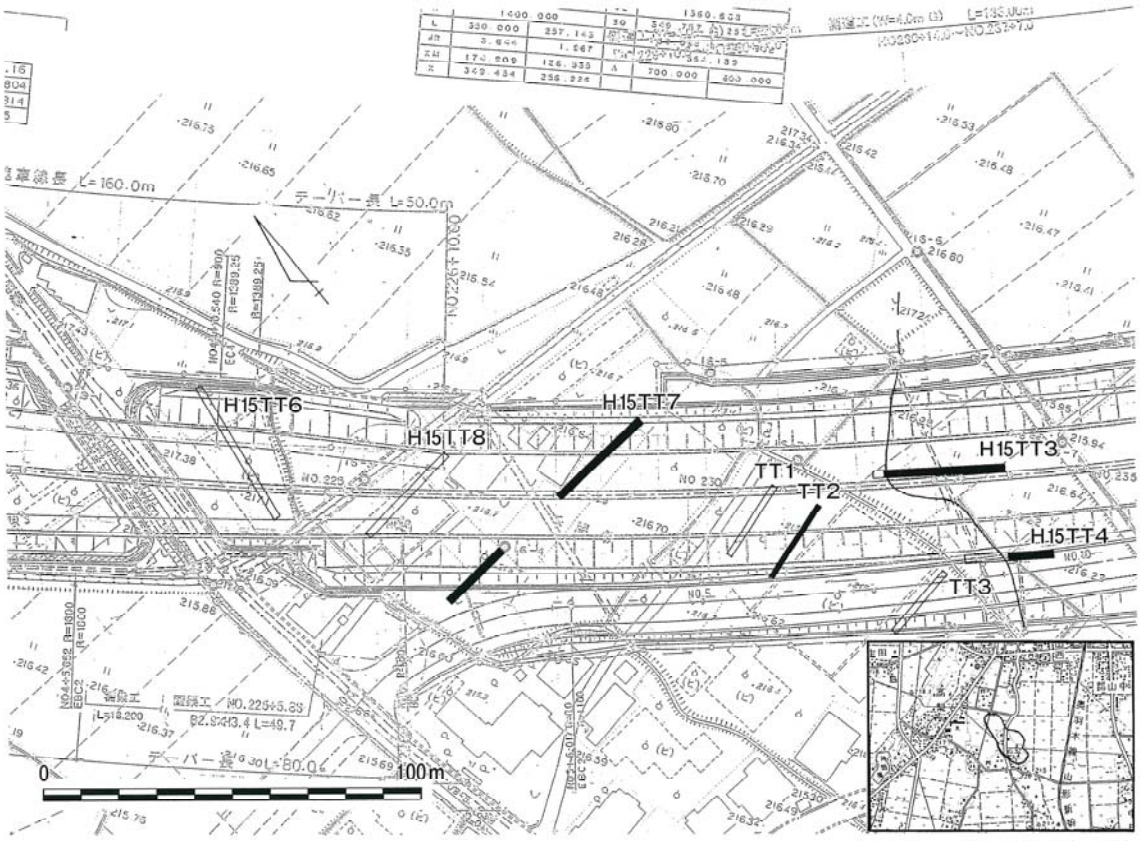
試掘面積　62.2㎡（対象面積約6,200㎡）

検出遺構　ＴＴ１・３からピット・溝跡を検出。遺構・遺物確認面は、30～40cm。

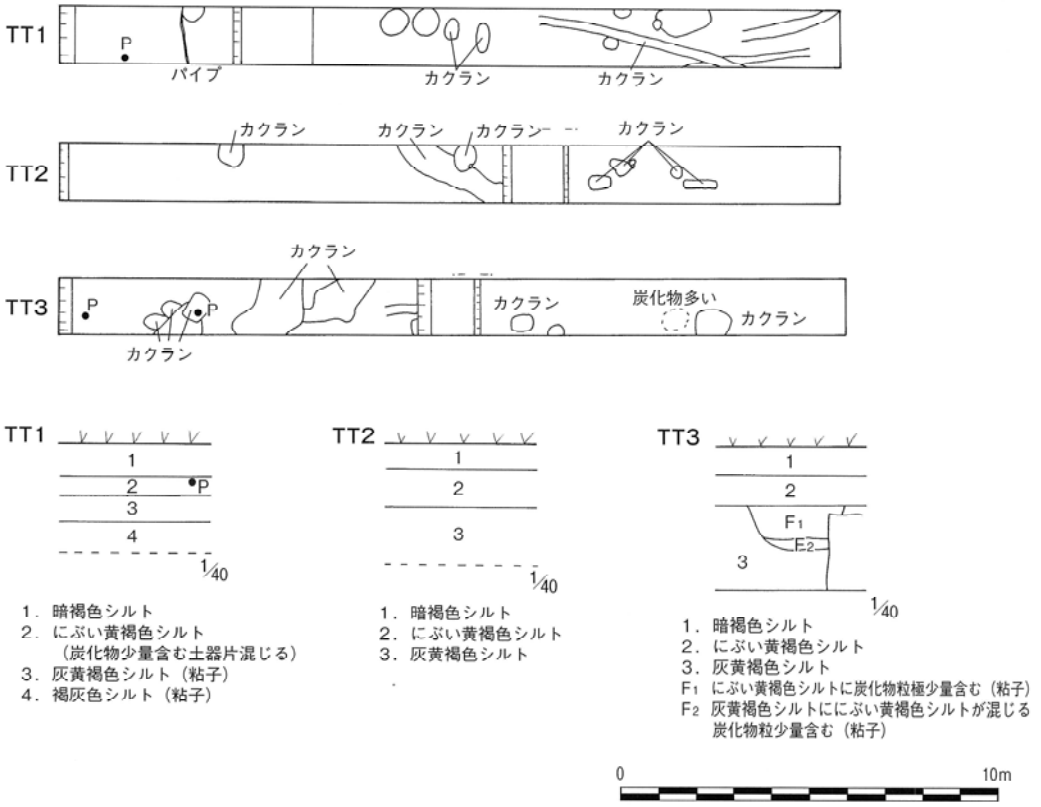
出土遺物　ＴＴ１・３から須恵器・土師器片出土。

時　　代　奈良・平安時代

所　　見　昨年度未調査であった樹園地地区にも遺跡範囲が及ぶことが確認された。事業に係る範囲については、記録保存が必要と判断される。ＴＴ８南側の樹園地は試掘未実施であり、用地交渉がまとまり次第、次年度以降試掘調査が必要である。平成17年度（財）山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第19図　百刈田遺跡概要図



第20図　百刈田遺跡平面・断面略図

百刈田遺跡全景

百刈田遺跡ＴＴ１全景

百刈田遺跡ＴＴ３全景

百刈田遺跡ＴＴ３柱穴・断面

図版11　百刈田遺跡

(10)川前飛地遺跡（平成13年度新規登録）

所　在　地　山形県東村山郡中山町長崎川前

調　査　員　阿部明彦　高橋　敏

調査期日　平成16年10月18日～19日

起因事業　須川河川改修（下流部）

遺跡環境　山形市の中野目赤坂地区南方約１㎞、須川左岸の自然堤防上に立地する。標高93mラインより上部に遺跡が所在し、東西40m×南北100m以上の範囲と推測される。

調　査　区　現堤体内に計画された河道掘削予定範囲を対象として調査区を設定した。

調査方法　蛇行による張出部の中央を中心としてトレンチを設定し、重機を用いて表土を除去した後、人力で面整理・面精査を実施した。

調査面積　ＴＴ１～ＴＴ５の５箇所の試掘トレンチ、計94㎡。

検出遺構　柱穴、土坑、竪穴建物、焼土遺構、性格不明土坑などの遺構がすべてのトレンチから検出された。なお、上層には中世の遺構面が検出された部分もある。

出土遺物　ＴＴ１～ＴＴ５の５箇所のトレンチすべてから須恵器、赤焼土器などの平安時代を中心とする遺物が検出された。

所　　見　遺構と遺物の年代から南接する達磨寺遺跡や、対岸の上敷免遺跡などと密接に関連する遺跡であることが推測される。なお、本遺跡については、平成13年にも一度試掘された経緯があり、その時点では「Ａ地区は遺跡名の検討を要する」とされていた。

(10)上敷免遺跡（平成16年度新規登録）

所　在　地　山形県山形市成安字上敷免

調　査　員　阿部明彦　高橋　敏

調査期日　平成16年10月20日

起因事業　須川河川改修（下流部）

遺跡環境　山形市成安地区の西方約１㎞、須川右岸の自然堤防上に立地する。遺跡は蛇行する須川の流路に縁取られて西に張出す台地上を占地し、標高は93m内外である。遺跡範囲は北側および南側の限りが不明ながら、東は現堤体付近までと推察され、東に向かうにつれて遺構面の低下する様子が確認された。旧川道跡や自然堤防に接する低湿地帯の存在が推測される。

調　査　区　現堤体内に計画された河道掘削予定範囲を対象として調査区を設定した。

調査方法　蛇行による張出部の中央を中心としてトレンチを設定し、重機を用いて表土を除去した後、人力で面整理・面精査を実施した。

調査面積　Ｔ２－Ａ・Ｂ・Ｃ、Ｔ３－Ａ・Ｂ・Ｃの６箇所の試掘トレンチ、計90㎡。

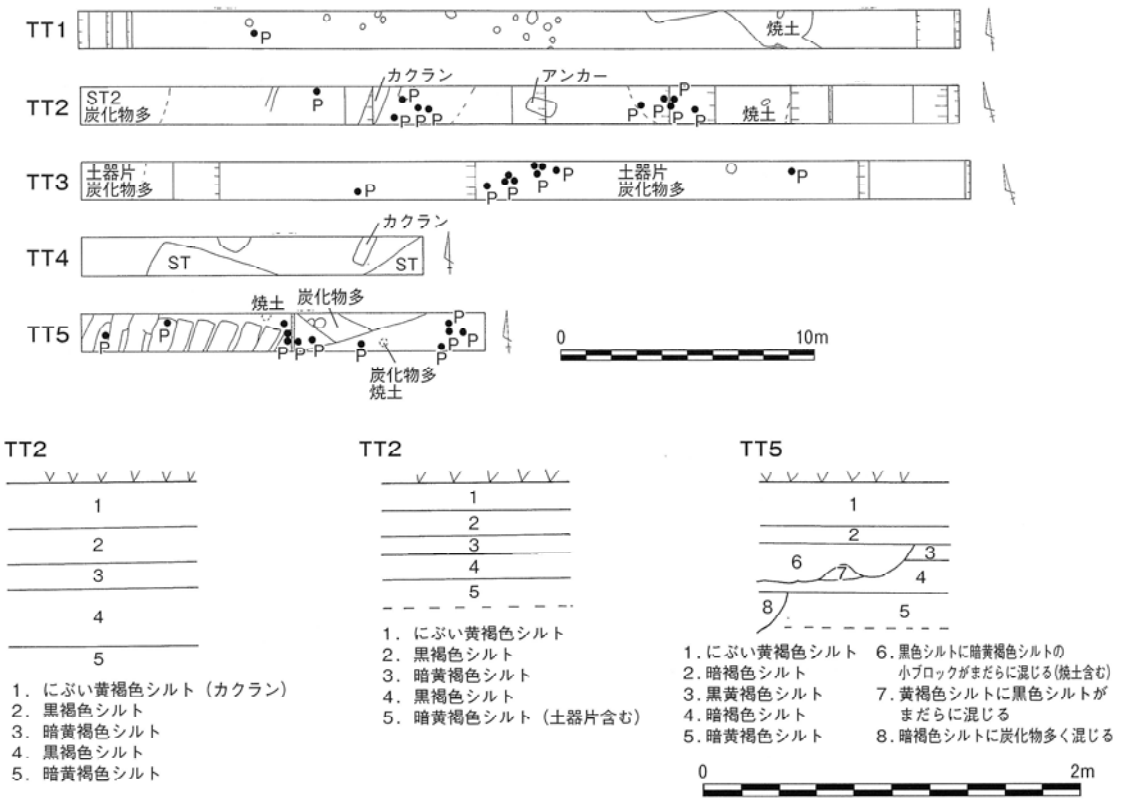
検出遺構　柱穴、土坑、竪穴建物、焼土遺構などの遺構がＴ２の各トレンチから検出された。なお、Ｔ３列では遺構・遺物共に希薄であった。

出土遺物　Ｔ２列の３箇所およびＴ３－Ｂのトレンチから須恵器、赤焼土器などの平安時代を中心とする遺物が検出された。

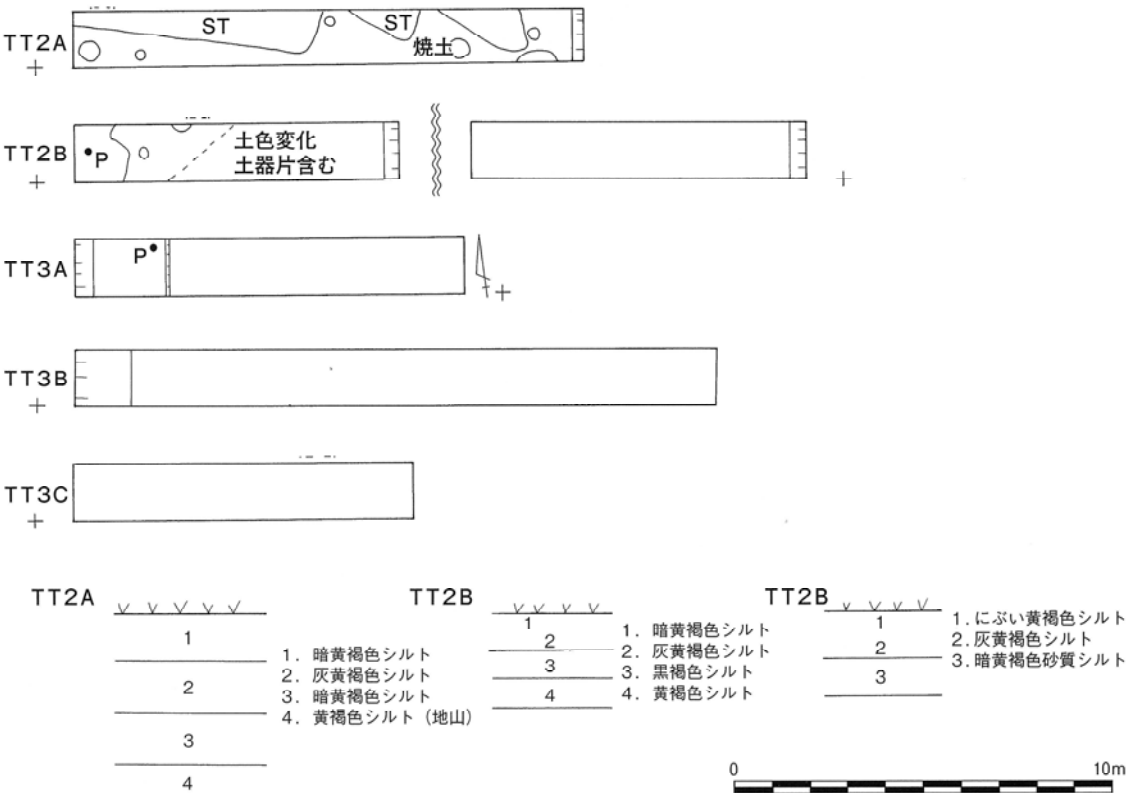
第21図　川前飛地遺跡・上敷免遺跡概要図

川前２・川前飛地・上敷免・達磨寺遺跡空中写真

図版12

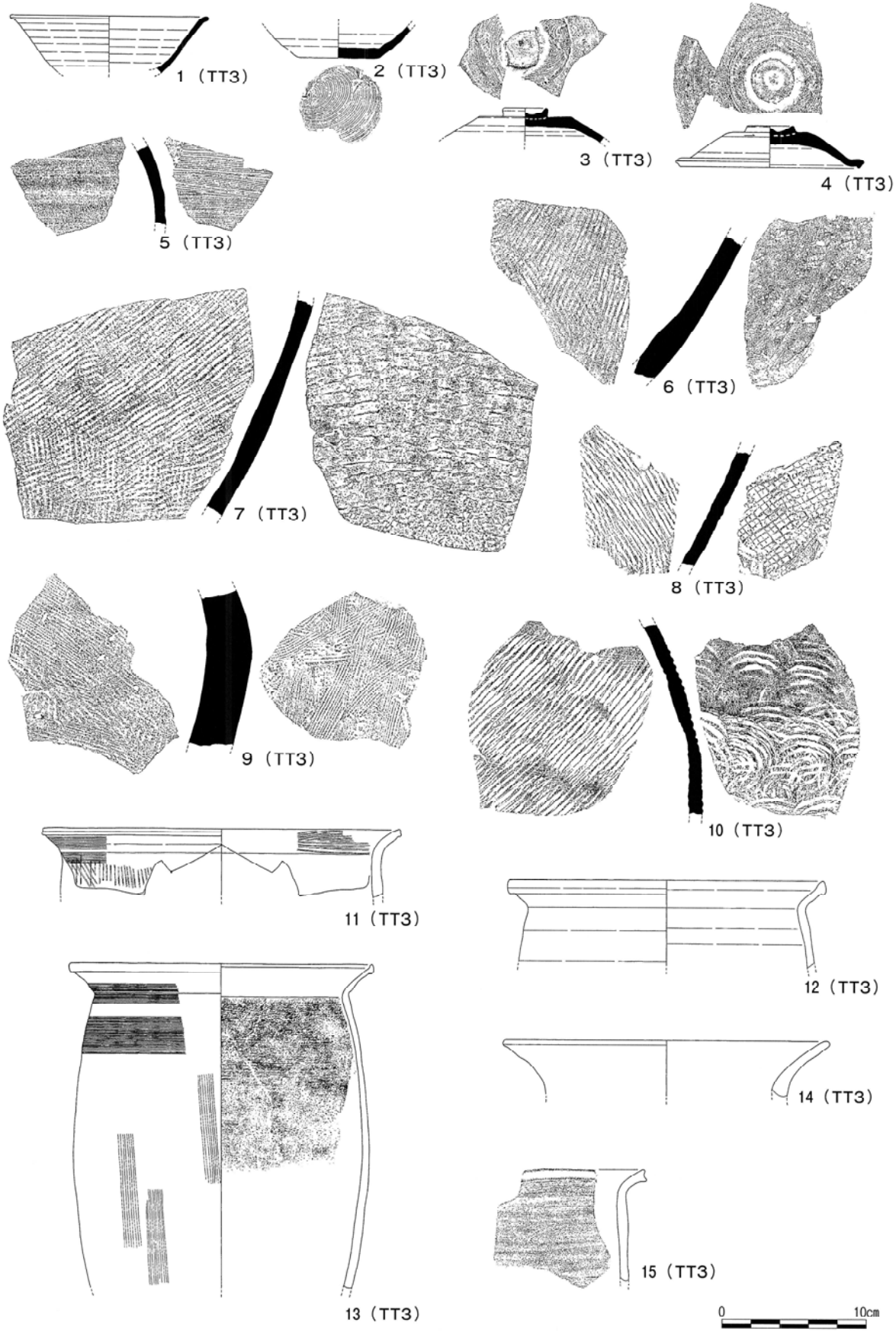


第22図　川前飛地遺跡平面・断面略図



第23図　上敷免遺跡平面・断面略図

図版12



第24図　川前飛地遺跡・上敷免遺跡出土遺物実測図

川前飛地遺跡トレンチ配置状況（西から）

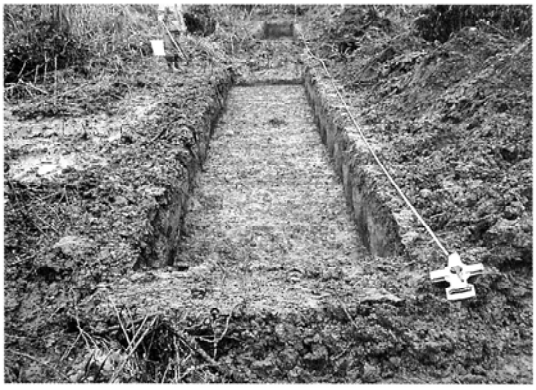
川前飛地遺跡調査トレンチ（西から）

川前飛地遺跡遺構検出状況（土坑）

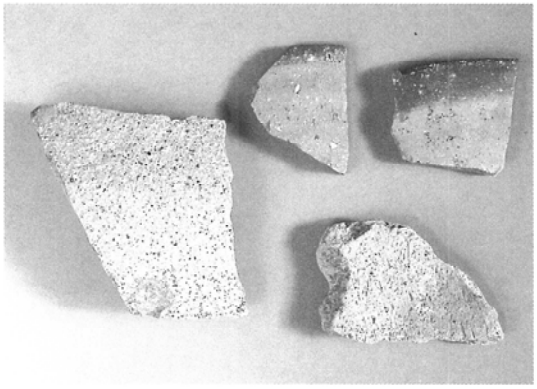
川前飛地遺跡須恵器蓋出土状況（ＴＴ２）

上敷免遺跡ＴＴ３トレンチ全景

上敷免遺跡ＴＴ３トレンチ全景



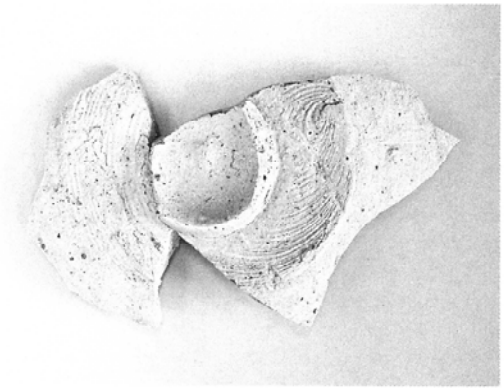
上敷免遺跡ＴＴ３全景（西から）



上敷免遺跡出土遺物

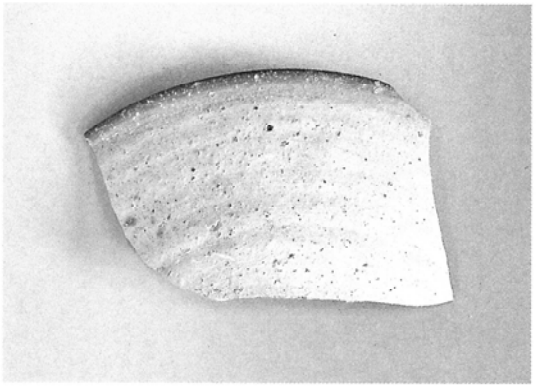
図版13　川前飛地遺跡・上敷免遺跡

須恵器蓋（ＴＴ２）



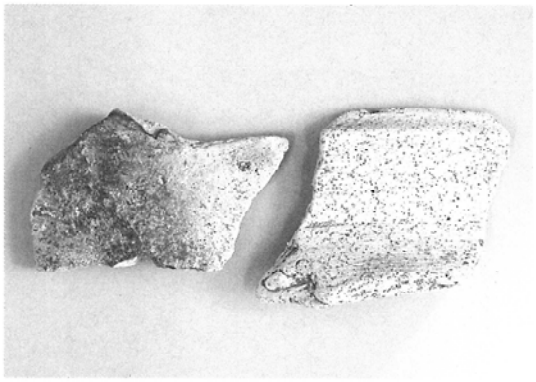
須恵器蓋(ＴＴ２)（ＴＴ２）

須恵器坏（ＴＴ２）

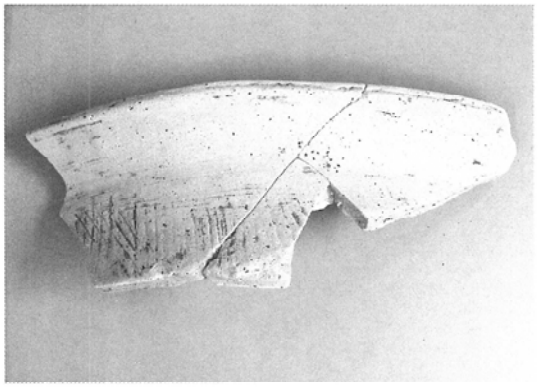


須恵器坏（ＴＴ３）

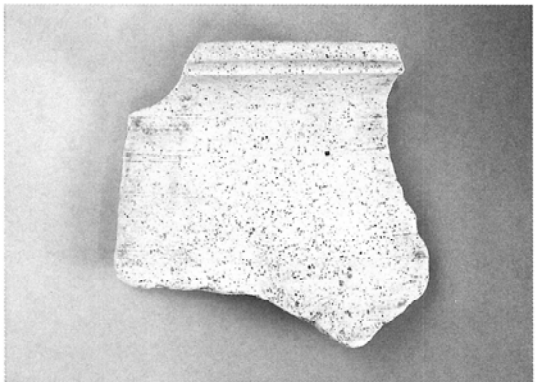
須恵器坏・壷（ＴＴ３）



赤焼土器甕（ＴＴ３）



赤焼土器甕（ＴＴ３）



赤焼土器甕（ＴＴ３）

図版14　川前飛地遺跡・上敷免遺跡

(11)堤屋敷遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県米沢市万世町桑山字堤屋敷

調　査　員　名和達朗・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成15年11月26日・27日、平成16年11月18日・19日・22日

起因事業　東北中央自動車道相馬尾花沢線(福島県境～米沢間)建設事業

遺跡環境　米沢市街地から南東約５kmの河岸段丘上に立地する。標高は、270mを測る。地目は、宅地・畑地及び水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ８ヶ所を設定。

試掘方法　重機＋人力で試掘調査を実施。

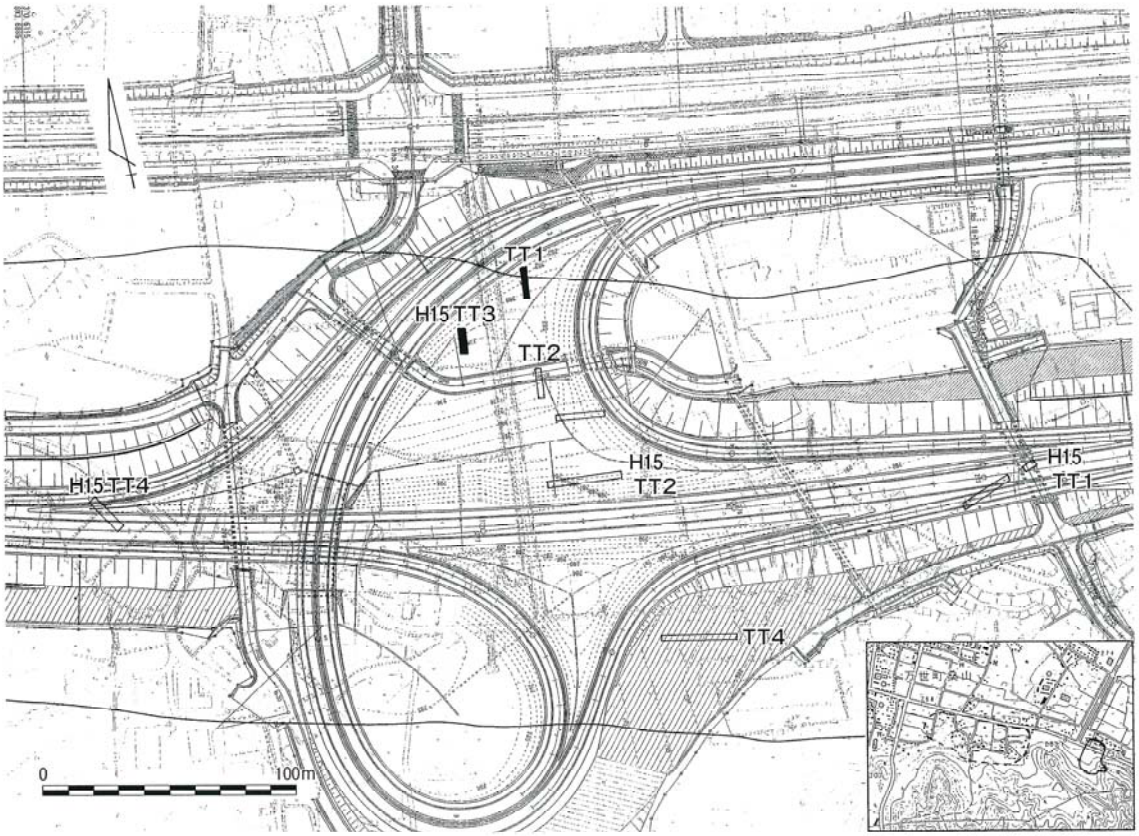
試掘面積　228.5㎡（対象面積約4,000㎡）

検出遺構　平成15年度ＴＴ１・２・４、平成16年度ＴＴ２・３・４の計６本のトレンチから溝・柱穴を検出。遺構・遺物確認面は、15～55cm。

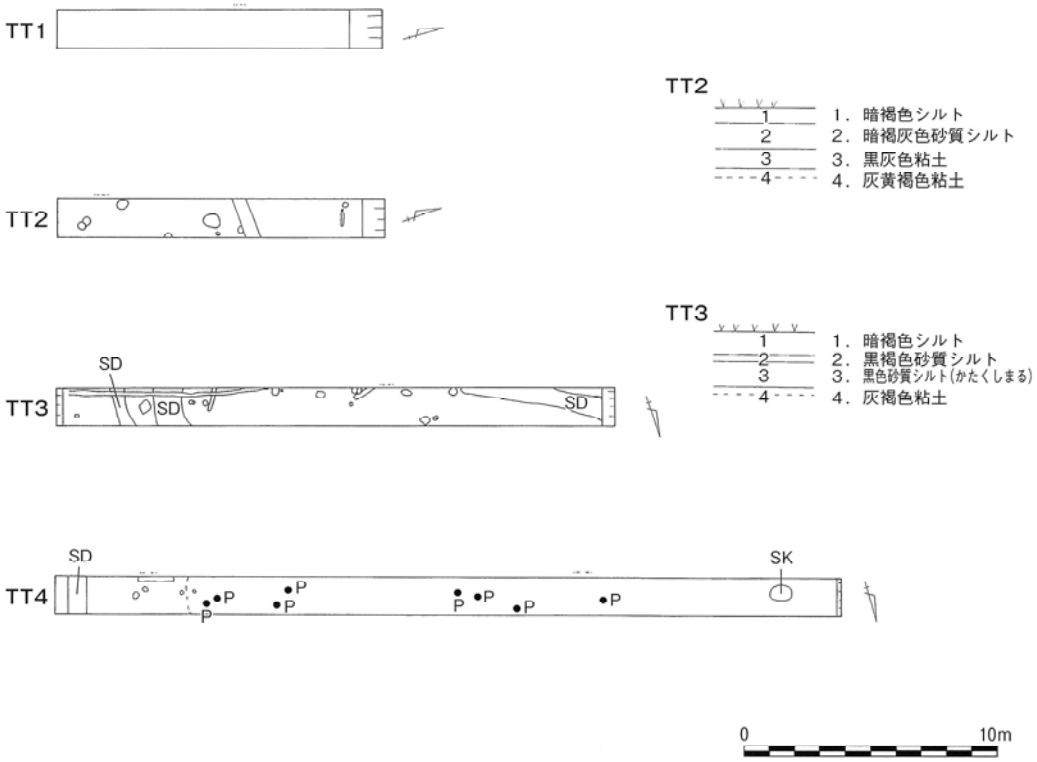
出土遺物　平成15年度ＴＴ１から縄文土器片、ＴＴ４から中世陶器、平成16年度ＴＴ４から縄文土器片・フレーク出土。

時　　代　縄文時代・中世

所　　見　平成15・16年度に設定したトレンチ８本のうち６本から溝跡や柱穴が検出された。水田面からは中世の所産と考えられる柱穴や溝跡が、山際からは縄文土器片とフレークが出土した。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第25図　堤屋敷遺跡概要図

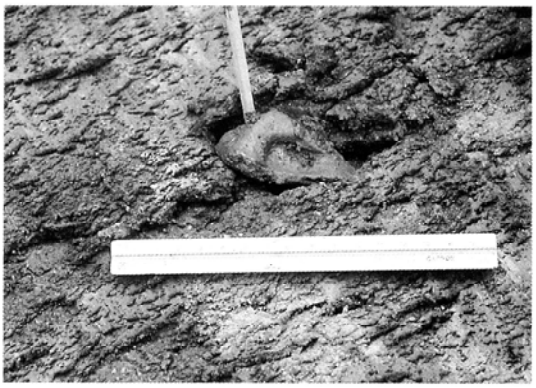


第26図　堤屋敷遺跡平面・断面略図

堤屋敷遺跡全景

堤屋敷遺跡ＴＴ３全景

堤屋敷遺跡ＴＴ２遺構検出状況



堤屋敷遺跡ＴＴ４遺物出土状況

図版15　堤屋敷遺跡

(12)万治ヶ沢遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県鶴岡市大字矢引字万治ヶ沢

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年８月３日～12日

起因事業　日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡間)建設事業

遺跡環境　鶴岡市水沢から南西約３kmの丘陵斜面上に立地する。標高は、80mを測る。地目は、山林である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘坑（ＴＰ）51ヶ所を設定。

試掘方法　人力で試掘調査を実施。

試掘面積　51㎡（対象面積約3,000㎡）

検出遺構　ＴＰ２から土坑、ＴＰ８・11・24・26・27・33・34・36・41・44・47・49の計12本の試掘坑から、遺構と考えられる土色変化を検出。

出土遺物　ＴＰ１・14・15・25・31から縄文土器片、ＴＰ25からフレーク出土。

時　　代　縄文時代

所　　見　設定した試掘坑51箇所のうち13箇所から土坑や土色変化が確認された。ＴＰ１・14・15・25・31から、少量ながら縄文土器片とフレークが出土した。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。

第27図　万治ヶ沢遺跡概要図

(13)木ノ下館跡（きのしたたてあと）（平成８年度登録）

所　在　地　山形県鶴岡市大字水沢字水京他

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年９月８日～10日

起因事業　日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡間)建設事業

遺跡環境　鶴岡市ＪＲ水沢駅から南東約400mの京田山上に立地する。標高は、60mを測る。地目は、山林である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘坑（ＴＰ）18ヶ所を設定。

試掘方法　人力で試掘調査を実施。

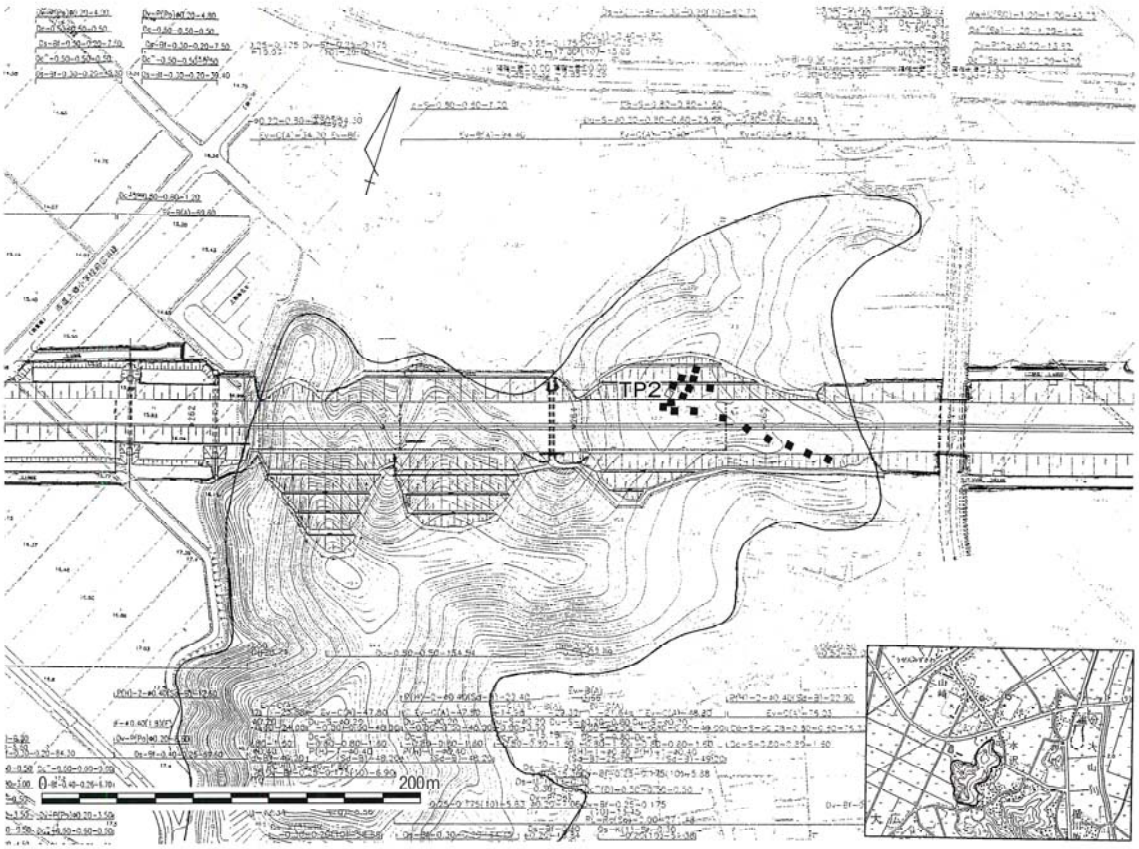
試掘面積　18㎡（対象面積約9,800㎡）

検出遺構　ＳＴＡ264＋20～60の北西20～50mの範囲に３段の曲輪状の段差を確認。道路状の掘り切り。

出土遺物　ＴＰ12から天目茶碗片出土。

時　　代　中世

所　　見　設定した試掘坑18箇所からは明確な遺構は検出されなかったが、３段の曲輪状の段差や道路跡状の掘り切りなど、館跡に関わると考えられる遺構が確認された。ＴＰ12から、天目茶碗片が出土した。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第28図　木ノ下館跡概要図

(14)行司免(ぎょうじめん)遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県鶴岡市大字水沢字行司面

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年10月26日～11月2日

起因事業　日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡間)建設事業

遺跡環境　鶴岡市ＪＲ水沢駅から南東約900mの自然堤防上に立地する。標高は、18mを測る。地目は、水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ10本を設定。

試掘方法　重機及び人力で試掘調査を実施。

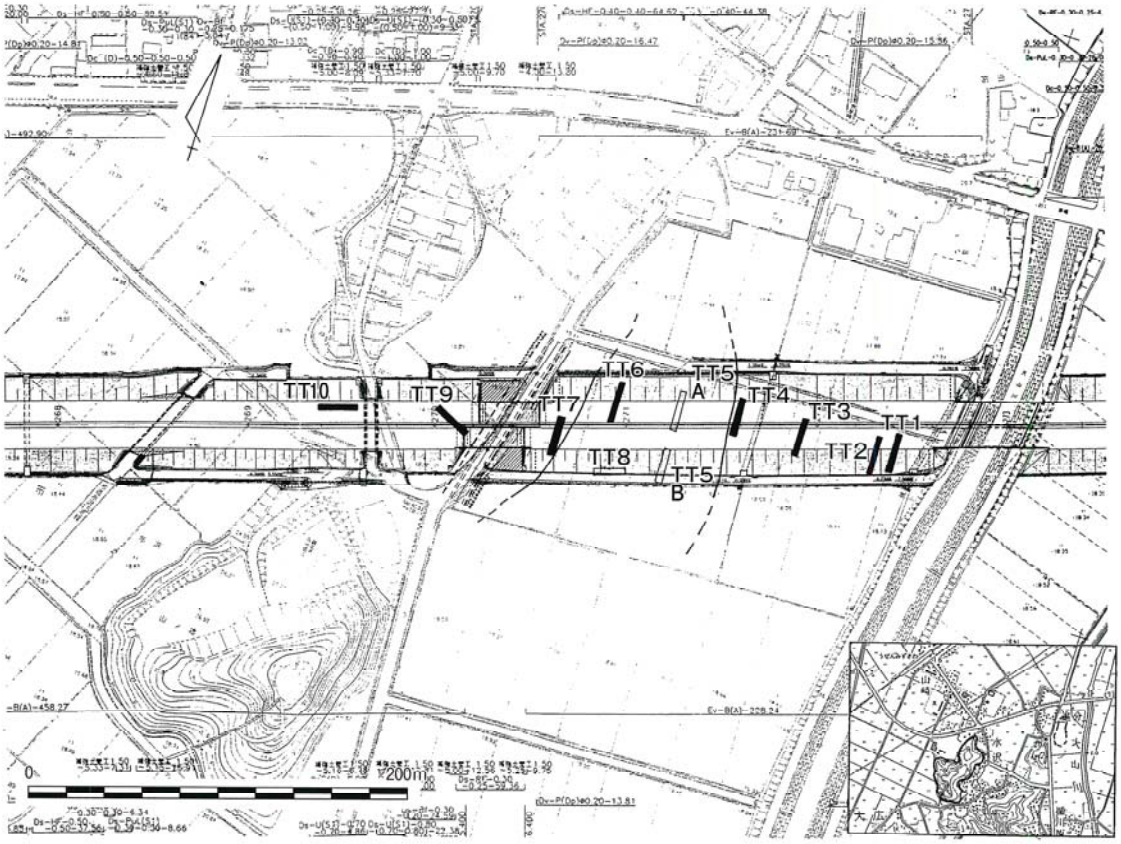
試掘面積　368.1㎡（対象面積約21,000㎡）

検出遺構　ＴＴ５Ａ・Ｂから柱穴、ＴＴ８から竪穴住居跡及び遺構と考えられる土色変化を検出。遺構確認面は－60～95cm。

出土遺物　ＴＴ５Ａ・Ｂ、ＴＴ８から赤焼土器出土。また、ＴＴ５Ａ・Ｂからは十和田ａと考えられる火山灰が広範囲に認められる。

時　　代　平安時代

所　　見　設定した試掘トレンチ10本のうち３本から竪穴住居跡や柱穴、土色変化が確認され、赤焼土器が出土した。また、十和田ａと考えられる火山灰が遺物出土レベルで広範囲に分布するのが確認された。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第29図　行司免遺跡概要図

(15)興屋川原遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県鶴岡市大字水沢字行司面

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成16年10月26日～11月２日、平成17年３月８～10日

起因事業　日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡間)建設事業

遺跡環境　鶴岡市ＪＲ水沢駅から東約1.8kmの微高地上に立地する。標高は、17mを測る。地目は、水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ25本、試掘坑７箇所を設定。

試掘方法　重機及び人力で試掘調査を実施。

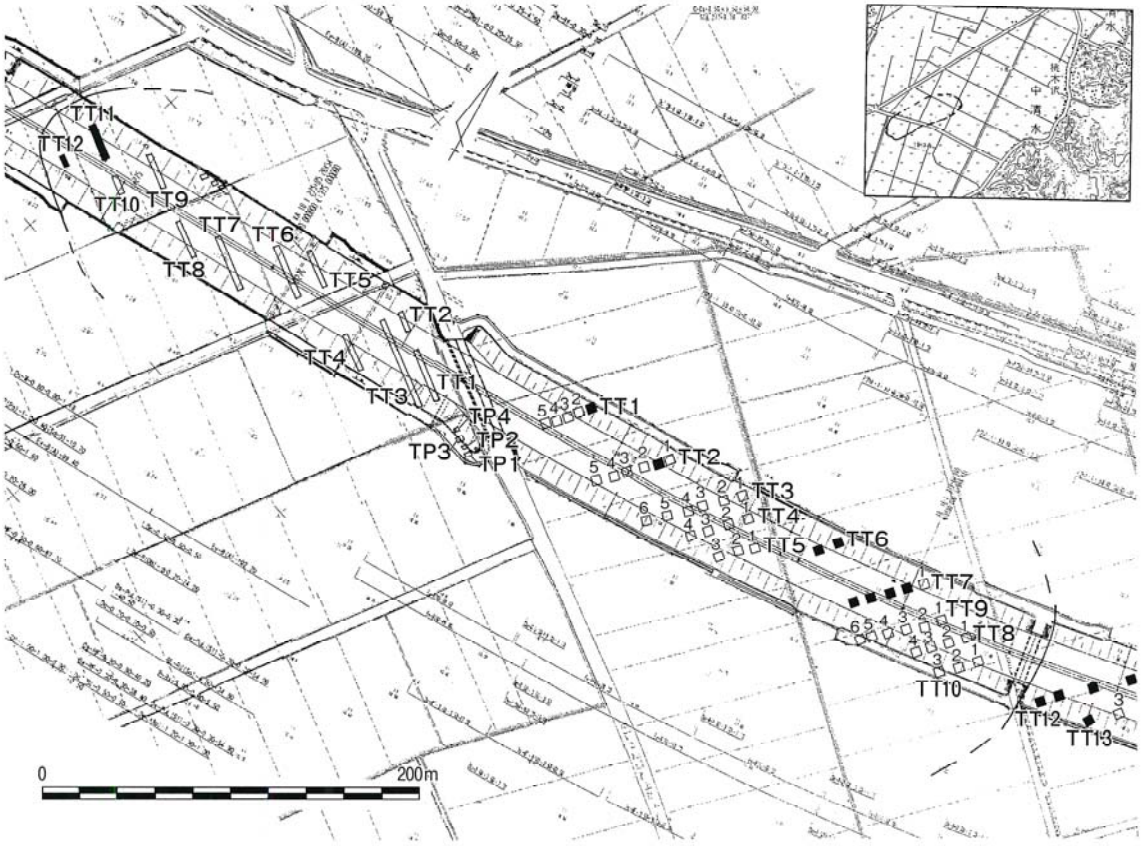
試掘面積　864㎡（対象面積約35,000㎡）

検出遺構　竪穴住居跡や溝跡・柱穴・土坑及び遺構と考えられる土色変化を検出。遺構確認面は－30～110cm。

出土遺物　須恵器・赤焼土器・土師器、木製品が出土。また、十和田ａと考えられる火山灰が、遺物出土レベルで広範囲に認められる。

時　　代　平安時代

所　　見　溝跡や柱穴、土坑や土色変化が確認され、土師器・須恵器・赤焼土器が出土した。また、十和田ａと考えられる火山灰が遺物出土レベルで広範囲に分布するのが確認された。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第30図　興屋川原遺跡概要図

(16)玉作1遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県鶴岡市大字中清水字玉作

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成17年3月8～10日

起因事業　日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡間)建設事業

遺跡環境　鶴岡市ＪＲ水沢駅から東約2.2kmの微高地上に立地する。標高は、16mを測る。地目は、水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ12本を設定。

試掘方法　重機及び人力で試掘調査を実施。

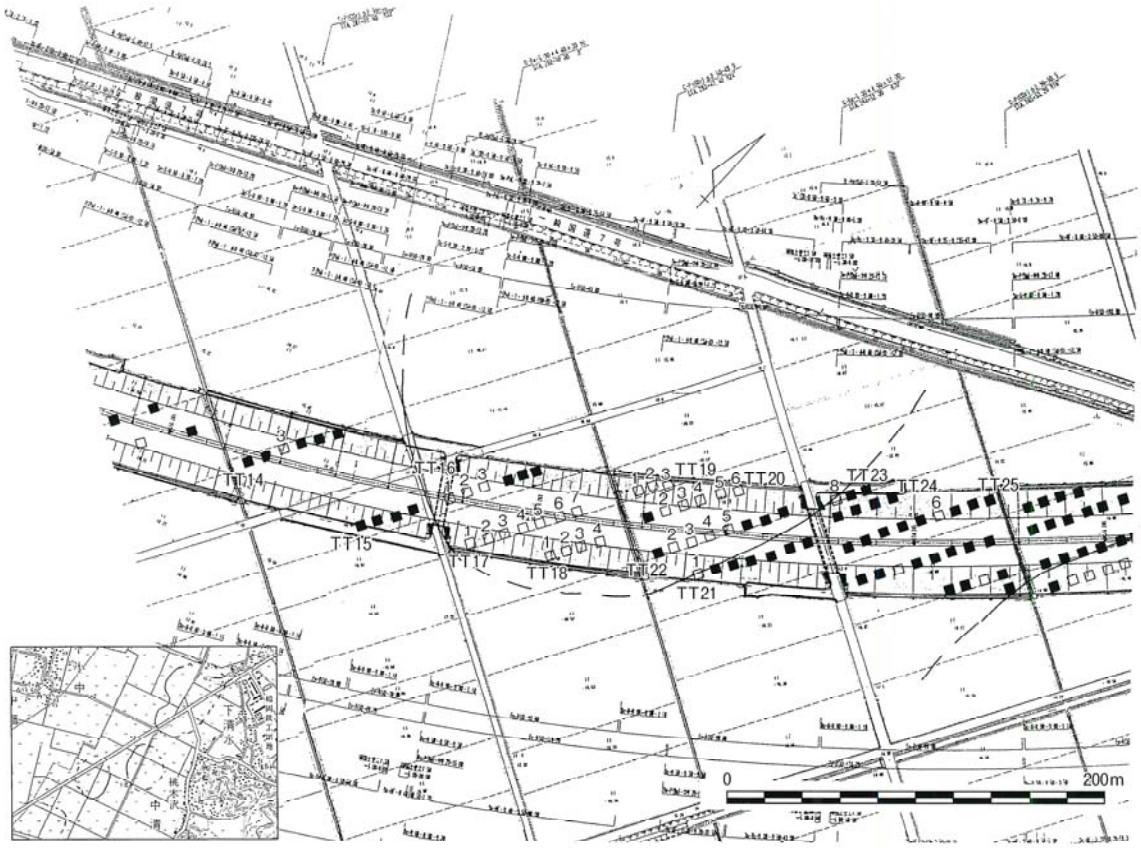
試掘面積　502㎡（対象面積約20,000㎡）

検出遺構　ＴＴ17～20の4本の試掘トレンチから、柱穴・土坑及び遺構と考えられる土色変化を検出。遺構確認面は－25～55cm。

出土遺物　ＴＴ16～20、ＴＴ22の6本の試掘トレンチから須恵器片・赤焼土器片・土師器片、柱根が出土。

時　　代　古墳時代・平安時代

所　　見　ＴＴ16～20、ＴＴ22の6本の試掘トレンチから、柱穴・土坑や遺構と考えられる土色変化が確認され、土師器・須恵器・赤焼土器が出土した。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。



第31図　玉作1遺跡概要図

(17)玉作2遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県鶴岡市大字中清水字玉作

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成17年3月8～10日

起因事業　日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）建設事業

遺跡環境　鶴岡市ＪＲ水沢駅から東約2.4kmの微高地上に立地する。標高は、16mを測る。地目は、水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ10本を設定。

試掘方法　重機及び人力で試掘調査を実施。

試掘面積　300㎡（対象面積約12,000㎡）

検出遺構　ＴＴ32・34・35の3本の試掘トレンチから、土坑及び遺構と考えられる土色変化を検出。遺構確認面は－30～65cm。

出土遺物　ＴＴ32・34・35の3本の試掘トレンチから須恵器片・赤焼土器片・土師器片が出土。

時　　代　平安時代

所　　見　ＴＴ32・34・35の3本の試掘トレンチから、土坑や遺構と考えられる土色変化が確認され、土師器片・須恵器片・赤焼土器片が出土した。平成17年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施。

(17)玉作3遺跡（平成16年度登録）

所　在　地　山形県鶴岡市大字中清水字玉作

調　査　員　阿部明彦・高橋　敏

調査期日　試掘調査　平成17年3月8～10日

起因事業　日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡間）建設事業

遺跡環境　鶴岡市ＪＲ水沢駅から東約2.6kmの微高地上に立地する。標高は、16mを測る。地目は、水田である。

試　掘　区　事業予定地内の遺跡範囲に試掘トレンチ8本を設定。

試掘方法　重機及び人力で試掘調査を実施。

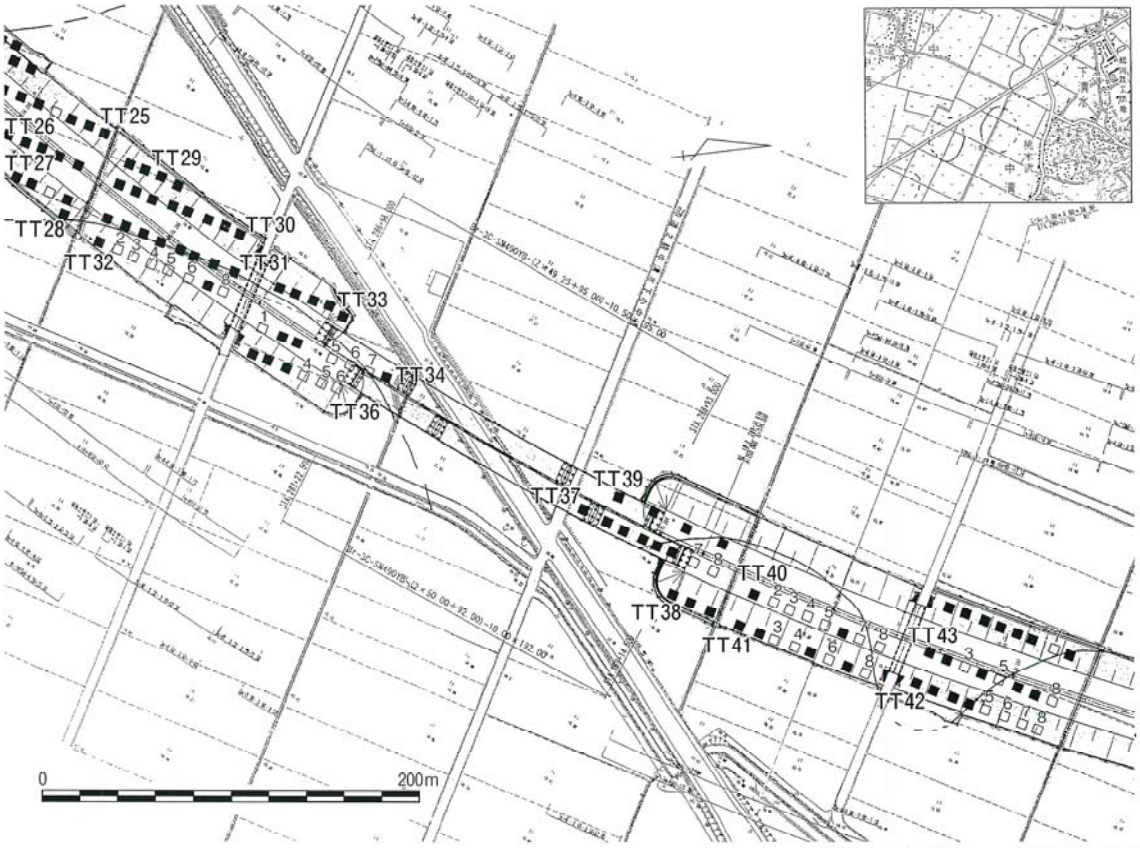
試掘面積　412㎡（対象面積約12,000㎡）

検出遺構　なし

出土遺物　ＴＴ37、ＴＴ41～44の6本の試掘トレンチから須恵器片・赤焼土器片・土師器片が、少量ながら出土。

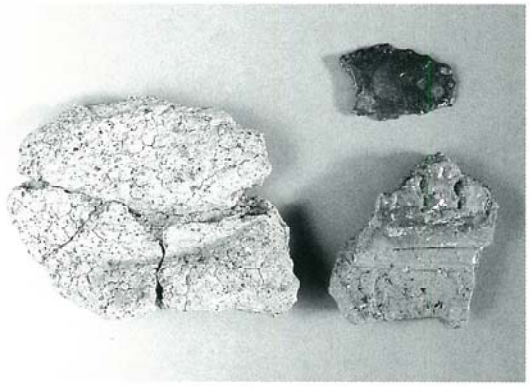
時　　代　平安時代

所　　見　ＴＴ37、ＴＴ41～44の6本の試掘トレンチから、土師器片・須恵器片・赤焼土器片が出土した。遺構は確認されない。試掘調査の状況から、当該地区は埋蔵文化財包蔵地ながら、近年のほ場整備等により大きく削平されたものと考えられる。



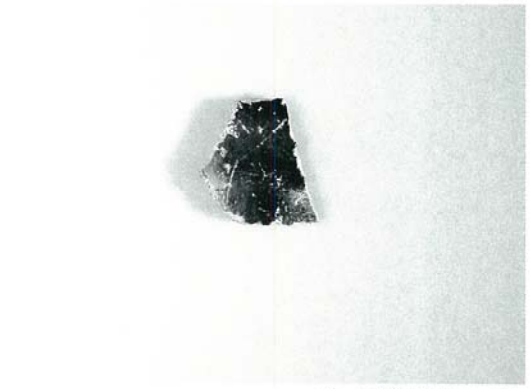
第32図　玉作２・３遺跡概要図

万治ヶ沢遺跡調査風景



万沢ヶ沢遺跡出土土器

木ノ下館跡全景



木ノ下館跡出土土器

図版16　万治ヶ沢遺跡・木ノ下館跡

行司免遺跡全景

行司免遺跡ＴＴ５

行司免遺跡出土土器

興屋川原遺跡ＴＴ７

興屋川原遺跡遺物出土状況

興屋川原出土遺物

玉作１遺跡近景

玉作１遺跡ＴＴ19－３柱根出土状況

図版17　行司免遺跡・興屋川原遺跡

Ⅲ　記録保存調査の概要

(Ⅰ部)椒代Ｆ遺跡（平成15年度新規登録）

所　在　地　山形県東田川郡櫛引町椒代

調　査　員　阿部明彦、野尻　侃・黒坂雅人（財団法人山形県埋蔵文化財センター）

調査期日　平成16年７月６～９日、７月12日、７月15～16日（延７日間）

起因事業　中山間地域総合整備事業（能の里黒川地区）

遺跡環境　椒代分校の北約0.4kmに位置し、西に張出す丘陵の南面に立地する。標高は245m内外で、地目は水田である。

調　査　区　地形現況と試掘調査の結果を考慮して、施工計画範囲内に調査区を設定した。

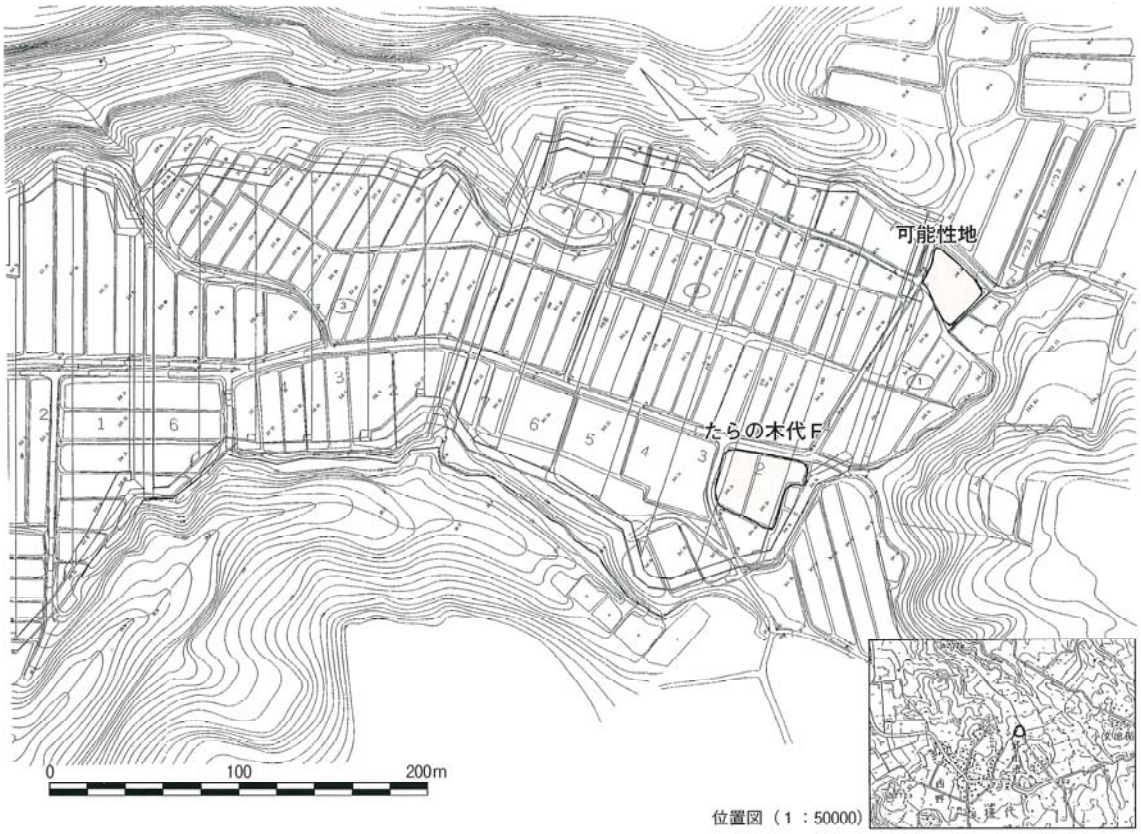
調査方法　重機を用いて旧水田域の表土を除去し、後に人力で面整理・面精査を実施した。なお、記録では工事用の大割など基準杭を援用した。

調査面積　たらの木代Ｆ遺跡：1100㎡・隣接可能性地：500㎡、計1600㎡。

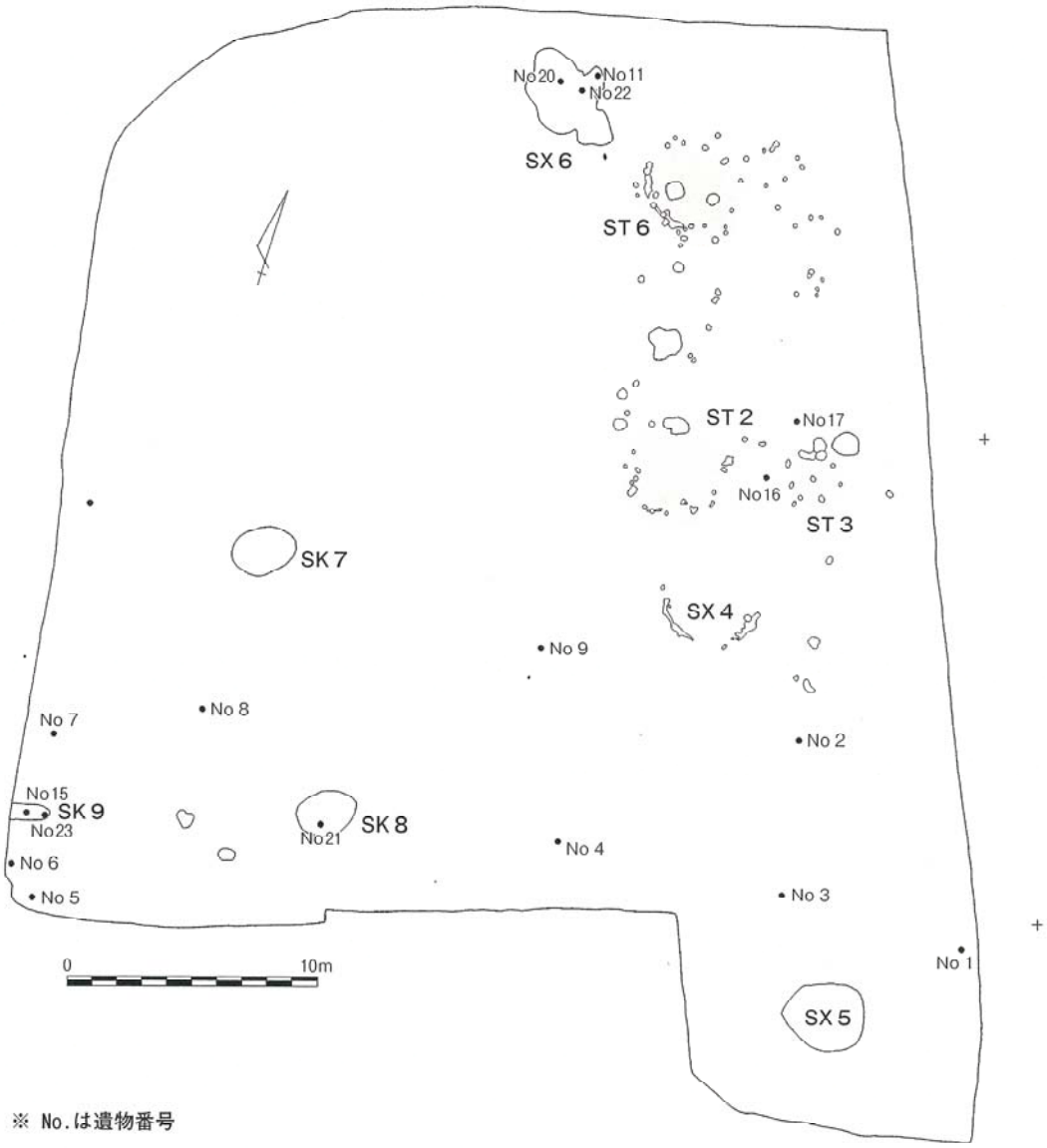
検出遺構　竪穴住居跡、土坑、墓坑、ロームマウンド４。

出土遺物　縄文土器（縄文前期・中期）。石器

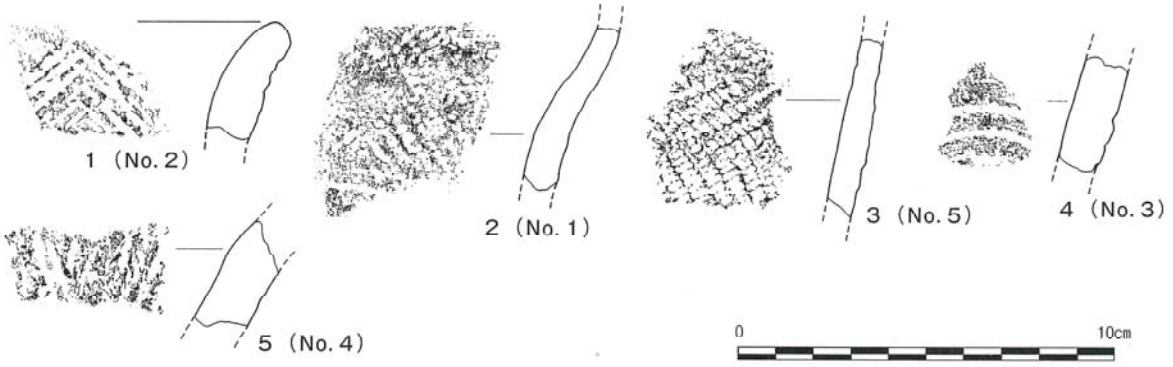
所　　見　遺跡は、東西に延びる尾根筋を占地し、時期は縄文前期末から中期前葉までの幅が認められる。検出遺構は、竪穴建物２～３棟、土坑数基、柱穴群などであり、キャンプサイト的な性格が考えられる。出土遺物では、頁岩製の石篦２点、同石匙１点、石鏃未製品２点、剥片・砕片類多数、縄文土器片10点程度であった。なお、遺跡域一帯は開拓地であり、調査実施以前な段階で大幅な削平を受けていた様子が確認できた。



第33図　たらのき代Ｆ遺跡概要図



第34図　たらのき代Ｆ遺跡遺構配置図

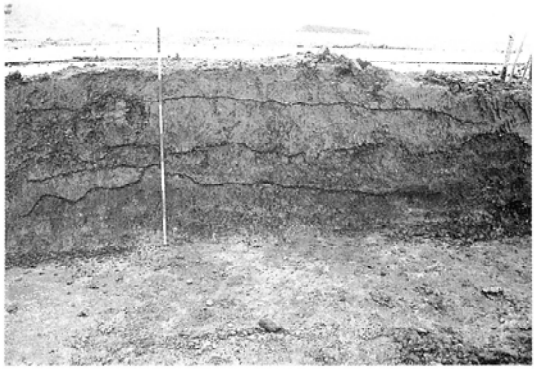


第35図　たらのき代Ｆ遺跡出土土器拓影図

梳代Ｆ遺跡近景（西から）

梳代Ｆ遺跡調査風景（西から）

梳代Ｆ遺跡調査風景（中央部）



梳代Ｆ遺跡調査区土層断面（西半部）

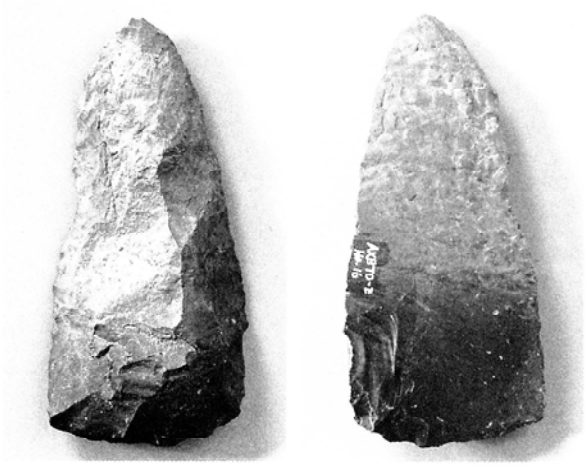
梳代Ｆ遺跡検出遺構（柱穴）

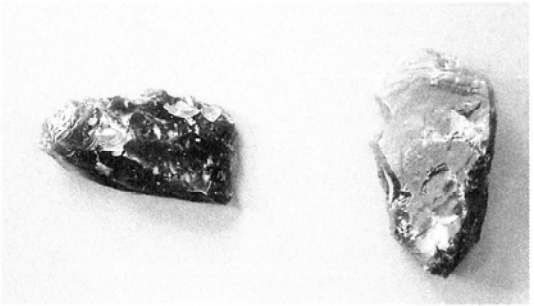
梳代Ｆ遺跡検出遺構（土坑）

梳代Ｆ遺跡土器出土状況（西半部）

梳代Ｆ遺跡石器出土状況（石篦）

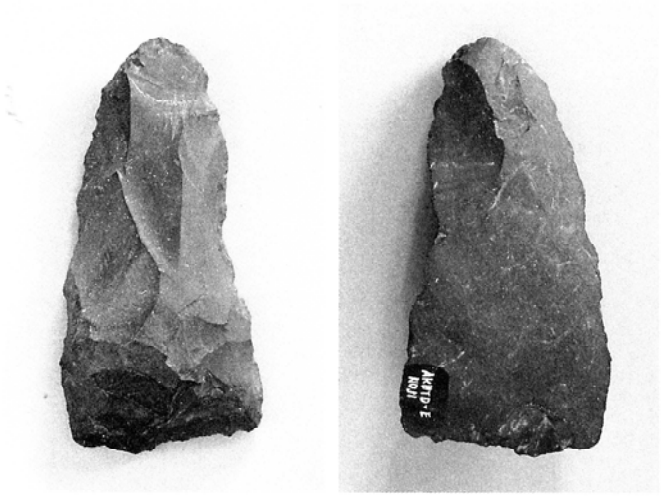
図版18　梳代Ｆ遺跡

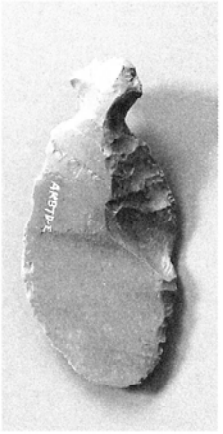




椛代Ｈ遺跡出土黒曜石製石器

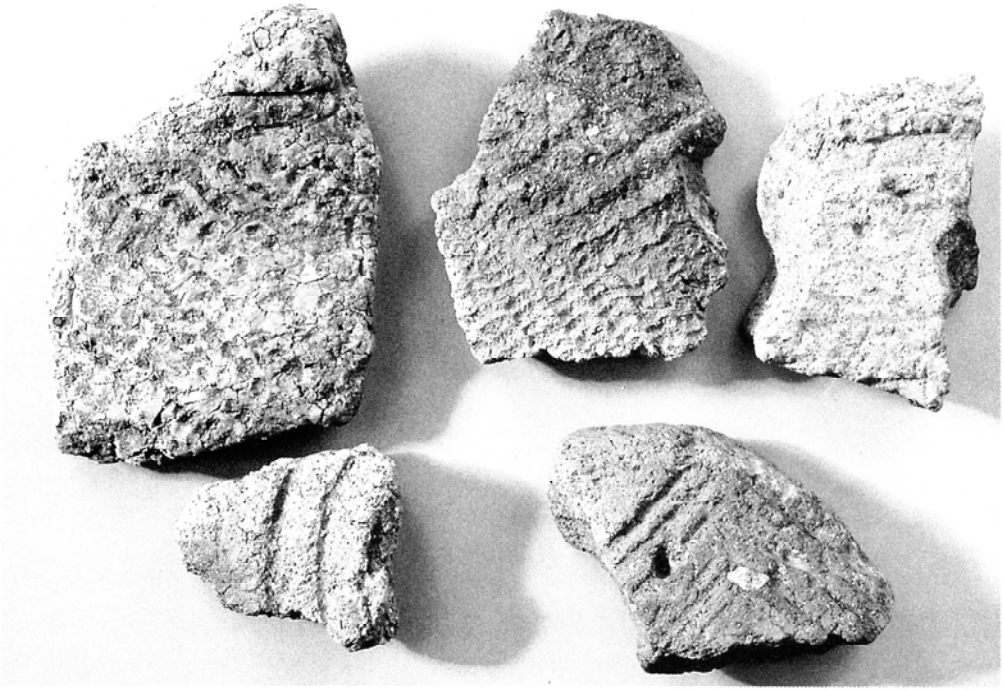
ＲＰ16（篦状石器）





ＲＰ16（石匙）

ＲＰ11（篦状石器）



出土縄文土器

図版19　椛代Ｆ遺跡

Ⅱ部

根際的場遺跡発掘調査報告書

Ⅰ　調査に至る経過

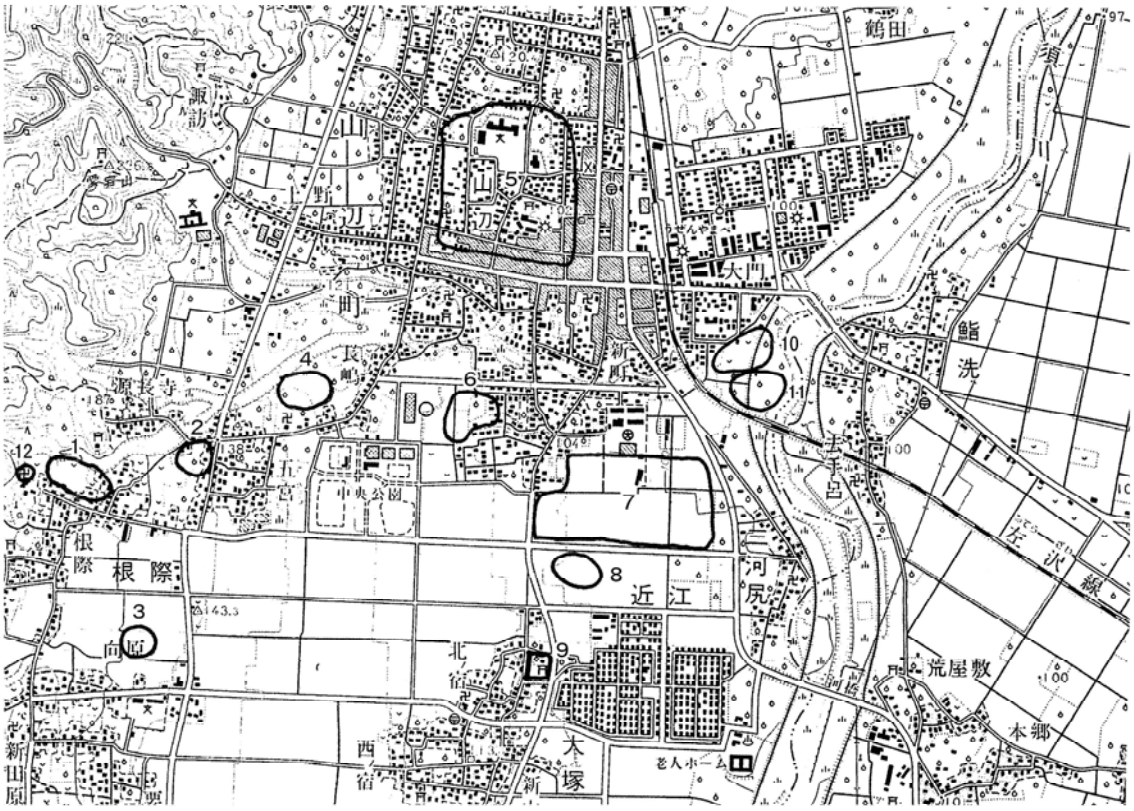
根際的場遺跡は山形県教育委員会が調査主体として実施した昭和49～51年度の県下一斉の分布調査で確認された遺跡である。遺跡台帳には縄文時代晩期？との記載がある。

平成13年度に農村自然環境整備事業(山辺西部地区)の一環として当地に農道を建設する事業が具体化し、県教委では平成14年３月に試掘調査を実施した。その結果、土坑等と見られる土色変化が確認され、縄文時代中期末の土器片や石器が出土した(山形県教委2003)。この結果を受け事業主体の山形県農林水産部と協議を行い、道路建設で破壊されるおそれのある部分の420㎡を対象として記録保存の緊急発掘調査を実施することで合意を見た。調査は面積が少ないこともあり、事業主体の協力の下、平成14年度に教育庁社会教育課文化財保護室で実施することとなった。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

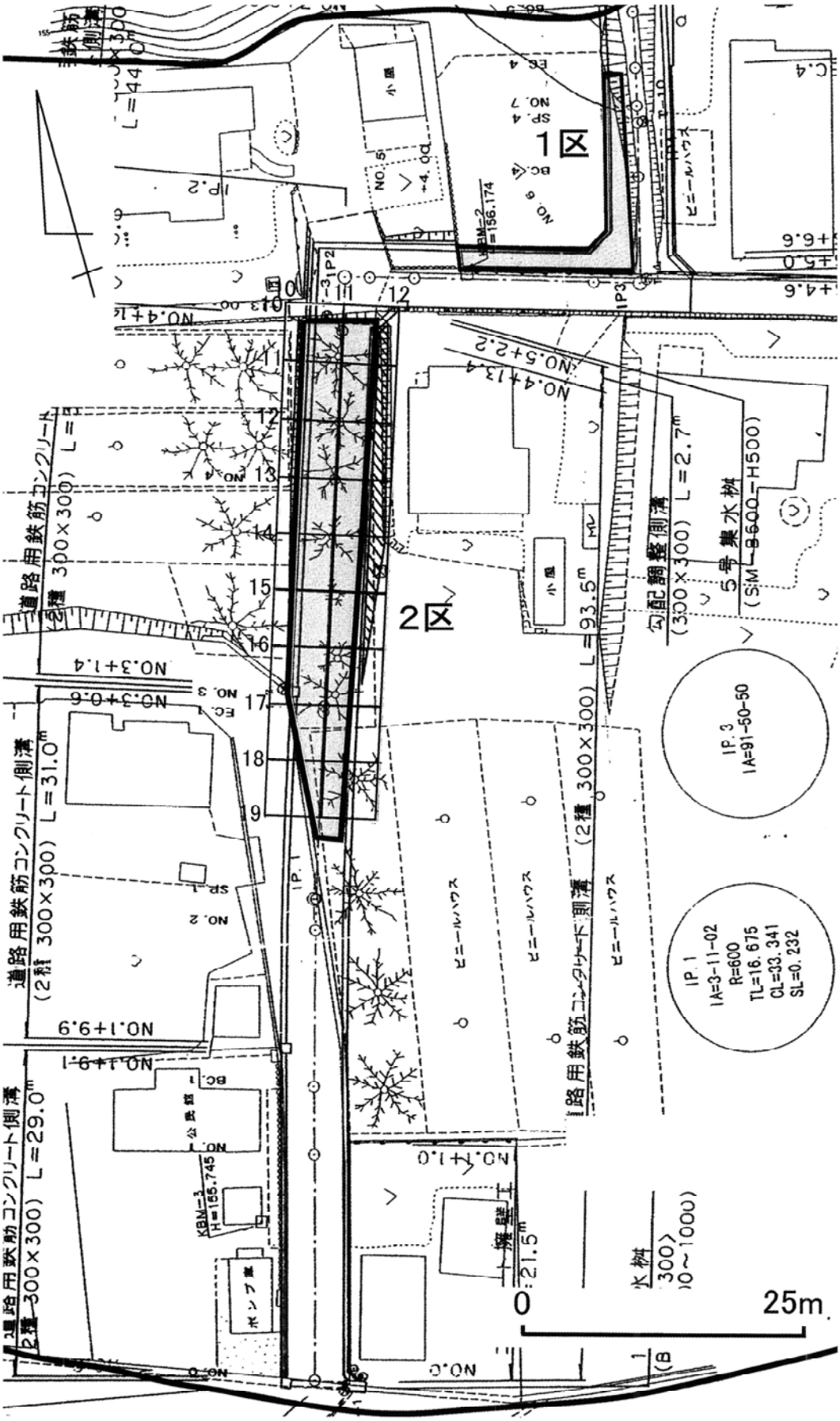
遺跡は山辺町役場の西南西約１kmの山麓部に位置し、北側を沢で限られた東西に延びる台地上に立地している。調査区内の標高は158mを測る。

周辺では南南東500mにある原遺跡が縄文時代晩期の遺跡として登録されている。東方1.4kmの山辺条里遺構からは水田を区画する畦や水路が発見されており、当時の足跡も見つかっている(山形県教委1979)。南東1.3ｋｍにある大塚天神古墳からは古墳時代前期の埴輪が大量に出土し、製作技術から見て畿内から直接波及した埴輪として注目を浴びた(茨木1997、99)。



1．根際的場　　4．七曲（古墳）　　7．山辺南条里　　10.柳清水
2．源長寺　　5．山野辺城（戦国）　　8．一本杉（飛奈）　　11.庚壇
3．原（縄文）　　6．嶋之前（平安）　　9．大塚天神古墳（古墳）　　12.普光寺境内経塚

第１図　根際的場遺跡と周辺の遺跡



第２図　トレンチ・グリッド配置図

Ⅲ　調査の経過

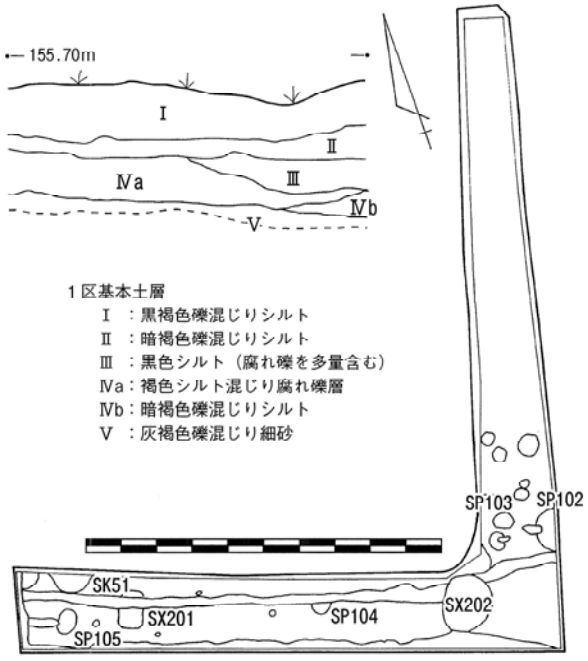
発掘調査は８月12日から９月11日まで延べ20日間実施した。以下、調査の経過を略述する。

８月12・13日は町道を挟んだ北側の調査区である１区と南側の調査区である２区の表土をバックホーで除去し、１区では遺構検出のための面整理を、２区では縄文時代の遺物を含む黒土層の掘り下げを行った。

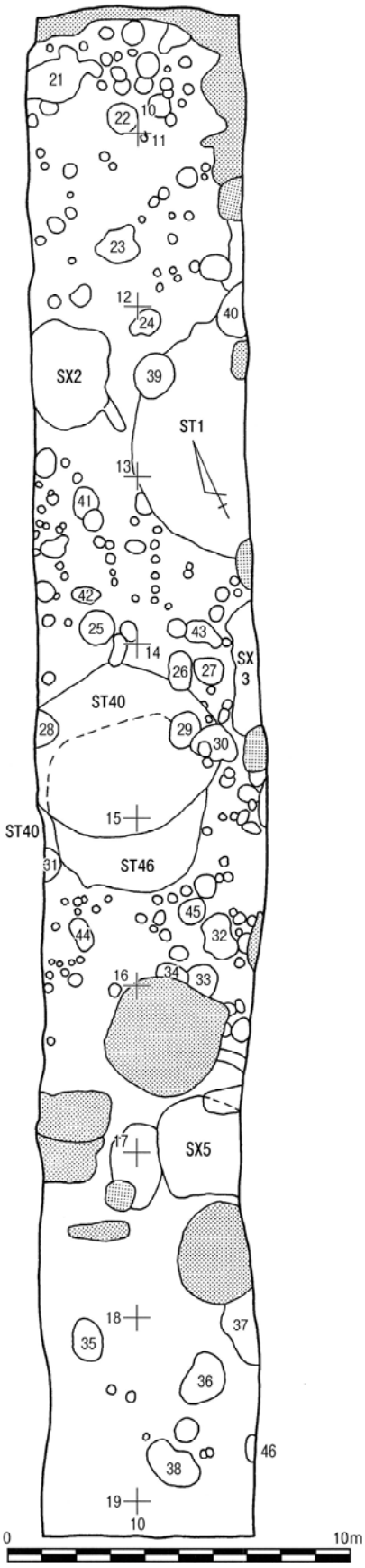
盆明けの８月19日に調査を再開し、21日までに１区の精査・記録を終了する。20日から２区の本格的な調査に入り、区割り作業の後、北側から包含層の掘り下げと遺構検出作業を行い22日までに遺構の検出作業と検出状況の写真撮影、平面図作成も終了し、23日から遺構の精査に入った。

８月26日から本格的な遺構精査に入り、30日までにST１は床面までの掘り下げが終了し、北部のSK21～24の各土坑も、半截、断面図作成、完掘、平面図作成の流れの中で調査を進め、この地域のピットの精査も含めほぼ終了した。

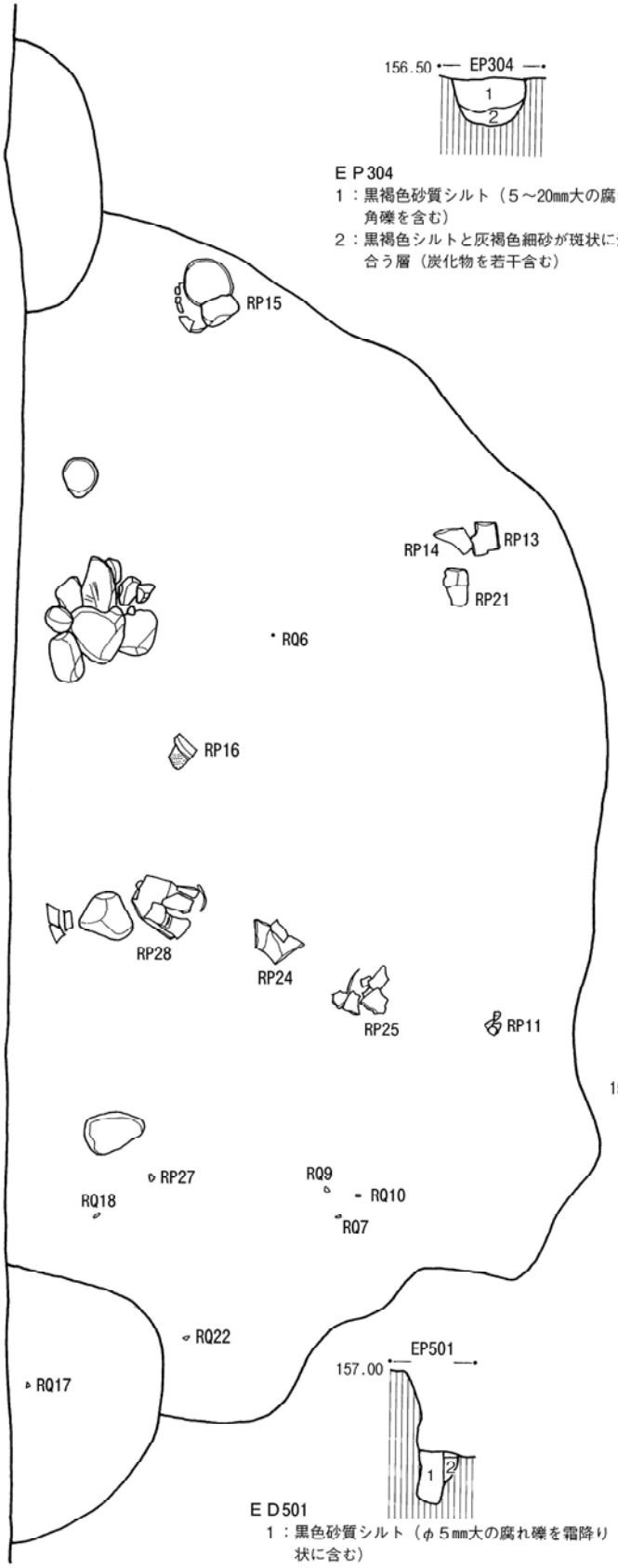
９月２～７日には遺構の分布が延びている可能性のある南部を拡張したが、目立った遺構は検出されなかった。



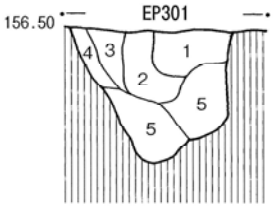
第３図　１区遺構配置図



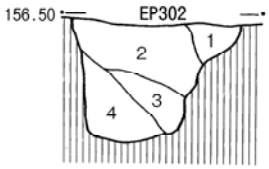
第４図　２区遺構配置図



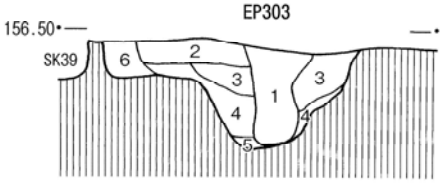
ＥＰ304
1：黒褐色砂質シルト（5～20mm大の腐れ礫、角礫を含む）
2：黒褐色シルトと灰褐色細砂が斑状に混じり合う層（炭化物を若干含む）



ＥＰ301
1：極暗褐色砂質シルト（φ5～10mm大の腐れ礫を多量含む）
2：黒色シルト（アタリ?。腐れ礫を若干含むがほぼ純粋）
3：黒褐色シルト（φ5mm大の腐れ礫を若干、炭化物を若干含む）
4：暗褐色砂質シルト（φ20mm大の大木なくされ礫を若干含む）
5：灰褐色粗砂（暗褐色シルトのブロック含む）



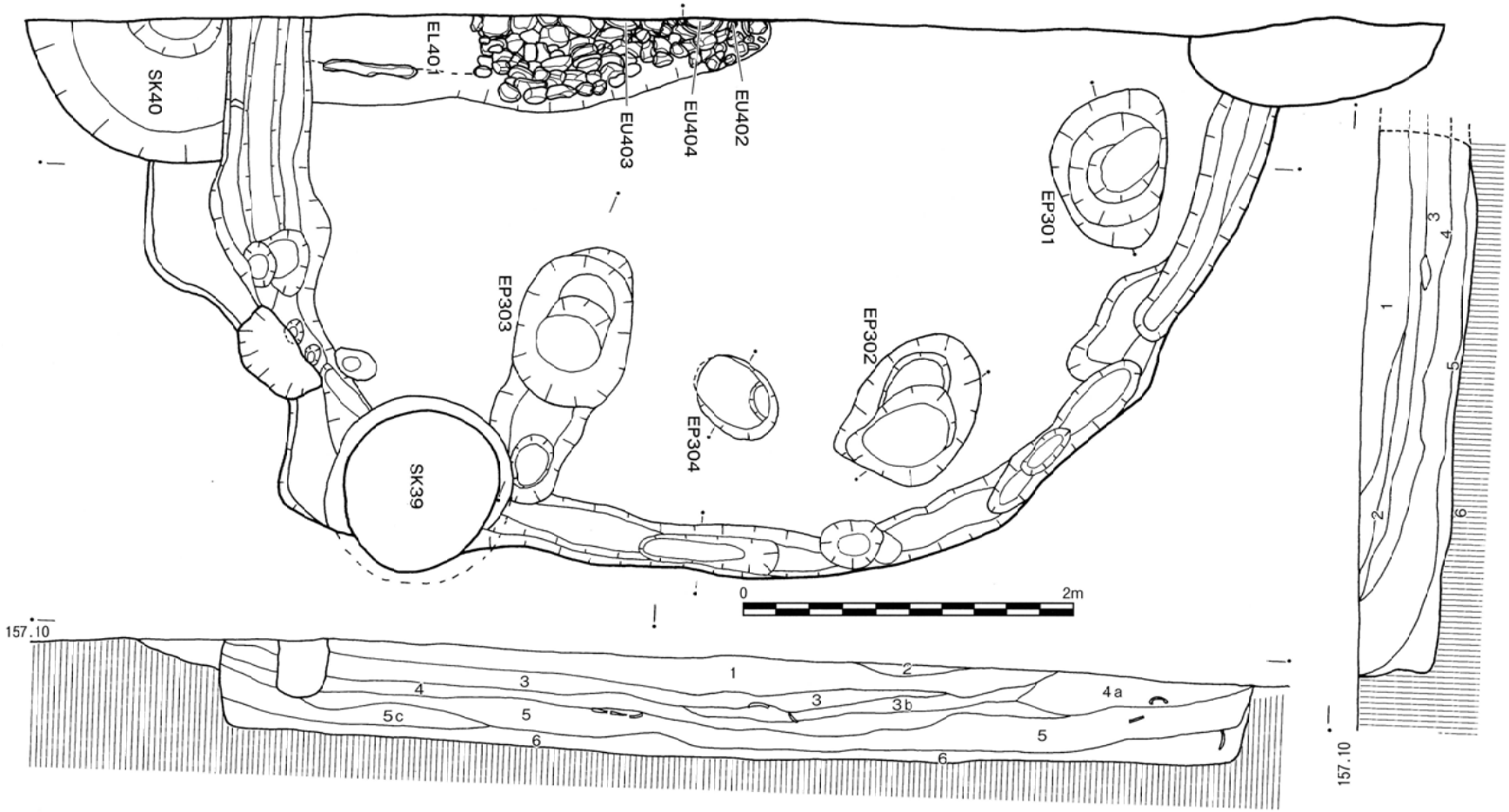
ＥＰ302
1：暗褐色砂質シルト（灰褐色粗砂の大ブロックを含む）
2：極暗褐色シルト（φ5mm大の腐れ礫と大粒の炭化物を霜降り状に含む）
3：黒色シルト（若干の腐れ礫を含むが、ほぼ純粋）
4：黒褐色シルト（黒色シルトの大ブロックを若干、φ5mm大の腐れ礫も若干含む）



ＥＰ303
1：黒色シルト（アタリ。φ50～100mm大の腐れ角礫を含む。炭化物も多量含む）
2：暗褐色砂質シルト（5～40mm大の腐れ角礫を多量含む）
3：黒褐色砂質シルト（5～10mm大の腐れ角礫、60mm大の亜円礫を含む。炭化物も含む）
4：暗褐色砂質シルト（黒褐色シルトの大ブロックを斑状に含む）
5：暗褐色粗砂（大粒の炭化物を若干含む）
6：褐色砂質シルト（黒褐色シルトと灰褐色粗砂のブロックを斑状に含む）

ＥＤ501
1：黒色砂質シルト（φ5mm大の腐れ礫を霜降り状に含む）
2：褐色細砂（黒褐色シルトの大ブロックを若干含む）

第５図　ST1内遺物分布図・柱穴土層断面



ＳＴ１

１：極暗褐色シルト（大粒の炭化物と焼土粒を若干含む。白色腐れ礫（φ２～５㎜大）を霜降り状に含む）
２：黒色シルト（大粒の炭化物を多量、微細腐れ礫を若干含む）
３：黒褐色シルト（微細炭化物を若干、腐れ礫（φ１～15㎜大）を多量、霜降り状に含む）
３ｂ：極暗褐色シルト（微細炭化物を若干、腐れ礫（φ１～15㎜大）を多量霜降り状に含む）
４ａ：暗褐色シルト（大粒の炭化物を多量、焼土粒を若干含む。φ１～10㎜大の腐れ礫を多量含む）
４：黒褐色シルト（微細な炭化物と焼土粒を多量含む。φ１～50㎜大の大小の腐れ礫も多量含む）
５：極暗褐色シルト（微細炭化物を若干、φ１～20㎜大の腐れ礫を多量霜降り状に含む）
５ｂ：黒色シルト（４層よりさらに黒っぽい。微細な焼土粒を含む）
５ｃ：黒褐色砂質シルト（粗砂を多量含む。φ２～５㎜大の腐れ礫を霜降り上に含む）
６：黒褐色シルト（大粒の焼土粒と炭化物を多量含む。床直上の堆積層で腐れ礫を霜降り上に含む）

第６図　ST1平面・断面図

この週では、ＳＴ１の床面で検出された柱穴や、炉の精査と記録を行った他、新たにＳＴ４の精査に入った。ＳＴ４は調査を進めた結果３棟の重複があることが明らかとなった。また、ＳＴ４群の周辺の土坑群の精査・記録も併行して進めた。遺構がほぼ掘り上がった週末の７日(土)に現地で調査説明会を開催した。町内外から70名程の参加者があった。

９月９～11日は掘り上がった遺構の平面図作成とレベリング、住居跡の複式炉の解体調査と記録を行い、11日に器材を撤収して調査を終了した。

Ⅳ　調査の成果

１　遺跡の層序と遺構の分布(第３、４、11図)

１区の層序は第３図に示した。北側の沢に向かって傾斜が始まった部分では地山の灰褐色礫混じり細砂までⅠ～Ⅳｂの各層に分けられた。遺構は東西トレンチと南北トレンチの南部に分布している。各遺構の内、ＳＰの記号の付いたピットは縄文時代、溝や落ち込みは近・現代のものである。

２区の層序は第11図に示した。Ⅰ層は果樹園の耕作土、Ⅱ、Ⅲ層は縄文時代の遺物を含む包含層となっているが、Ⅱ、Ⅲ層を切っている縄文土器を含む土坑もあり、包含層が形成された時期は縄文時代中期まで遡るのだろう。

２区内では中央部から北側に主要な遺構が集中し、南部は希薄となる。攪乱等の影響も全くないわけではないが、１区での分布状況から見ても、縄文時代の遺構が集中して分布するのは南北の幅40m程の範囲と見ていいだろう。

２　検出した遺構

１区では11基の柱穴以外の縄文時代の遺構は検出されなかった。以下、２区の遺構について略述する。

(１) 竪穴住居跡

２ヶ所で、合わせて４棟の竪穴住居を検出した。この他、ＳＸ２、３やＳＸ５も竪穴住居になる可能性があるものとして調査を進めたが、炉や柱穴が発見されなかったため、最終的には竪穴住居跡にはならないと判断した。

ＳＴ１(第５～７図)

９・10－12・13区で検出した。径6.3mの円形プランと考えられるが東半部は調査区外に延びている。確認面から床面まで最大で60cmと深く、堆積土は６層に分けられた。SK39、40に切られており、ＥP304もST1よりは新しいものと見られる。

堆積土の下部や床面で一括土器や石器が出土している。床面ではこの住居に伴うと見られる周溝、柱穴３基、複式炉が検出された。周溝は幅20～50cmで床面と周壁の間を全周するが、深さは10～30cmとまちまちである。主柱穴と見られるＥＰ301～303の３基は、長径が90～100cm、短径が70cm前後、床面からの深さは50～70cmを測る。横断形や堆積土の状況から見て、柱が抜き取られた可能性がある。この住居の主柱穴はこの３本を含む６本であったと考えられる。

炉は床面からさらに30～40cm程掘り込んで構築されている(第７図)。壁直下の前庭部から先端まで全長275cmを測り、２ヶ所に土器が埋設された複式炉である。

ＳＴ４群(第８～11図)

９・10－14・15で検出した竪穴住居である。掘り進めるうち、新しい方から４ａ、４ｂ、４ｃの３棟が重複した竪穴住居群であることが判明した。

ＳＴ４ａは北寄りにある最も新しい竪穴住居跡で遺構検出中に石囲い炉が検出された。４ａより古いＳＴ４ｂ、４ｃの床面の方が深い位置にあるが貼り床は確認していない。北側と東側で10cm程の壁の立ち上がりを確認した

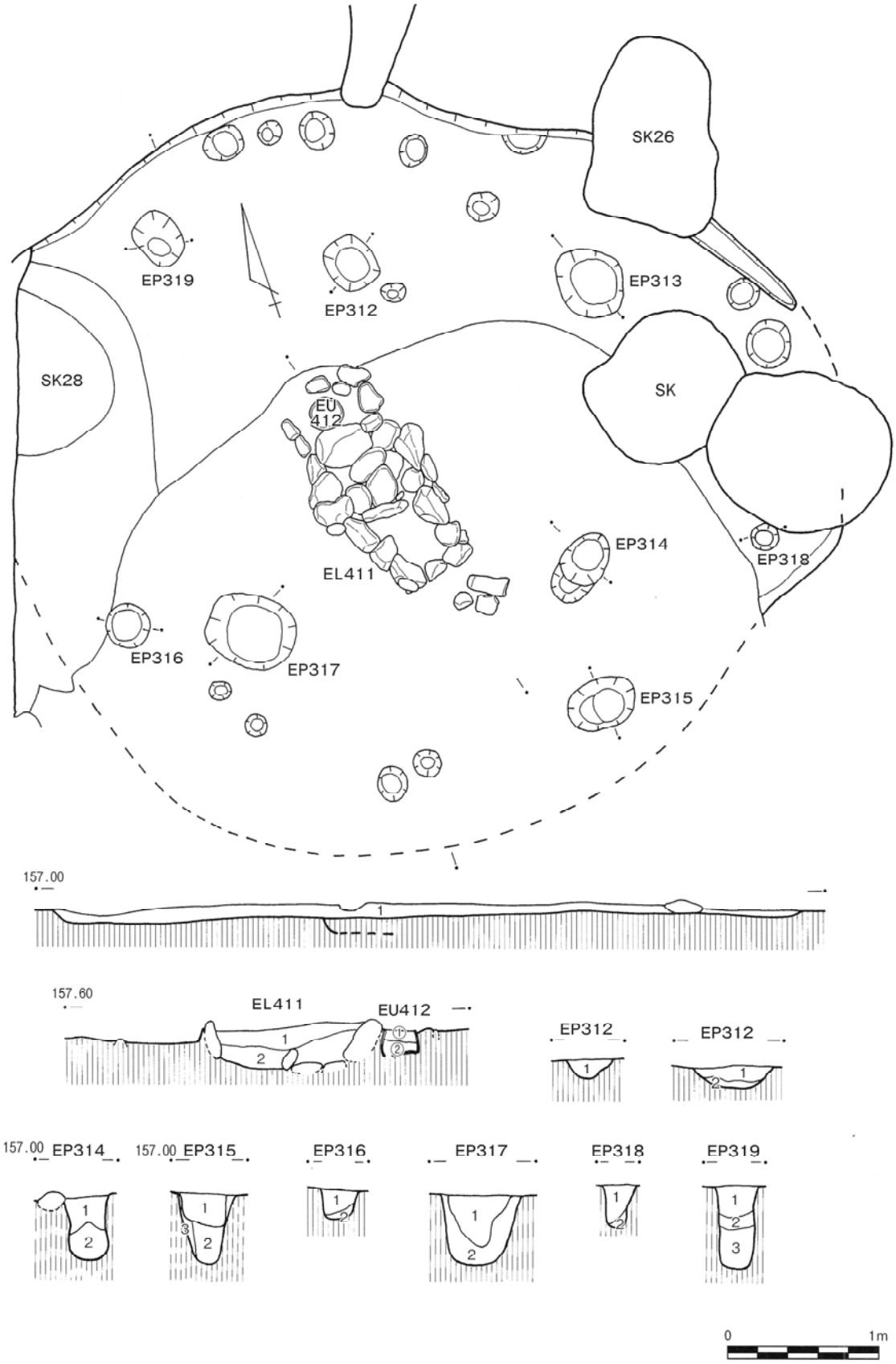
第７図　ST1 EL411平面図・横断図

が、南側ではセクションベルトの観察で３～４cm程度の立ち上がりが確認されただけである。ただし、西壁の観察で４ｃを切っていることが明確に確認されている。ＳＫ28は４ａを切り、29、30は床面で確認された土坑であるが、新旧関係は明確でない。

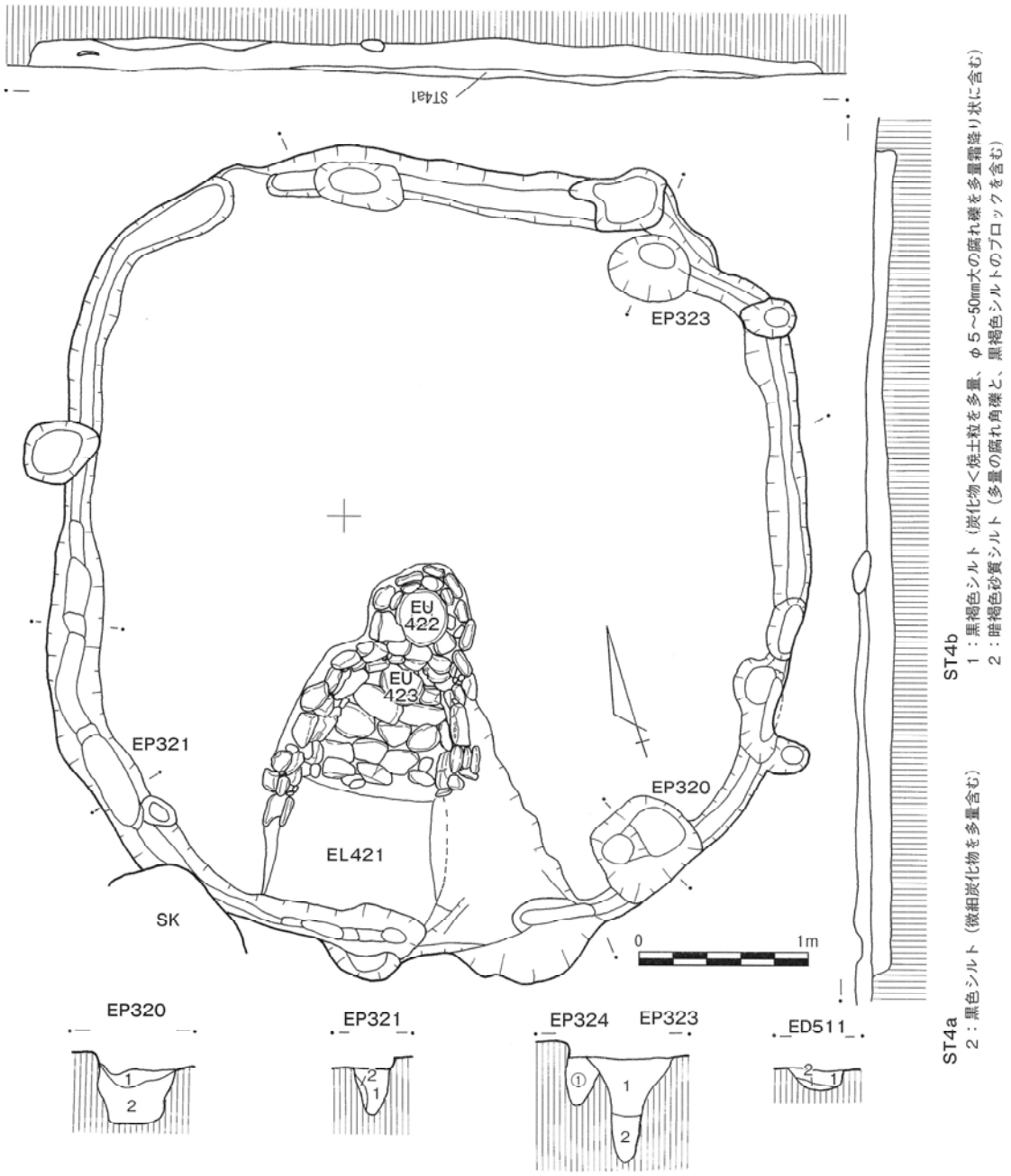
ＥＬ411は前庭部のない複式炉でほぼ中央部に存在する。全長152cm、最大幅92cm、石組み部中央に仕切り石があり石囲い部が敷石のある部分とない部分の二つに分かれる。埋設土器の口縁部と体部下半は欠失する。本住居跡に伴う柱穴は確定できないがEP312～319にその可能性がある。

ＳＴ４ｂは一辺4.5m程の隅丸方形に近いプランを持ち、周溝がめぐる竪穴住居である。床面は堅く叩き締められている。ＥＬ421の複式炉は床面から最大で30cmの深さがあり、前庭部を持つダルマ形となり、２ヶ所に埋設土器がある。北西側でＳＴ４ａのＥＬ411に部分的に切られている。主柱穴はEP320～323、壁寄りの柱穴で30～60cmの深さを持つ。

ＳＴ４ｃはその大半が調査区外にある。床面は４ａの床より低い位置にあり、確認面からの深さは40cm程で、堆積土は２層に分かれる。EP351はこの住居の柱穴である。



第８図　ST4a平面図・断面図



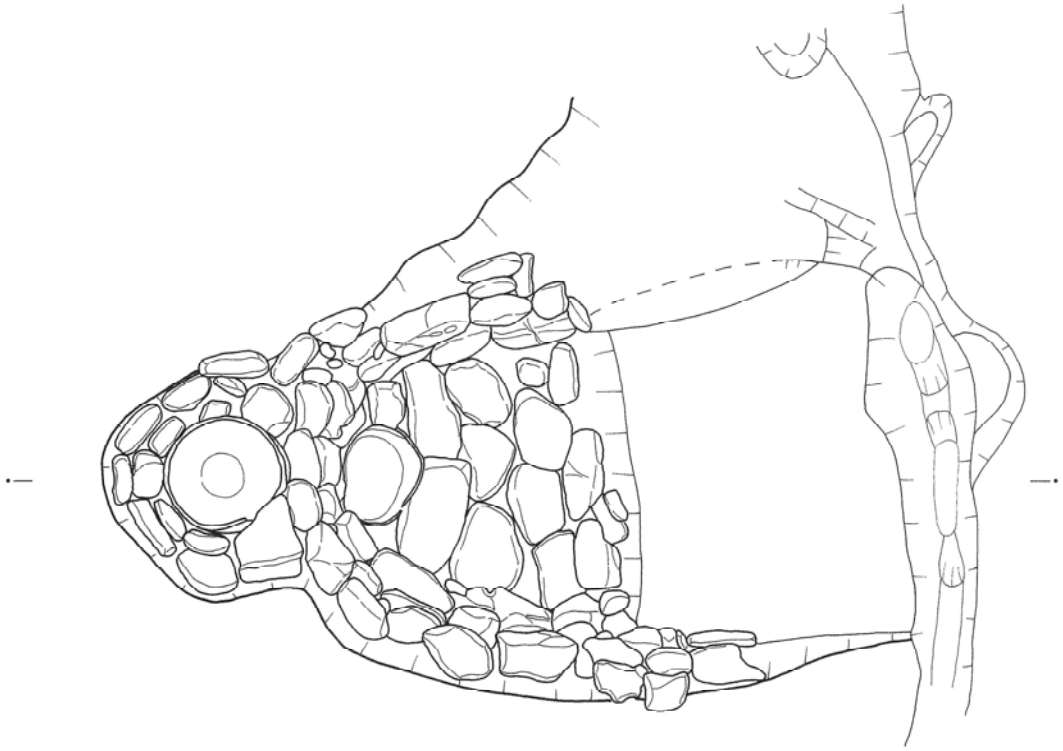
EP320
1：暗褐色砂質シルト（φ5mm大の腐れ礫を多量に含む）
2：黒褐色シルト（φ2～20mm大の腐れ礫を多量含む。炭化物の若干含み軟らかい）

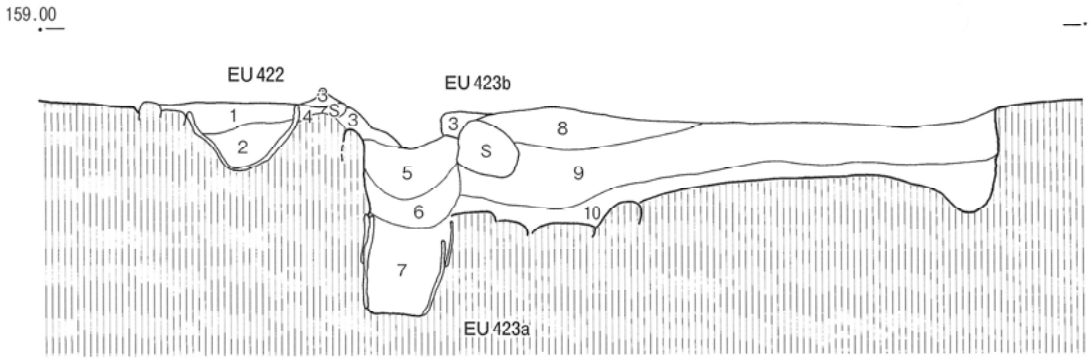
EP321
1：黒色シルト（φ5～40mm大の腐れ礫を多量含む。微細な炭化物も含む）
2：暗褐色砂礫（黒色シルトのブロックを含む）

EP323
1：黒褐色シルト（φ5mm大の腐れ礫を若干、炭化物も若干含む）
2：極暗褐色砂質シルト（大粒の炭化物を若干含み、軟らかい）
①：黒褐色シルト（褐色シルトの大ブロックを含む）

ED511
1：黒褐色シルト（炭化物を多量に含む）
2：極暗灰褐色シルト（φ5～10mm大の腐れ礫を含む）

第9図　ST4b平面図・断面図

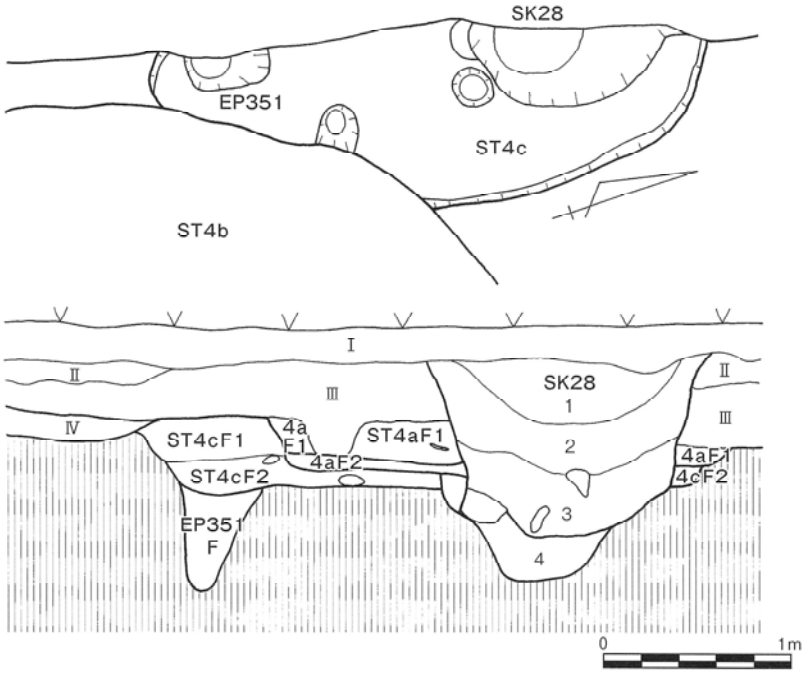




EL421

1：暗褐色シルト（微細炭化物を若干含む）
2：黒褐色シルト（黒色シルトブロックを多量含む）
3：褐色シルト（暗褐色シルトブロック、焼土粒を含む）
4：黒色シルト（微細な炭化物を若干含む）
5：黒褐色シルト（若干の焼土粒を含む。締まりなく軟らかい）
6：暗褐色シルト（若干の焼土粒を含む。締まりなく軟らかい）
7．極暗褐色シルト（大粒の炭化物を若干含む。締まりなく軟らかい）
8．黒褐色シルト（大粒の炭化物を多量含む。締まっており硬い）
9．極暗褐色シルト（φ20mm～80mm大の大小の腐れ礫と若干の炭化物を含む）
10.黒色シルト（腐れ礫を若干含む）

第10図　ST4b EL421平面・断面図



Ⅰ：暗褐色シルト（耕作土。腐れ角礫を含む。締まっている）
Ⅱ：黒褐色シルト（大小の腐れ角礫を含み、硬く締まっている）
Ⅲ：暗褐色砂質シルト（腐れ角礫を含む。縄文時代の遺物包含層）
Ⅳ：黒褐色シルト（腐れ角礫を含み、よく締まっている）

ST4a
1：黒褐色シルト（腐れ角礫を含む。やや締まっている）
2：黒色シルト（微細炭化物を多量含む。硬く締まっている）

ST4cのピット
1：暗褐色シルト（腐れ礫を含み、やや締まっている）

EL411
1：極暗褐色シルト（φ５～10mm大の小礫を多量含む）
2：黒褐色シルト（φ３～10mm大の小礫を多量含む。焼土粒、炭化物を若干含む）
3：暗褐色シルト（腐れ礫は含まない。炭化物を若干含む）
①：黒褐色シルト（φ５mm大の腐れ礫を僅か含む）
②：黒色シルト（締まりなく軟らかい。微細炭化物を若干含む）

EP315
1：黒色シルト（φ50mm大の腐れ礫と微細炭化物を含む）
2：暗褐色砂質シルト（黒色シルトのブロックを含む。軟らかい）

EP312
1：極暗褐色シルト（φ10mm大の腐れ礫を多量含む）

EP313
1：黒褐色シルト（（焼土粒、炭化物を若干含む）
2：褐色砂質シルト（φ10mm大の腐れ礫を含む）

EP314
1：黒褐色シルト（微細炭化物とφ10～20mm大の腐れ礫を含む）
2：暗褐色砂質シルト（黒色シルトブロックと腐れ礫を含む）

SK28
1：黒褐色砂質シルト（腐れ礫を多量含み、締まっている）
2：黒色シルト（腐れ礫を若干含む。軟らかい）
3：黒褐色シルト（φ20mm大の腐れ角礫を含む。軟らかい）
4：黒褐色シルト（腐れ礫を若干含む。軟らかい）

ST4aのピット
1：黒褐色シルト（地山ブロックを含み、硬く締まっている）

ST4c
1：黒褐色シルト（大小の腐れ角礫を多量含み、炭化物も若干含み、よく締まっている）
2：黒褐色砂質シルト（１より、腐れ礫が少なく、炭化物を含み、よく締まっている）

EP316
1：黒褐色シルト（黒色シルトブロック、腐れ礫を霜降り状に含む）
2：暗褐色砂質シルト（角礫を含む）

EP317
1：黒色シルト（炭化物、焼土粒を多量含む）
2：褐色砂礫（暗褐色シルトのブロックを含む。軟らかい）

EP318
1：黒褐色シルト（炭化物を若干、腐れ礫を多量、霜降り状に含む）
2：暗褐色砂質シルト（（黒色シルトのブロックを含む）

EP319
1：黒褐色シルト（褐色粗砂の大ブロックを斑状に含む）
2：暗褐色砂質シルト（黒色シルトブロックを含む）
3：黒色シルト（φ50mm大の腐れ礫を多量霜降り状に含む）

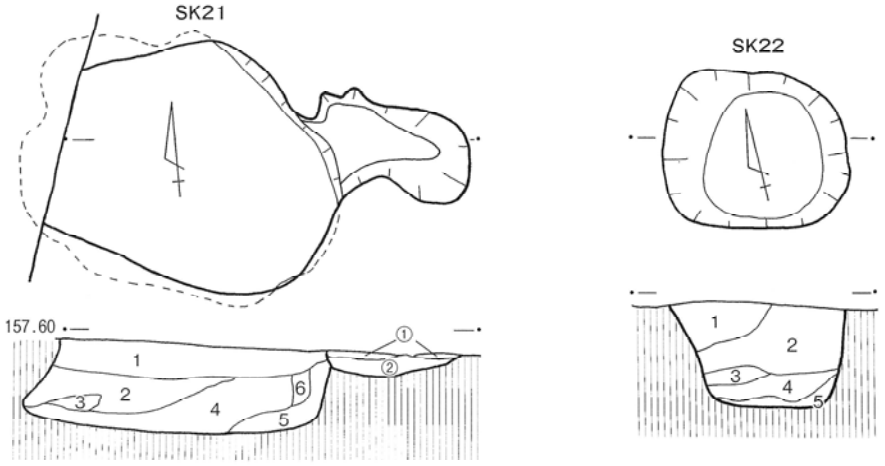
第11図　ST4c平面・断面図

（２）土坑（第12～16図）

２区で検出された土坑は26基である。その中には袋状となる貯蔵用の土坑も存在する。土坑の属性は表－１、２にまとめた。

表－１　土坑一覧（１）

No.	土坑番号	地区名	規模(cm) (長径×短径) 上：口径、下：底径	深さ (cm)	壁の掘込 状　態	底面の状態	出土土器	備　　考
1	21	9－10	(155) × 124 179 × 137	46	北東部を除き袋状	平坦	42	
2	22	9－10・11	96 × 82 65 × 65	55	急傾斜	平坦		
3	23	9－11	135 × 100 108 × 97	78	北部袋状	鍋底	43～50	
4	24	9・10－12	96 × 80 61 × 54	39	急傾斜	平坦	51・52	
5	25	9－13・14	132 × 110 110 × 82	34	北西部急傾斜南東部緩傾斜	平坦		
6	26	10－14	119 × 81 100 × 60	20	急傾斜	平坦		底面に礫
7	27	10－14	87 × 79 71 × 65	14	緩傾斜	平坦		底面に礫
8	28	9－14	150 × 48 ×	115	急傾斜	鍋底	56	
9	29	10－14	100 × 85 86 × 68	32	急傾斜	平坦	57～59	SK30を切る。ST4aと重複するが新旧は不明
10	30	10－14	129 × 106 108 × 83	38	急傾斜	平坦	60～65	SK29に切られる。ST4aと重複するが新旧は不明
11	31	9－15	100 × 81 ×	18	北側で袋状	平坦		
12	32	10－15	134 × 80 115 × 67	21	急傾斜	平坦	66・67	
13	33	10－15・16	91 × 85 65 × 63	23	西側急傾斜他は緩傾斜	平坦	68	SK34を切る。



SK21
１：極暗褐色シルト（φ３～20mm大の腐れ礫を多量含む。φ３～５mmの炭化物を多量含む）
２：黒褐色シルト（φ１～50mm大の腐れ礫を多量、霜降り状に含む）
３：褐色粘土質シルト（φ10～30mm大の腐れ礫を含む）
４：明褐色砂質シルト（黒褐色シルトのブロック、φ２～10mm大の腐れ礫を多量含む）
4b：黒褐色シルト（根の落ち込みか？腐れ礫を多量含む）
５：明褐色砂礫（黒色シルトのブロックを縞状に含む）
①：暗褐色砂質シルト（腐れ礫を多量含む）
②：暗褐色砂質シルト（φ10～50mm大の腐れ礫を多量含む）

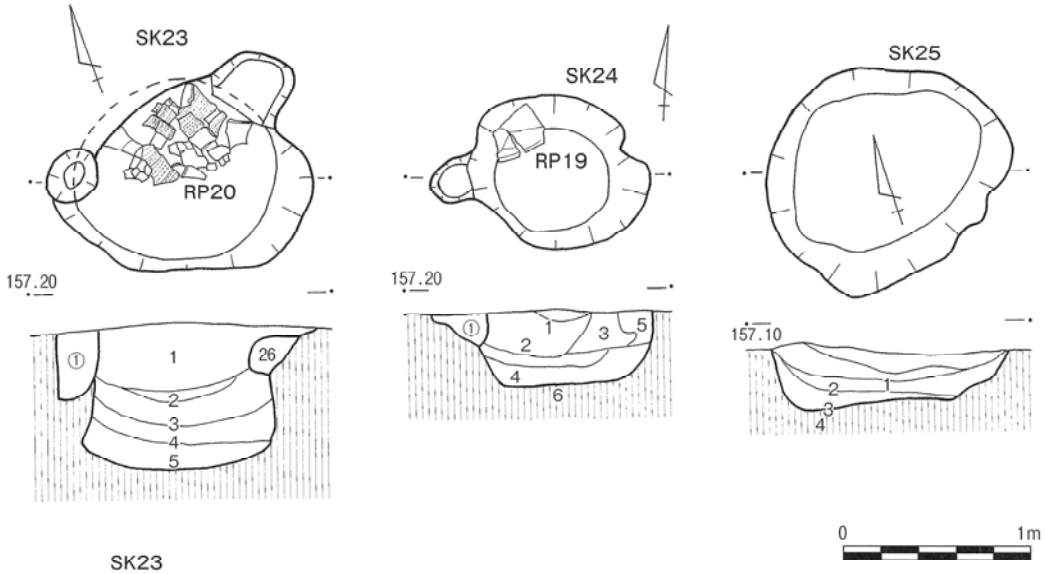
SK22
１：極暗褐色砂質シルト（φ40mm大の腐れ礫を多量、微細炭化物を若干含む）
２：黒褐色砂質シルト（φ５～10mm大の腐れ礫を多量含む）
３：黒色砂質シルト（φ10mm大の腐れ礫と大粒の炭化物をを多量含む）
４：黒色シルト（φ５～40mm程度のバラエティーのある腐れ礫を多量含む。大粒の炭化物も多量含む）
５：褐色砂質シルト（微細炭化物を多量、小礫を若干含む）

0　1m

第12図　土坑平面・断面図（１）

表－2　土坑一覧（2）

No.	土坑番号	地区名	規模(cm) (長径×短径) 上：口径、下：底径	深さ (cm)	壁の掘込 状　態	底面の状態	出土土器	備　　考
14	34	10－15・16	102 × 〈50 93 × 〈34	25	急傾斜	凹凸	69～72	SK33に切られる。南半部攪乱。
15	35	9 －17・18	120 × 81 101 × 64	16	急傾斜	凹凸		
16	36	10－18	174 × 125 155 × 104	18	急傾斜	凹凸		
17	37	10－17・18	220 × 213 ×	12	緩傾斜	平坦		
18	38	10－18	166 × 113 150 × 100	10	緩傾斜	鍋底		
19	39	9 ・10－12	103 × 91 133 × 111	70	袋状	鍋底	73・74	ST1を切る。
20	40	10－11・12	〈140 × 〈120 ×	48	急傾斜	鍋底		ST1を切る。
21	41	9 －13	95 × 73 105 × 86	44	袋状	鍋底	75	
22	42	9 －13	68 × 52 88 × 70	65	袋状	鍋底	76・77	
23	43	10－13・14	(115) × 58 (167) × 108	17	急傾斜	平坦		
24	44	9 －15	98 × 58 90 × 51	11	急傾斜	平坦		
25	45	10－15	83 × 74 70 × 64	32	急傾斜	平坦		底面にピットあり
26	46	10－18	125 × 114 ×	14	急傾斜	平坦		底面にピットあり

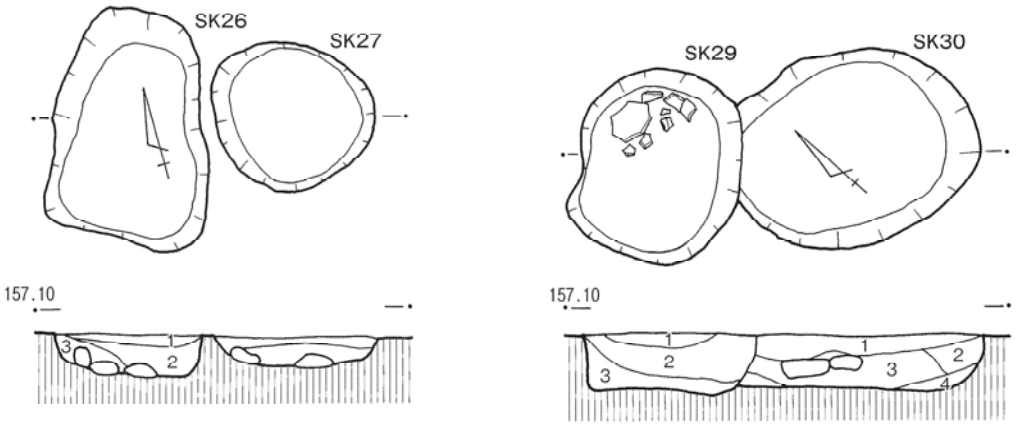


SK23
1：黒褐色シルト（φ1～50mm大の腐れ礫を霜降り状に含む。大粒の炭化物と焼土粒も多量含む）
2：褐色細砂（φ5mm大の腐れ礫を含むがほぼ純粋）
2b：褐色細砂（暗褐色シルトブロックを斑状に含む）
3：極暗褐色シルト（大粒の炭化物と焼土粒を含む）
4：黒褐色砂質シルト（大粒の炭化物を多量、焼土粒を若干含みφ30mm大の腐れ礫も若干含む）
5：黒色シルト質細砂（φ100mm大の大きな腐れ角礫を含む。微細炭化物も多量含む）
ピット：暗褐色腐れ礫含み砂質シルト（土坑を切る柱穴）

SK24
1：黒色シルト（φ2mm大の腐れ礫を霜降り状に含む）
2：極暗褐色シルト（φ1～10mm大の腐れ礫を霜降り状に、炭化物も若干含む）
3：黒褐色シルト（φ2～3mm大の礫を霜降り状に、炭化物も若干含む）
4：黒褐色砂質シルト（φ10mm大の黒色シルトブロックと腐れ礫を霜降り状に含む）
5：暗褐色シルト（腐れ大礫を1点含むが、ほぼ純粋）
6：褐色砂礫（黒色シルトブロックを斑状に含む）
ピット：褐色シルト（20～30mm大の腐れ礫を含む）

SK25
1：暗褐色シルト（φ5mm大前後の灰白色の腐れ礫と焼土粒を多量含み、炭化物の若干含む）
2：暗褐色砂質シルト（φ50mm大の腐れ礫と黒褐色シルトの大ブロックを若干含む）
3：黒褐色シルト（φ5mm～30mm大の腐れ礫を多量含む）
4：褐色シルト含み細砂（黒褐色シルトブロックと腐れ礫を多量含む）
5：極暗褐色砂質シルトと黒色シルトが斑状に混じり合う（φ20mm大の腐れ礫を若干含む）

第13図　土坑平面・断面図（2）

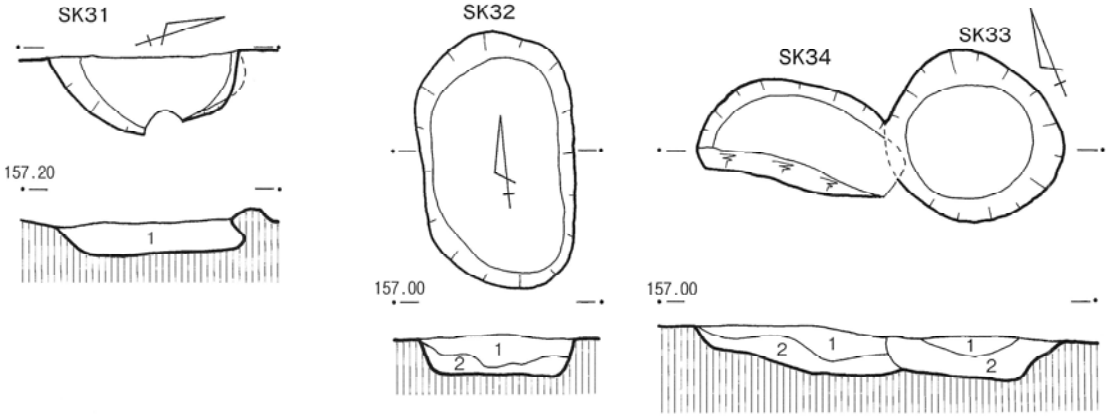


SK26
1：黒褐色シルト（灰白色シルト粒、灰白色の小礫を霜降り状に含む）
2：暗褐色砂質シルト（φ５～10mm大の腐れ礫を含む）
3：褐色シルトと黒色シルトが斑状をなす（大きな角礫を含む）

SK27
1：黒色シルト（５mm大の腐れ礫を多量霜降り状に含む）
2：暗褐色シルト（φ30mm～200mm大の腐れ円礫、角礫を多量含む）

SK29
1：極暗褐色シルト（灰白色の微細粒子を若干含む）
2：黒褐色シルト（φ３～10mmの腐れ礫片を多量霜降り状に含む。焼土流も若干）
3：暗褐色シルト（φ角礫、φ５mm大の腐れ小礫を多量含む）

SK30
1：極暗褐色砂質シルト（灰白色の微細粒子を霜降り状に含む）
2：暗褐色シルト（φ７～10mmの腐れ礫を多量含む）
3：黒色シルト（大きな角礫を多量含む）
4：暗褐色砂質シルト（腐れ円礫を含む）



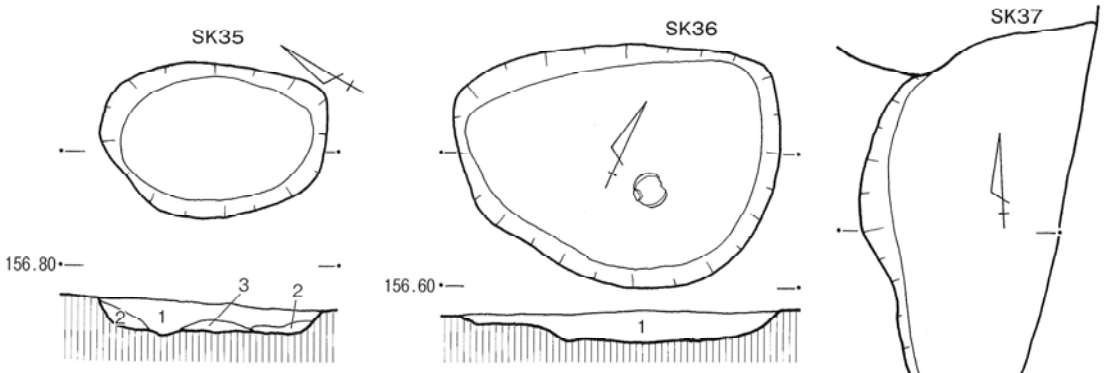
SK31
1：黒色シルト（腐れ角礫を含む）

SK32
1：黒褐色シルト（φ５～10mm大の腐れ礫を霜降り状に含む）
2：暗褐色細砂（黒色シルトのブロックを若干含む）

SK33
1：暗褐色シルト（φ５～10mm大の腐れ礫を多量含む）
2：黒褐色シルト（φ２～５mm大の腐れ礫を霜降り状に含み、焼土粒、炭化物を若干含む）

SK34
1：極暗褐色シルト（大粒の炭化物を若干含む。φ２～５mm大の腐れ礫を多量霜降り状に含む）
2：黒褐色シルト含み細砂（大粒の腐れ礫を若干含む。微細な炭化物も若干含む）

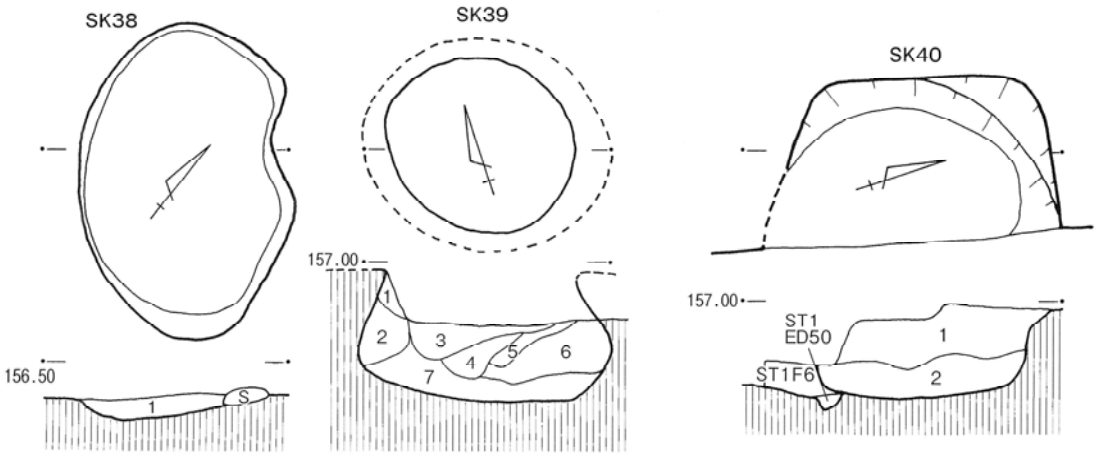
第14図　土坑平面・断面図（３）



SK35
1：黒褐色シルト（焼土粒と炭化物と腐れ礫を若干含む）
2：暗褐色シルト（φ２mm～10mm大の腐れ礫を含む）
3：暗灰褐色シルト（微細炭化物を若干含む）

SK36
1：黒褐色シルト（φ２～10mm大の腐れ礫、大粒の炭化物、焼土粒を若干含む）

SK37
1：暗褐色シルト（φ10mm前後の腐れ礫を多量含む）



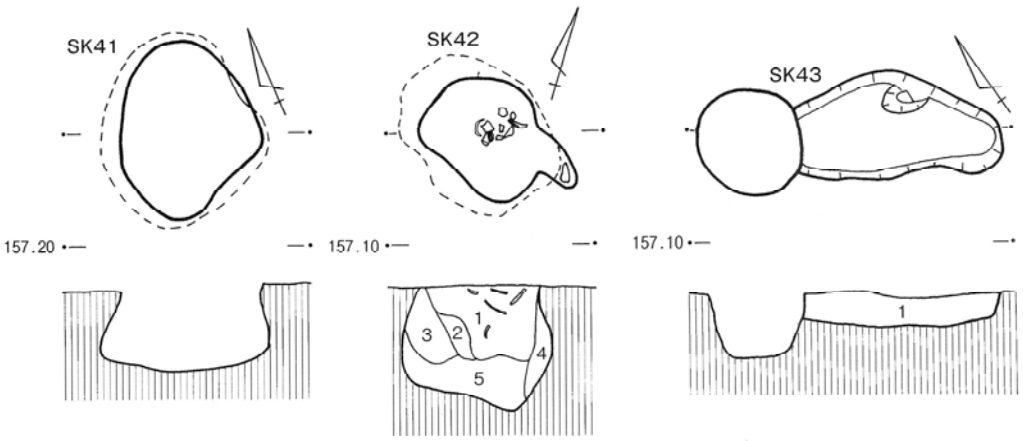
SK38
1：黒褐色シルト（φ３～15mm程度の腐れ礫と微細炭化物を霜降り状に含む）

SK39
1：黒褐色シルト（φ５mm大の腐れ礫を含む。炭化物を若干、暗褐色シルトブロックを斑状に含む）
2：褐色砂礫（壁の崩壊土。極暗褐色シルトの大ブロックを斑状に含む）
3：黒褐色シルト（φ２mm大の小礫、20～30mm大の腐れ礫を含む。大粒の炭化物も多量含む）
4：暗褐色シルト（黒褐色シルトのブロックを含み、φ５mm大の腐れ礫も多量含む）
5：極暗褐色シルト（φ10mm大の腐れ角礫を若干含む）
6：暗褐色砂質シルト（腐れ角礫のφ５mm大を多量、40mm大の角礫を若干含む）
7：黒褐色シルト（腐れ礫を若干、焼土粒、炭化物を多量含む）

SK40
1：黒褐色シルト（φ２～15mm大の腐れ礫を多量、大粒の炭化物を若干含む）
2：暗褐色シルト（φ10～２0mm大の腐れ礫を多量霜降り状に含む）

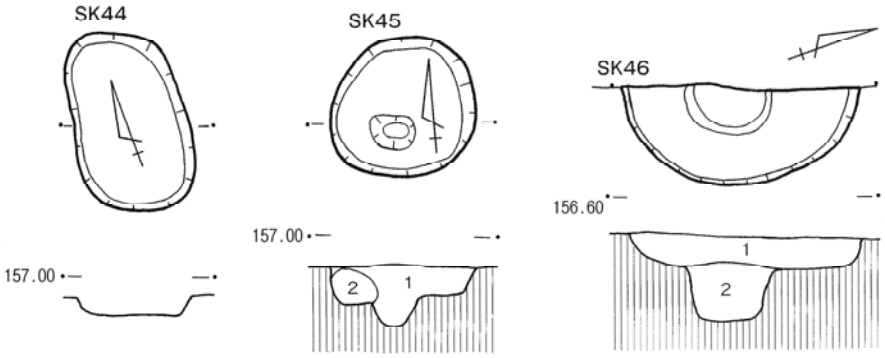
0　1m

第15図　土坑平面・断面図（４）



SK42
1：黒色砂質シルト（φ10mm前後の腐れ礫と焼土粒を多量含む）
2：暗褐色砂質シルト（50mm大の腐れ礫を若干含む。黒褐色シルトブロックも含む）
3：黒褐色シルト（φ５～30mm大の腐れ礫を多量含む）
4：褐色シルト含み細砂（黒褐色シルトブロックと腐れ礫を多量含む）
5：極暗褐色砂質シルトと黒色シルトが斑状に混じり合う（腐れ礫を多量含む）

SK43
1：黒褐色シルト（φ３～10mm前後の腐れ礫を多量、霜降り状に含む）



SK45
1：黒褐色シルト（φ７mm前後の腐れ礫を霜降り状に含む）
2：極暗褐色砂質シルト（黒色シルトブロックを含む）

SK46
1：黒色シルト（φ２～10mm大の腐れ礫を霜降り状に含む）
2：黒褐色シルト（φ10mm大の腐れ礫を多量含む）

0　1m

第16図　土坑平面・断面図（５）

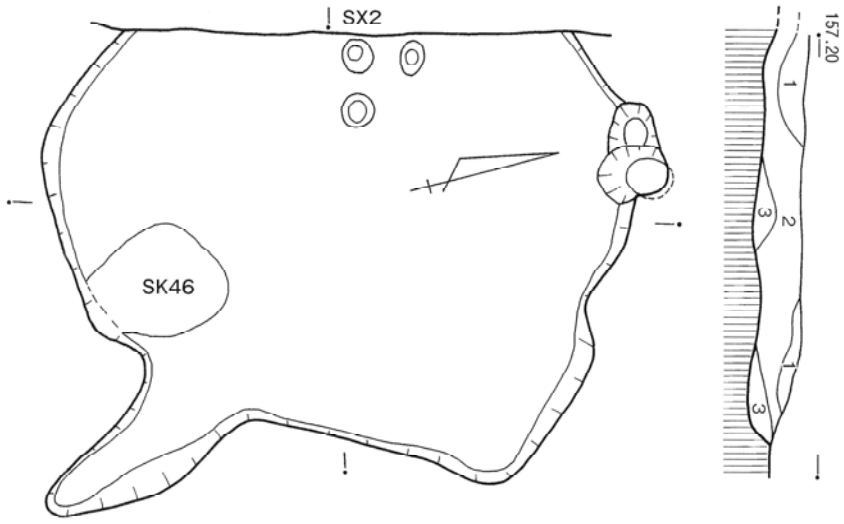
（３）落込み（第17図）

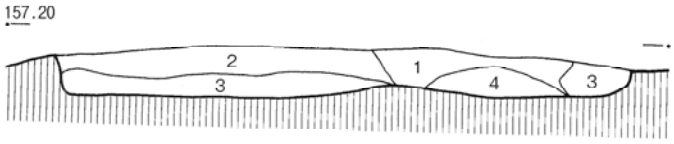
竪穴住居とはならない性格不明の落込みが３基検出された。このうち、ＳＸ３は部分的な検出に留まっている。ＳＸ２はＳＴ１の西にある隅丸方形の落込みで東辺が約2.5m、北辺は約２ｍを測る。堆積土は３層に分かれ、底面は凹凸がある。ＳＸ５も隅丸方形のプランでＳＤ７を切っている。

縄文時代の遺構ではない可能性がある。

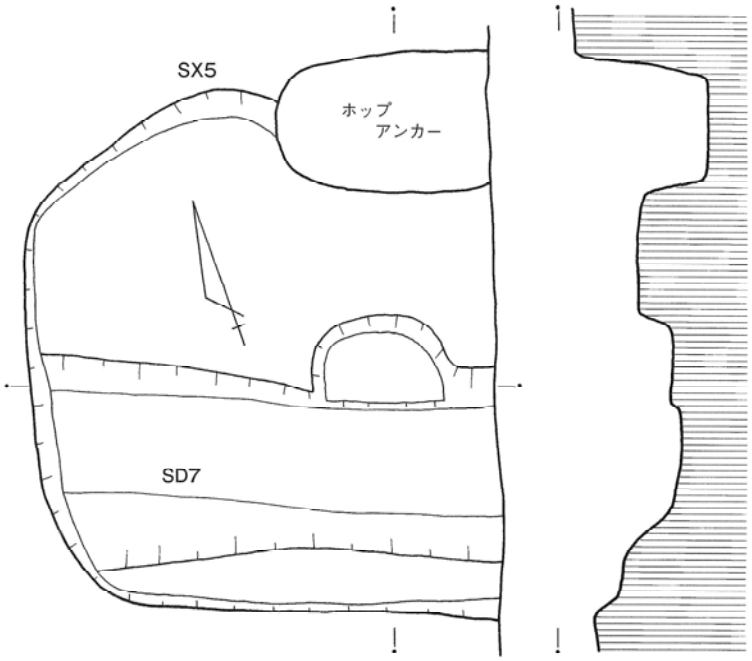
（４）ピット（第４図）

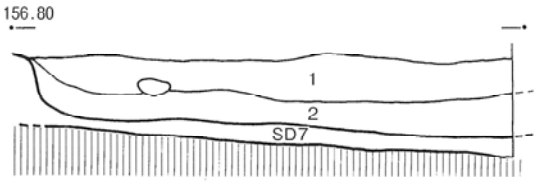
竪穴住居のエリア以外から検出されたピットは約150基であり、大きなものは径70cm前後、小さなものは15～20cmの規模を持っている。





SX2
1：暗褐色砂質シルト
2：褐色砂礫（暗褐色シルトブロックを含む）
3：暗褐色シルト
4：褐色粗砂（暗褐色シルトブロックを含む）





SX5
1：黒色シルト（腐れ礫の微細ブロックと焼土粒を霜降り状に含む）
2：黒褐色シルト（灰褐色腐れ礫を含む）

SD7
1：暗褐色シルト（黒褐色シルトブロックを含む）

第17図　落込み平面・断面図

3　出土した遺物

今回の調査で出土した遺物は整理箱で20箱である。縄文土器と石器があり、内訳は縄文土器が18箱、石器が２箱である。

（１）竪穴住居出土の縄文土器

ＳＴ１（第18～20図）

ＳＴ１では堆積土の６層からＲＰ15、23が出土し、複式炉の埋設土器であるＥＵ403の３個体の土器が復元された。24は住居中央部の床面からやや浮いた状態で出土したＲＰ23で口径220㎜、体部下半を欠く資料である。Ｃ字文が展開し、体部下半は沈線で文様帯と区画されている。

25は南の壁寄りの６層で出土した。口径240㎜、器高465㎜、底径104㎜、中位よりやや上部に最大幅があり295㎜を測る。最大幅の位置から上位が文様帯となる。地文は複節である。

26はEL401の埋設土器である。口径299㎜、器高460㎜、底径175㎜の粗製の深鉢である。この他、堆積土の各層から１～18が、また、複式炉の堆積土から19、20の土器片出土している。床面で確認されたＥＰ304からは23の土器片が出土したが、これは縄文時代後期に属するものであり、ＳＴ１を切っていたものと考えられる。

ＳＴ４ａ（第21・22図）

堆積土の１層から31の壺形土器が出土した。口径130㎜で残存部の器高は170㎜を測る。３単位の文様構成となり、橋状把手が付けられている。

ＥＬ412の埋設土器である34は最大径が310㎜の深鉢で、地文は撚糸文である。

ＳＴ４ｂ（第22・23図）

堆積土からは35のキャリパー形の土器が出土した。37は複式炉ＥＬ421の土器埋設部の埋甕で底部を欠いている。口径300ｍｍ、最大径310㎜、残存高195㎜、隆線で区画された楕円形文、波頭文が認められる。

38は石組み部の先端に埋設された２個体の土器のひとつで、より下位に埋設されていたＥＵ423ａの深鉢である。口径310㎜、残存高186㎜、沈線で区画された逆Ｕ字形２個と楕円１個からなる２単位の文様で構成されている。

40はＥＵ423ｂで423ａに被さるように出土した土器である。口径317㎜、残存高197㎜、隆線で区画されたC字状文３単位の文様が付けられている。波状の隆線の下位は縄文帯となっている。

ＳＴ４ｃ（第23図）

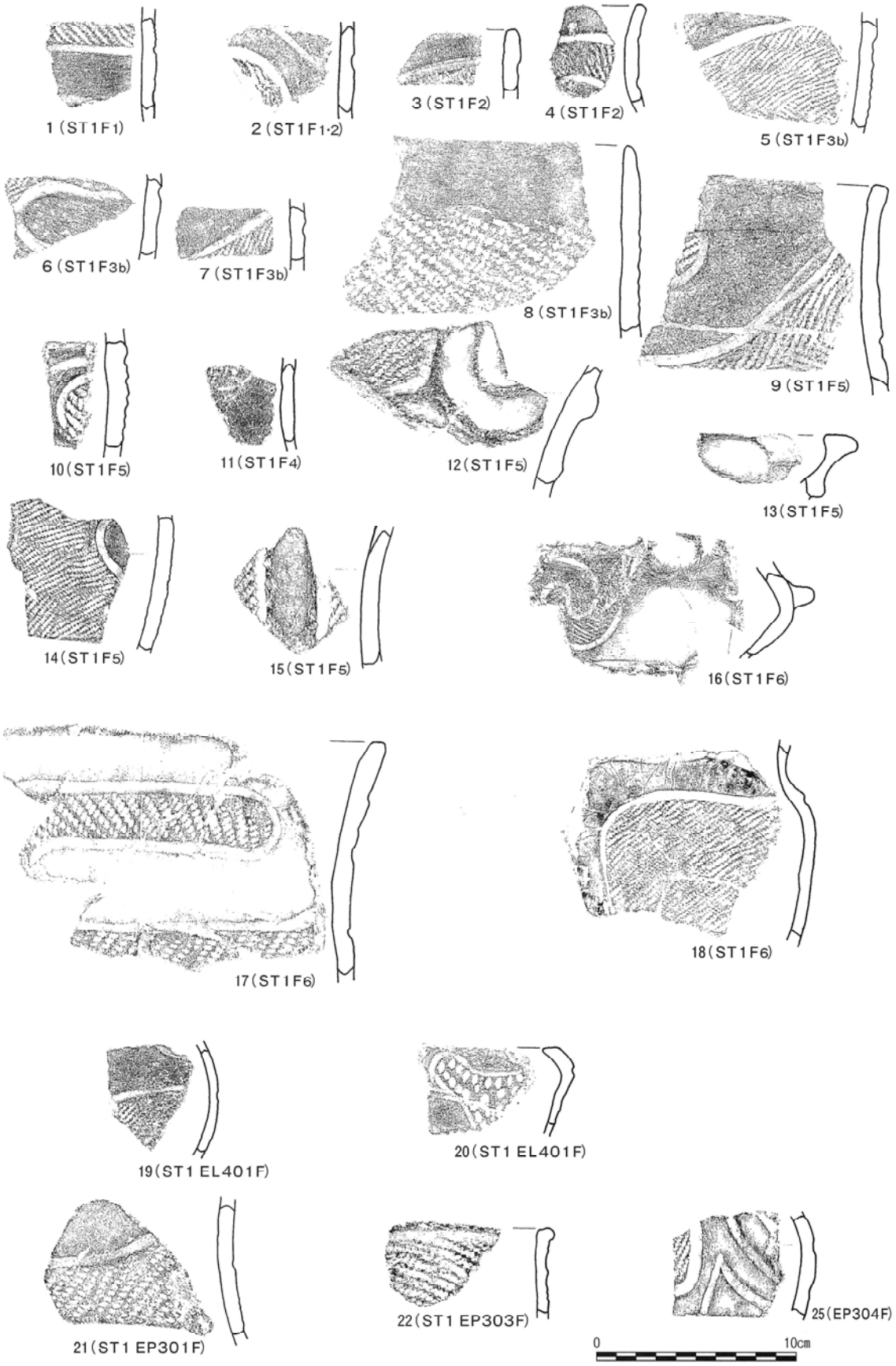
41は堆積土１層から出土した隆線で区画された文様を持つ土器である。

（２）土坑出土の縄文土器（第23～25図）

土坑内堆積土からも多くの土器片が出土した。その多くは中期末葉の大木10式のものであるが、中に後期前葉のものも散見される。ＳＫ23から出土した45、46は堀之内１式併行の土器である。

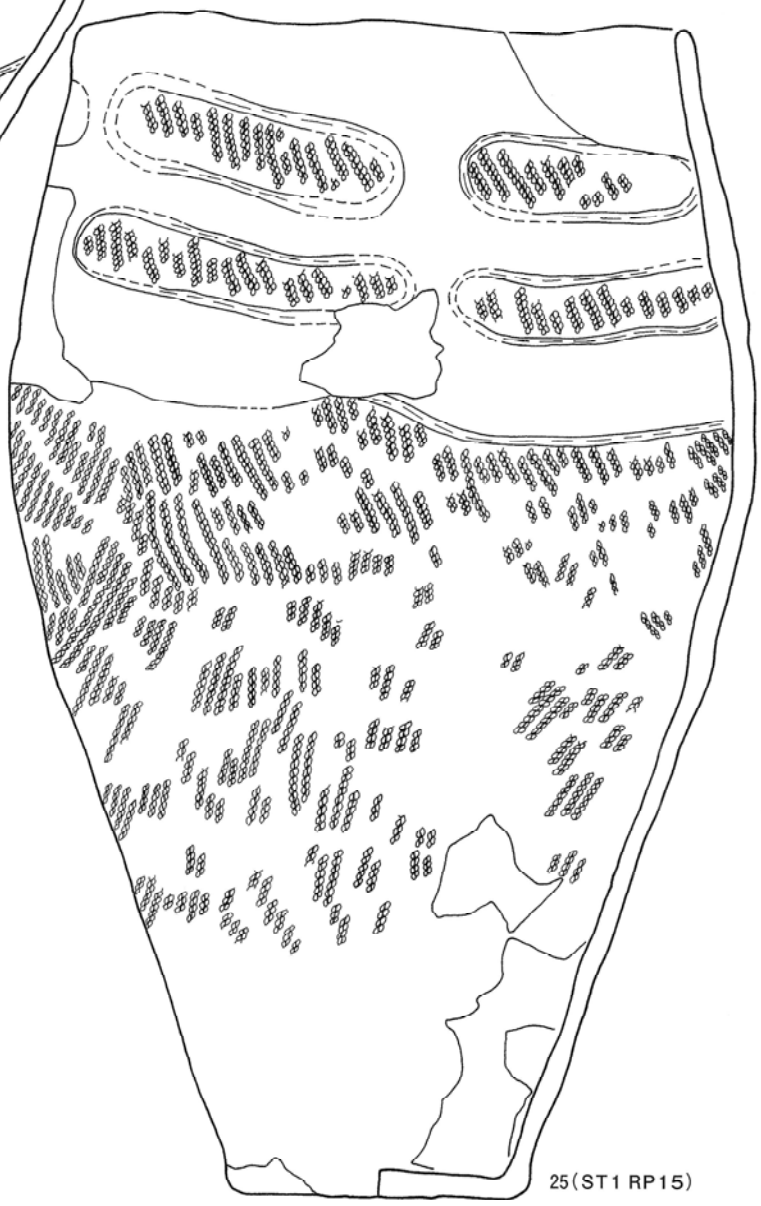
ＳＫ29から出土した58は壺形土器で隆線で区画された内部に単節縄文と刺突文が併用されている。59も同じ土坑から出土したアルファベット文を持つ大形破片である。

75は口径116㎜、現存長115㎜の注口土器である。隆線で区画された文様帯があり、方形区画の中に単節縄文が充填されている。


1 (ST1F1)
2 (ST1F1·2)
3 (ST1F2)
4 (ST1F2)
5 (ST1F3b)
6 (ST1F3b)
7 (ST1F3b)
8 (ST1F3b)
9 (ST1F5)
10 (ST1F5)
11 (ST1F4)
12 (ST1F5)
13 (ST1F5)
14 (ST1F5)
15 (ST1F5)
16 (ST1F6)
17 (ST1F6)
18 (ST1F6)
19 (ST1 EL401F)
20 (ST1 EL401F)
21 (ST1 EP301F)
22 (ST1 EP303F)
25 (EP304F)
0
10cm

第18図　出土土器（1）

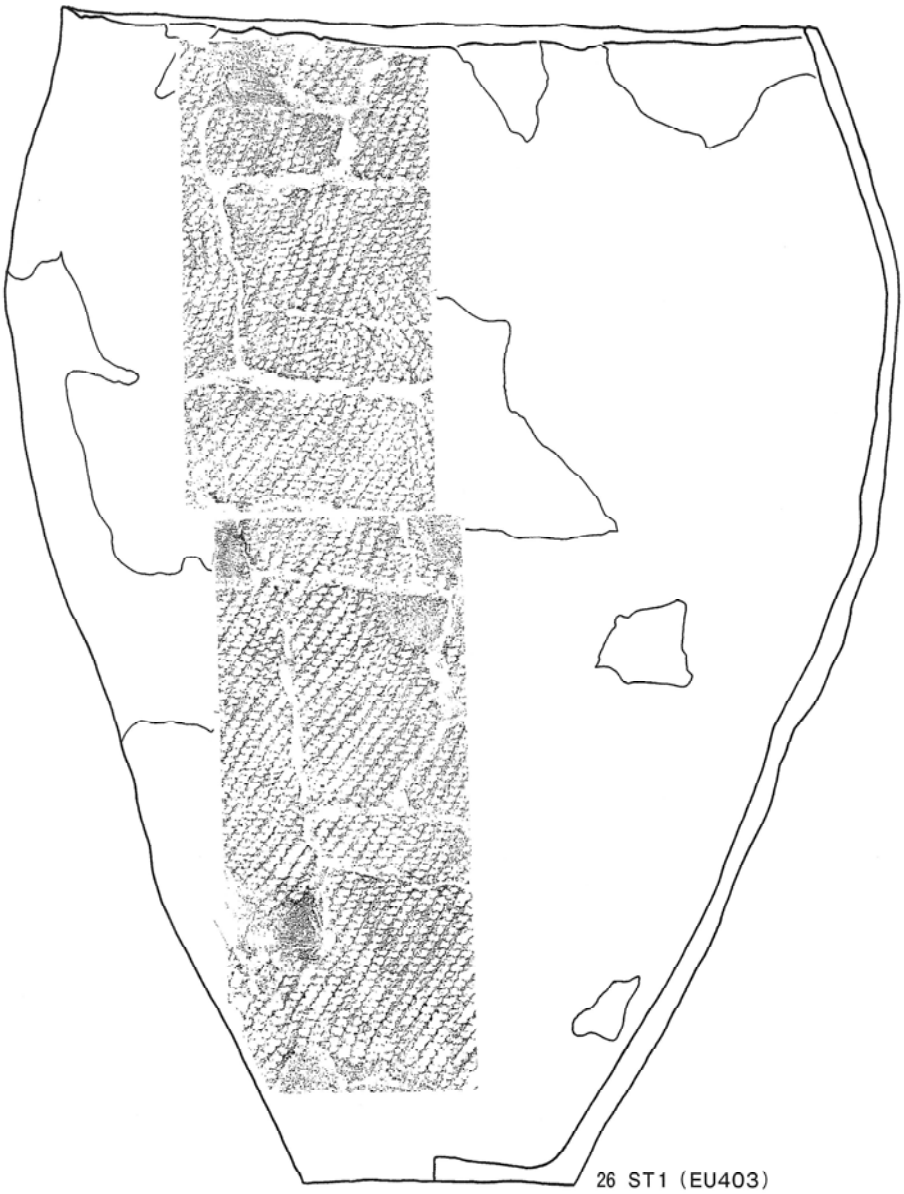
24(ST1 RP23)



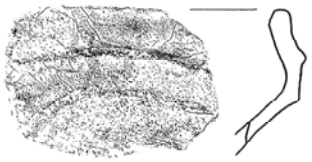
25(ST1 RP15)

0 10cm

第19図　出土土器（2）

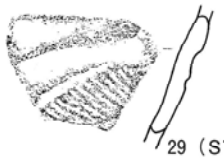


第20図　出土土器（3）

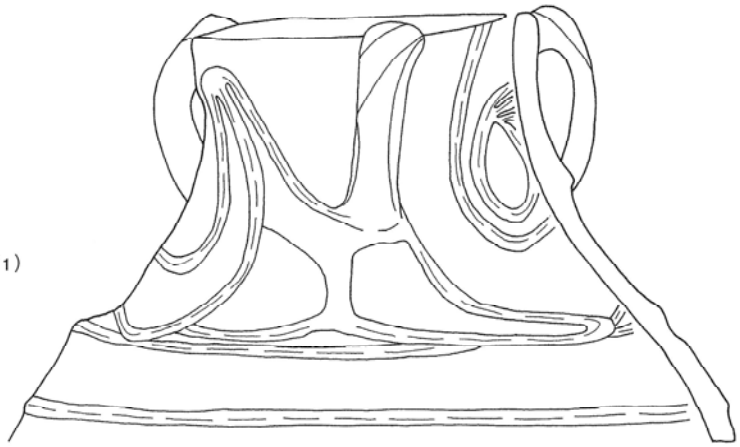


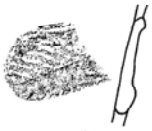
27（ST4aF1）

28（ST4aF1）

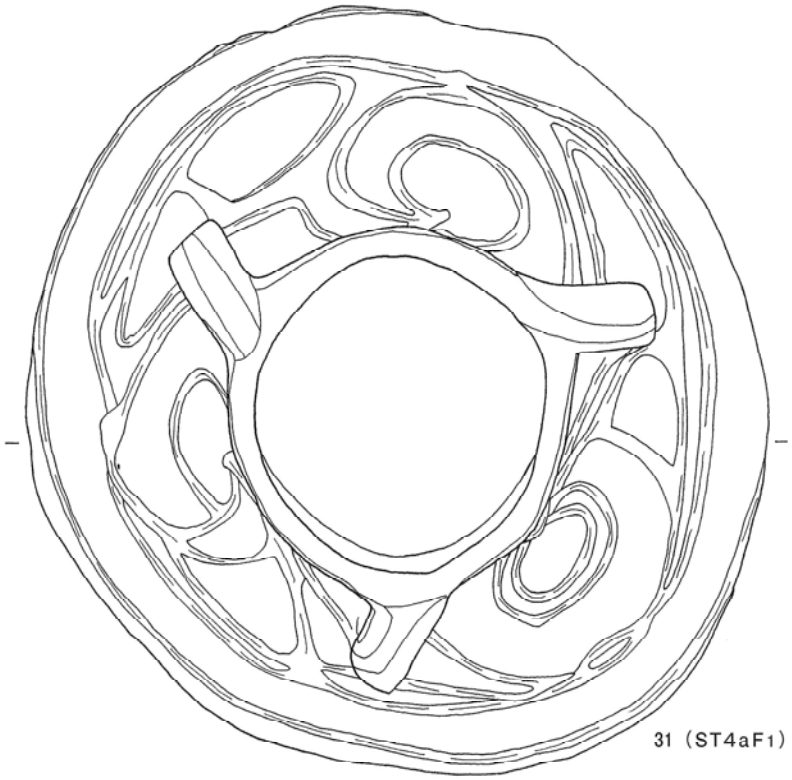


29（ST4aF1）





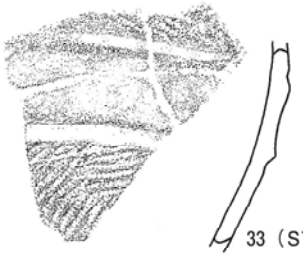
30（ST4aF1）



31（ST4aF1）

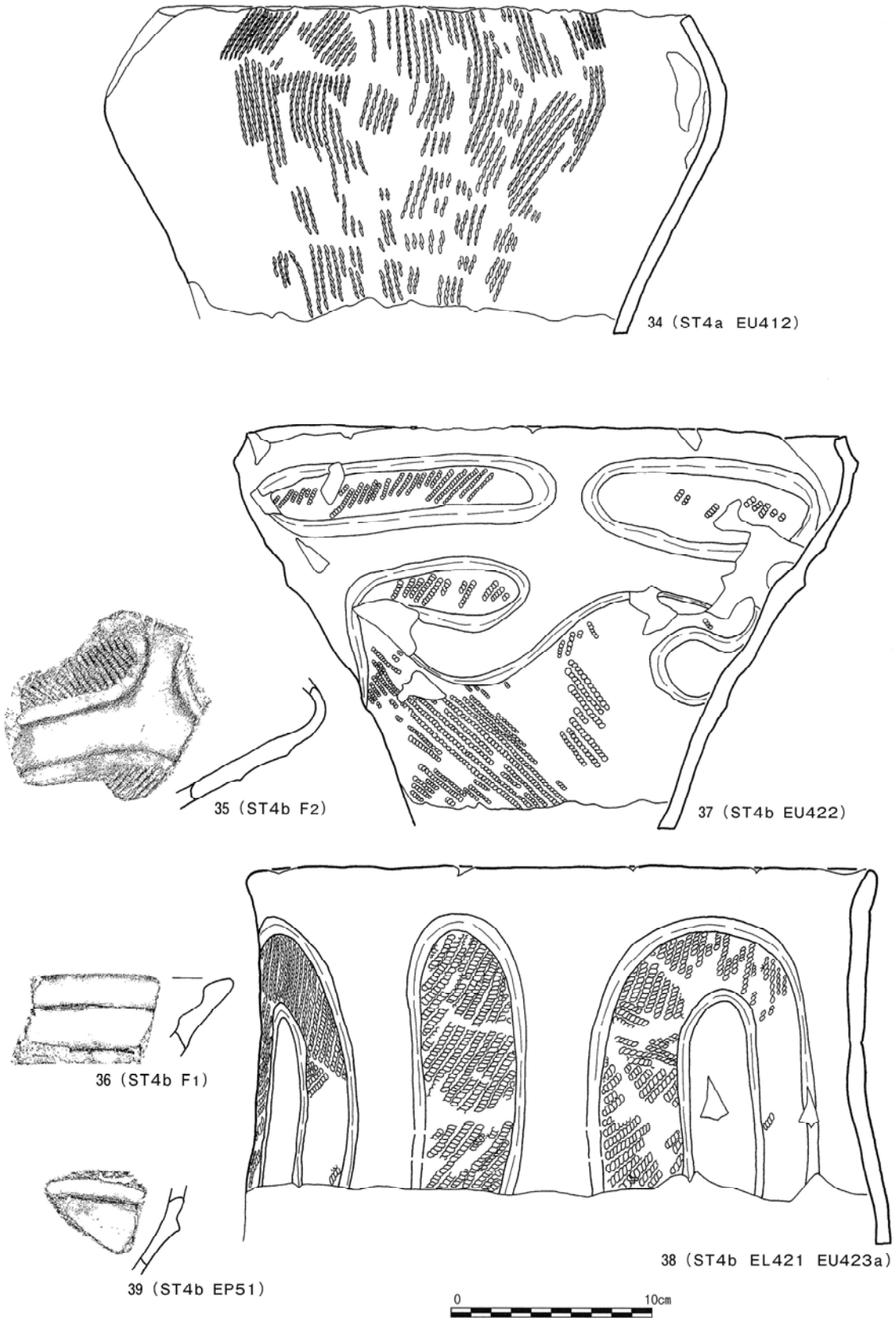
32（ST4a EP315）

0　10cm

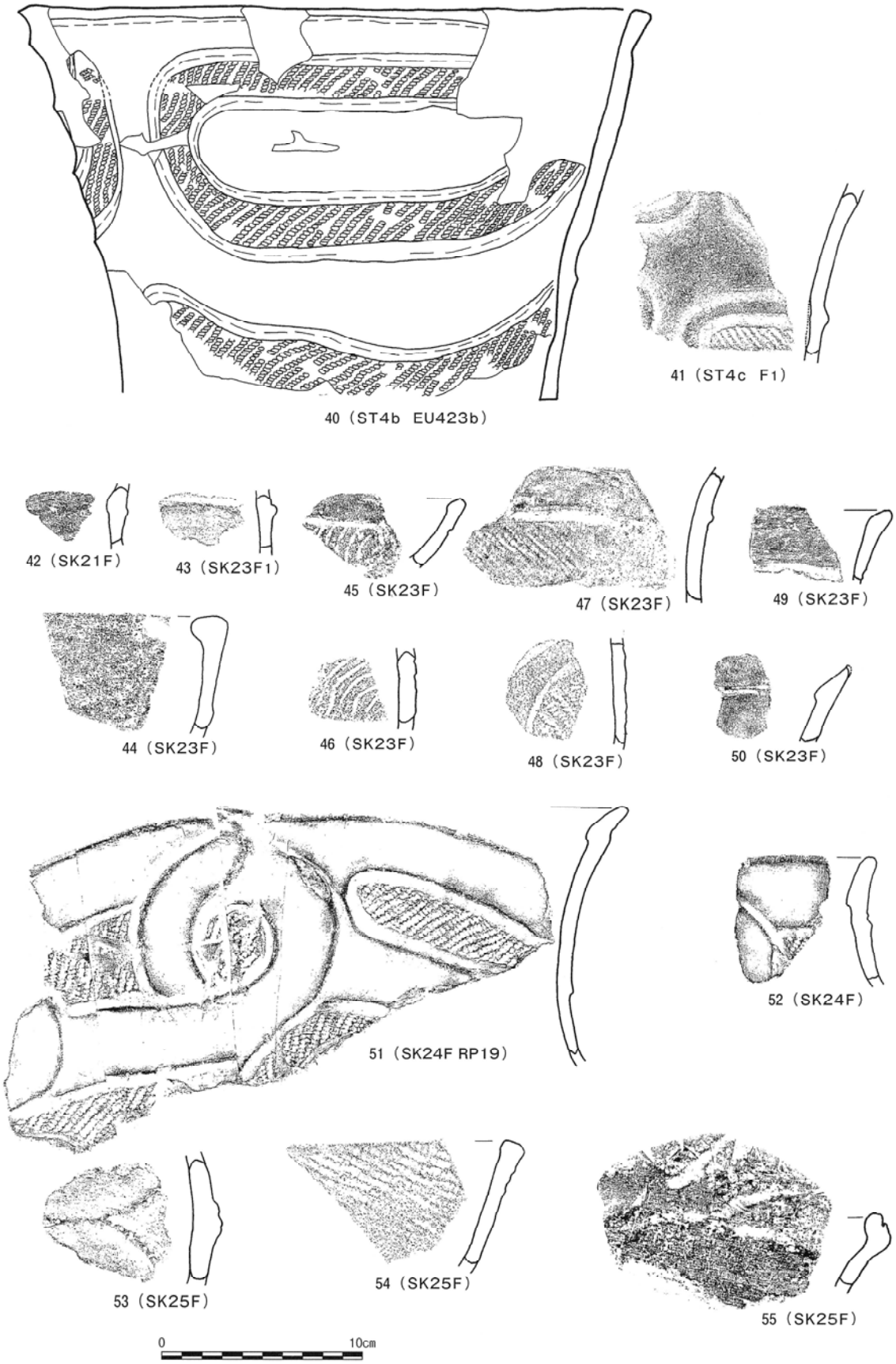


33（ST4a EP315）

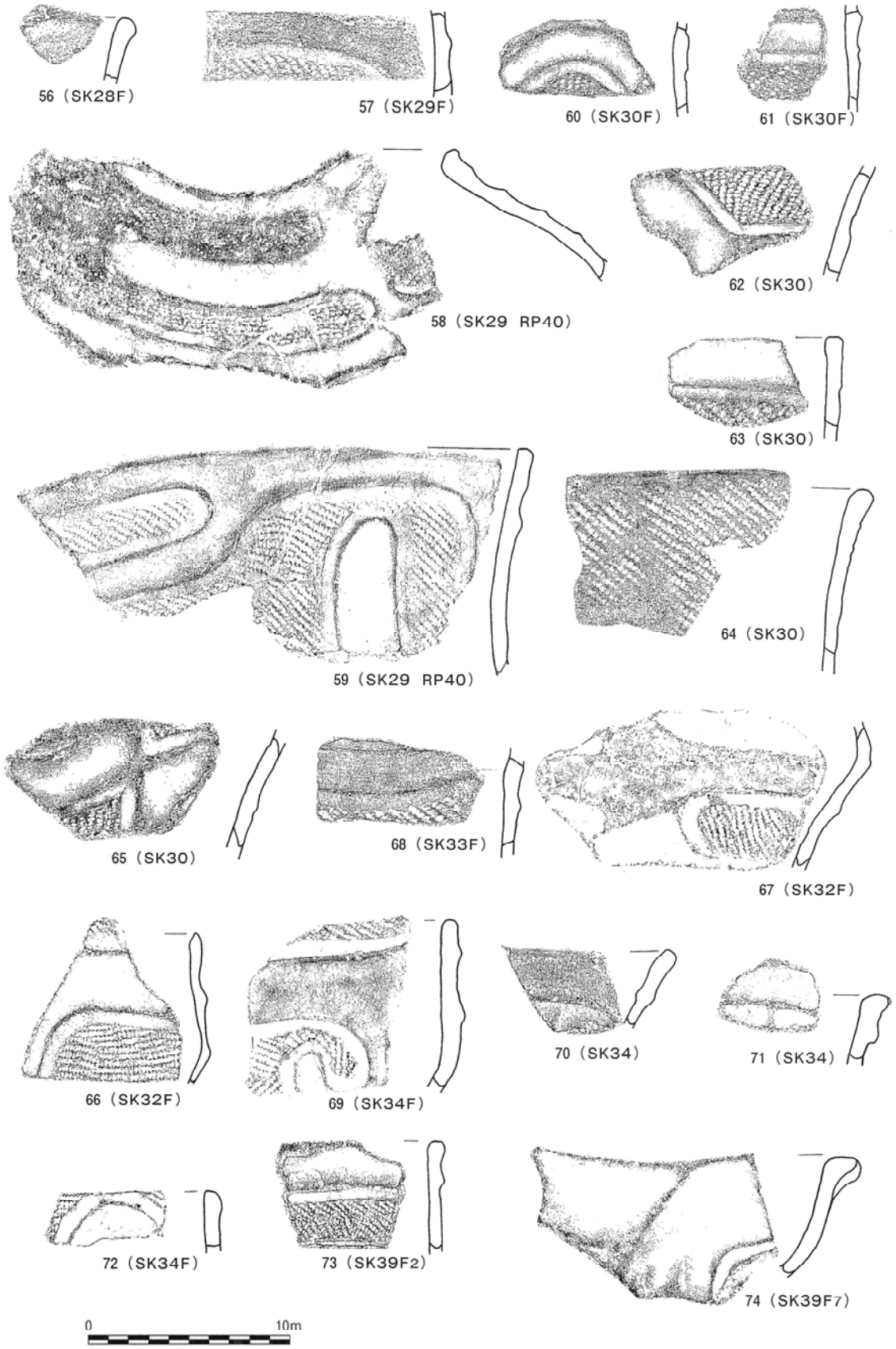
第21図　出土土器（4）


34（ST4a EU412）
35（ST4b F2）
37（ST4b EU422）
36（ST4b F1）
38（ST4b EL421 EU423a）
39（ST4b EP51）
0
10cm

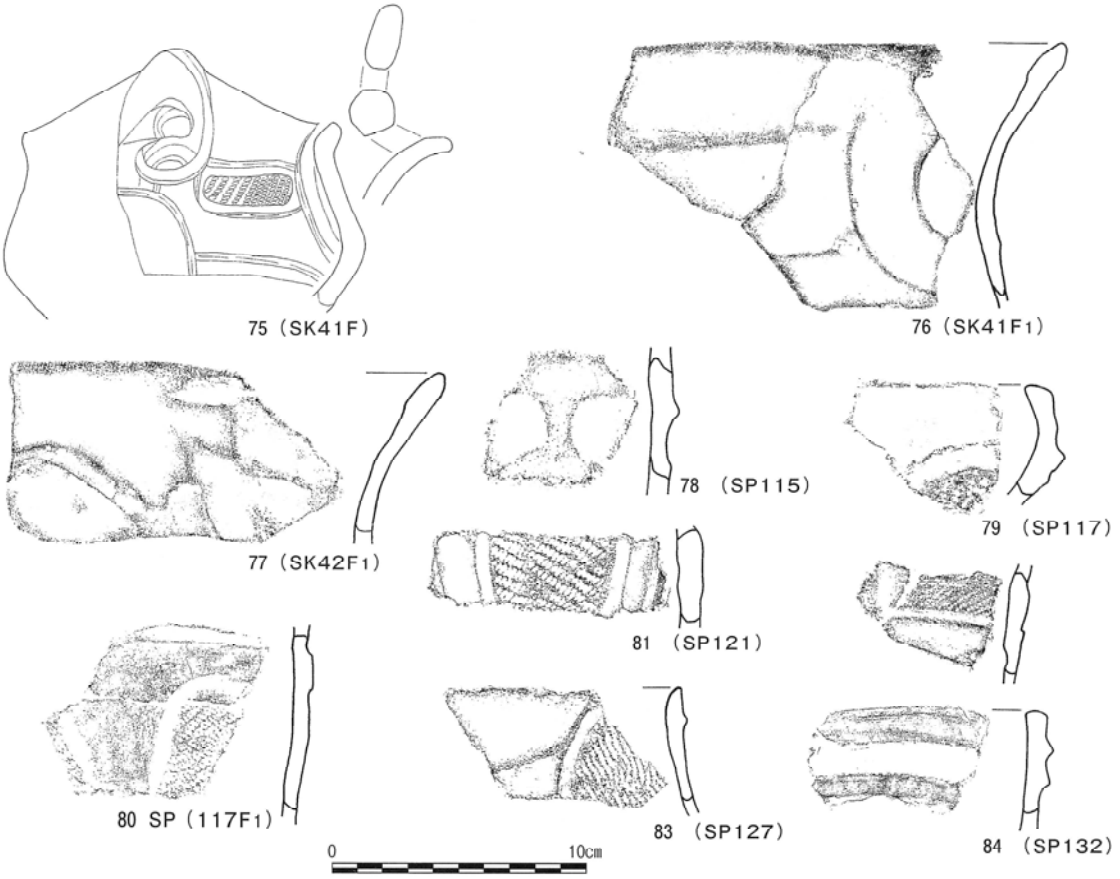
第22図　出土土器（5）


40（ST4b EU423b）
41（ST4c F1）
42（SK21F）
43（SK23F1）
45（SK23F）
47（SK23F）
49（SK23F）
44（SK23F）
46（SK23F）
48（SK23F）
50（SK23F）
51（SK24F RP19）
52（SK24F）
53（SK25F）
54（SK25F）
55（SK25F）
0
10cm

第23図　出土土器（6）


56（SK28F）
57（SK29F）
60（SK30F）
61（SK30F）
58（SK29 RP40）
62（SK30）
63（SK30）
59（SK29 RP40）
64（SK30）
65（SK30）
68（SK33F）
67（SK32F）
66（SK32F）
69（SK34F）
70（SK34）
71（SK34）
72（SK34F）
73（SK39F2）
74（SK39F7）
0
10m

第24図　出土土器（7）



第25図　出土土器（８）

（３）石器（第26～29図）

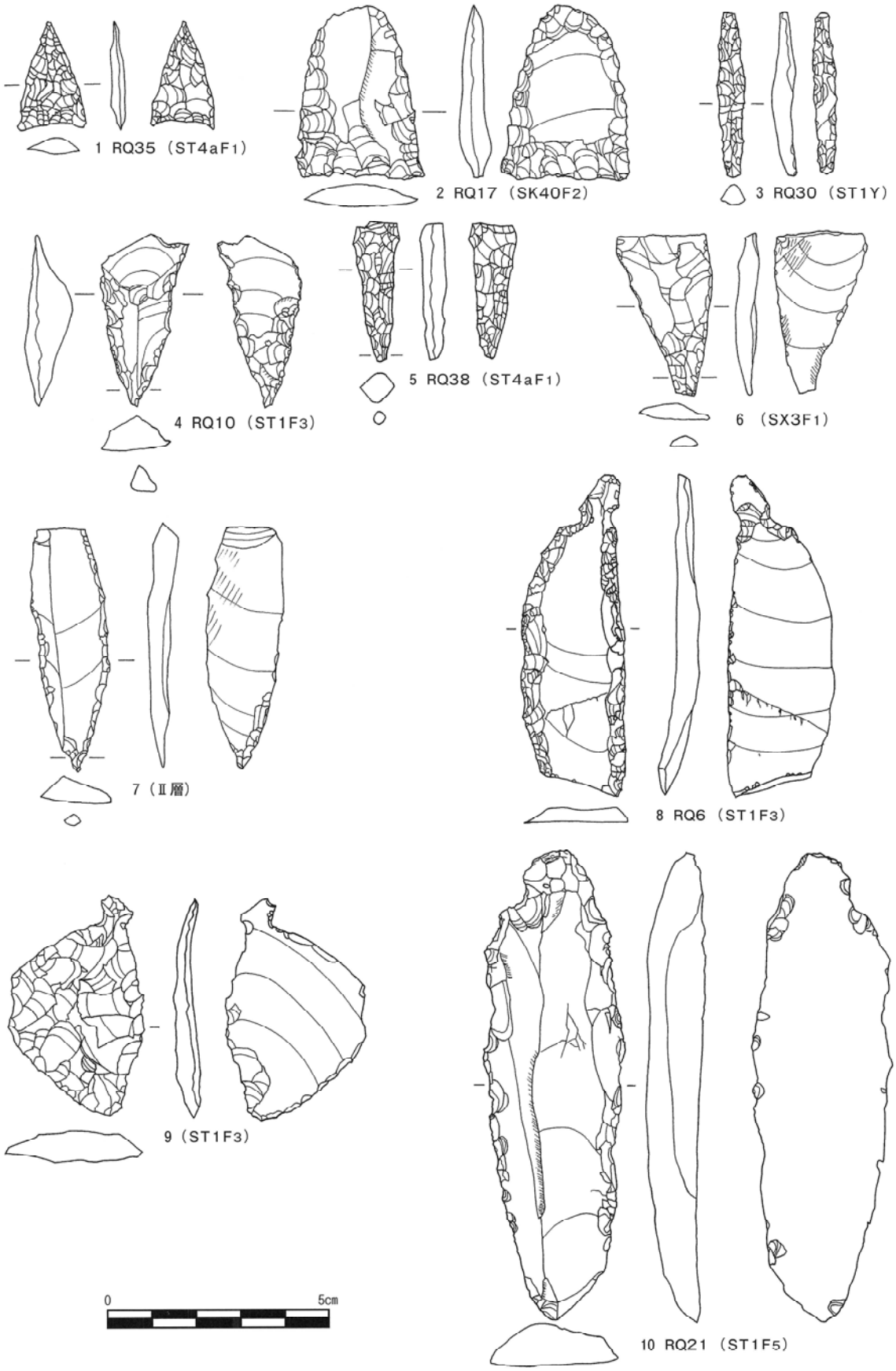
出土した石器は整理箱で２箱と多くはない。そのうち、いわゆるtoolは31点で使用根ある剥片（26・27）も若干存在する。Toolの内訳は石鏃が２点、石錐が５点、石匙が６点、石篦が３点、掻器が５点、削器が３点、ノッチが１点、石斧が５点、凹石が１点、石棒が１点である。

石鏃は無茎の２点でうち１点は未成品である。石錐は棒状で細長い尖頭部を持つものが２点（３・５）、剥片の基部に尖頭部を作出したもの（４）、先端部に尖頭部を作出したもの（６・７）がある。

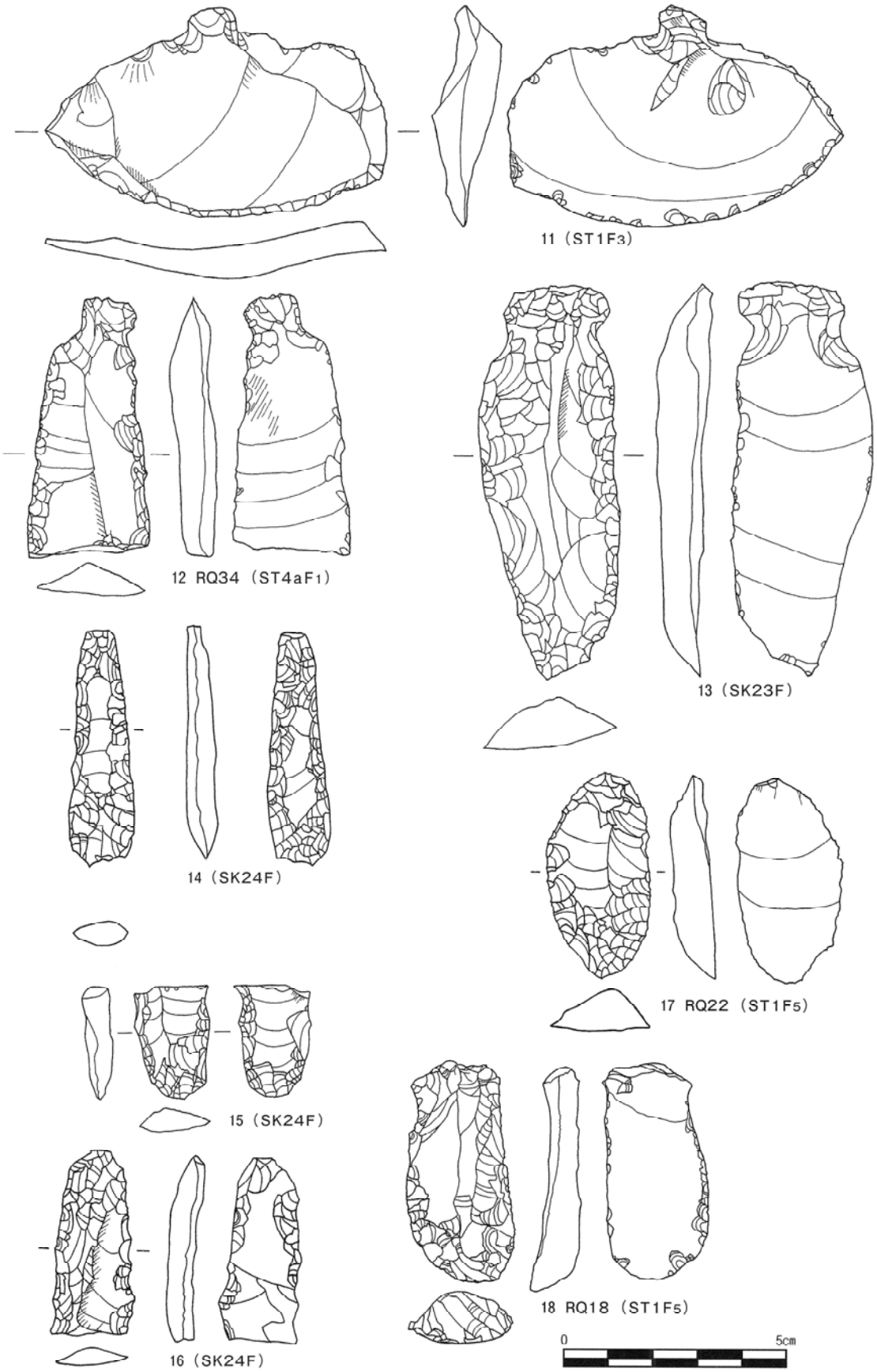
石匙はやや崩れてはいるが縦形石匙が４点（８・10・12・13）、横形が１点（11）、その中間形態が１点（９）である。14～16は細身であるが先端部が刃部となる小形の石篦である。14は先端部がやや破損しているもののほぼ完形であり、15は先端部資料、16は先端部を欠いている。

17～21は縦長剥片の先端部に背の高い刃部を作出した掻器である。旧石器時代のエンドスクレィパーに似る。22～24は剥片の側縁部に刃部を作出した削器である。掻器に比べ刃部の角度は浅い。25は剥片の下部に抉りを付けたノッチである。26は背面右側と裏面左側に細かな剥離が認められる。27にも細かな刃こぼれがある。26、27と他に２点の剥片がＳＴ１の床面から３の石錐と共に出土した。

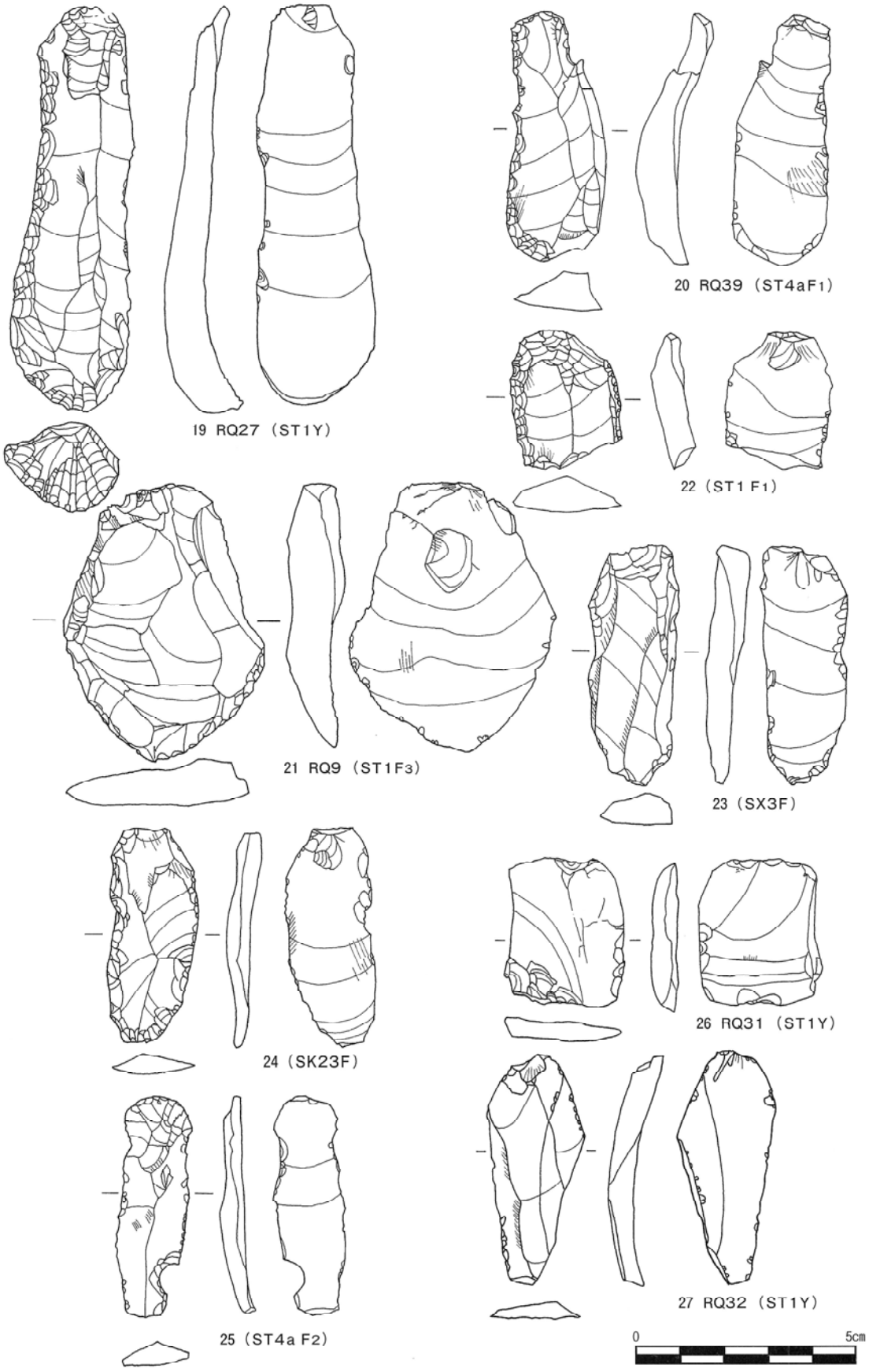
28～32は磨製石斧である。28は石鑿、29も小形の石斧で完形、刃部資料はすべて両刃となる。
33はST4bの複式炉の堆積土中から出土した石棒で下半部は欠失するが、重さ５kgを越える大形品である。34は両面に凹面をもち、全周に磨痕の残る凹石である。


1 RQ35 (ST4aF1)
2 RQ17 (SK40F2)
3 RQ30 (ST1Y)
4 RQ10 (ST1F3)
5 RQ38 (ST4aF1)
6 (SX3F1)
7 (Ⅱ層)
8 RQ6 (ST1F3)
9 (ST1F3)
10 RQ21 (ST1F5)
0
5cm

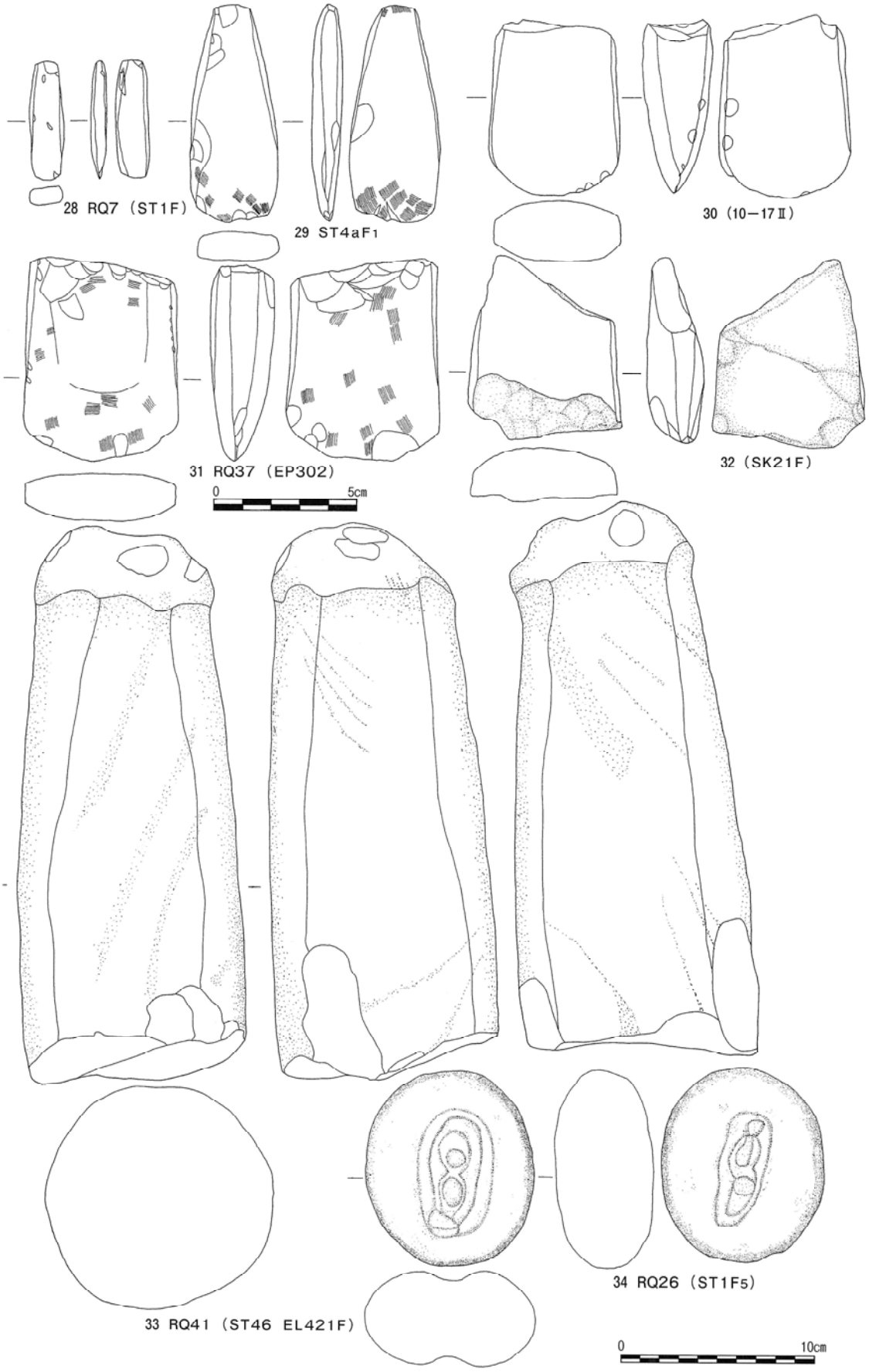
第26図　出土石器（1）


11 (ST1F3)
12 RQ34 (ST4aF1)
13 (SK23F)
14 (SK24F)
15 (SK24F)
16 (SK24F)
17 RQ22 (ST1F5)
18 RQ18 (ST1F5)
0
5cm

第27図　出土石器（2）


19 RQ27 (ST1Y)
20 RQ39 (ST4aF1)
22 (ST1 F1)
21 RQ9 (ST1F3)
23 (SX3F)
24 (SK23F)
26 RQ31 (ST1Y)
25 (ST4a F2)
27 RQ32 (ST1Y)
0
5cm

第28図　出土石器（3）


28 RQ7 (ST1F)
29 ST4aF1
30 (10−17Ⅱ)
31 RQ37 (EP302)
32 (SK21F)
0 5cm
33 RQ41 (ST46 EL421F)
34 RQ26 (ST1F5)
0 10cm

第29図　出土石器（4）

石鏃属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	快深(基長)	最大幅の位置	側縁		折損	挿図
			長	幅	厚				左	右		
1	ST4bF1RQ35	頁岩	20.3	10.5	3.0	0.8	1.0	B	a	a		26-1
2	SK40F2	頁岩	38.0	28.9	7.1	6.1	0.9	B	a	a		26-2

石錐属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	尖頭部				尖頭部加工				折損	挿図
			長	幅	厚		長	幅	厚	断面形	a	b	c	d		
3	ST1YRQ30	頁岩	35.5	1.6	4.0	1.1	1.9	3.5	3.5	ひし形	○	○	○	○	基部	26-3
4	ST1F3RQ10	頁岩	40.8	20.7	19.8	4.6	23.0	10.1	8.3	ひし形	○	○	○	○		26-4
5	ST4aF1RQ38	玉髄	30.2	10.8	6.0	1.8	26.4	9.1	5.6	ひし形	○	○	○	○	先端	26-5
6	SX3F	頁岩	36.5	21.0	4.1	2.7	10.4	10.2	4.3	三角形	○	○	—	—	先端	26-6
7	Ⅱ層	頁岩	54.1	10.7	5.1	5.1	4.4	5.5	2.7	台形	○	○	○	○		26-7

石匙属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	加工部位と種類						縁辺状況と平均刃角						折損	挿図
			長	幅	厚		a	b	c	d	e	f	a・d	刃角	b・c	刃角	e・f	刃角		
8	ST1F3RQ6	頁岩	68.4	23.7	5.1	9.6	○	○	○	—			B	55	B	45			下半	26-8
9	ST1F3	頁岩	39.6	37.7	4.5	6.7	○	○	○	○	○	○	B、C	20	A	35	A	20		26-9
10	ST1F5	頁岩	103.6	30.0	10.5	36.2	○	○	—	—	○	—	A	45	A	45	A	45		26-10
11	ST1F3	頁岩	48.1	76.2	8.2	27.6	○	—	—	—	○	○	B、C	10	A	55	A	55		27-11
12	ST4aF1RQ34	頁岩	57.1	28.4	8.3	14.0	○	○	—	—			A	30	A	50			下半	27-12
13	SK23F	頁岩	86.6	30.3	11.1	30.9	○	○	—	—	○	○	A	50	A	45	C	45		27-13

石篦属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	加工部位と種類					縁辺状況と平均刃角						残存部位	挿図
			長	幅	厚		a	b	c	d	f	a・d	刃角	b・c	刃角	e・f	刃角		
14	SK24F	頁岩	52.5	14.3	6.7	5.3	○	○	○	○	○	A	45	A	50	B、C	65		28-14
15	SK24F	頁岩	24.9	16.5	5.2	2.7	○	○	○	○	○	A	45	A	20	A	30	C	28-15
16	SK24F	頁岩	40.9	17.7	6.0	5.6	○	○	○	○		B	50	B	30			A	28-16

掻器・削器属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	加工部位と種類					縁辺状況と平均刃角						残存部位	挿図
			長	幅	厚		a	b	c	d	f	a・d	刃角	b・c	刃角	e・f	刃角		
17	ST1F5RQ22	頁岩	45.2	22.6	8.5	8.0	○	○	—	—	—	B、C	30	B、C	55	B	45		27-17
18	ST1F5RQ18	頁岩	48.3	23.6	9.2	11.7	○	○	○	○	○	B、C	25	B、C	35	B	55		27-18
19	ST1YRQ27	頁岩	89.4	25.8	9.3	22.3	○	—	—	—	—	B	20	B	50	B、C	60		28-19
20	ST4aF1RQ39	頁岩	55.9	21.8	8.8	10.9	○	—	—	—	—	B	25	B	60	B、C	45		28-20
21	ST1F3RQ9	頁岩	59.8	46.5	12.6	25.1	○	—	—	—	—	B、C	35	B、C	10	A	20		28-21
22	ST1F1	頁岩	31.1	23.3	7.1	5.7	○	○	—	—		B、C	35	B、C	25			A	28-22
23	SX3F	頁岩	53.4	19.2	6.5	8.9	○	—	○	○	○	A	35	A	60	A	45		28-23
24	SK23F	頁岩	48.5	19.2	4.6	4.8	○	○	○	—	—	A	25	B、C	25	A	20		28-24
25	ST4bF2	頁岩	48.6	15.2	5.3	3.6	○	○	○	—		B	20	A	35			A	28-25

磨製石斧属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	刃部形態		残存部位	挿図
			長	幅	厚		平面形	断面形		
28	ST1F1RQ7	泥岩	40.5	12.2	6.0	6.1	弧	両刃	完形	29-28
29	ST4aF1	泥岩	74.3	31.8	10.5	42.2	弧	両刃	完形	29-29
30	10-17Ⅱ	閃緑岩	58.2	44.5	24.2	112.8	弧	両刃	基部	29-30
31	ST1EP302RQ37	緑泥岩	66.9	52.6	21.9	153.5	弧	両刃	基部	29-31
32	SK21F	閃緑岩	63.9	52.8	29.4	78.6	—	—	中間部	29-32

凹石属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	挿図
			長	幅	厚		
34	ST1F5RQ26	閃緑岩	98.2	86.6	48.4	553	29-34

石棒属性表

No	出土区	石材	大きさ			重量(g)	挿図
			長	幅	厚		
33	ST4bEL421	安山岩	290.4	120.3	120.3	5,490	29-33

4　調査のまとめ

今回の調査は農村環境整備事業(山辺西部地区)の農道源長寺・的場線の建設に先立つ緊急発掘調査の概要、成果は以下のようにまとめられる。

(1)　発掘調査は平成14年8月12日から9月11日まで山形県教育庁社会教育課文化財保護室が主体となって、実質20日間にわたって実施した。

(2)　調査面積は1区で60㎡、2区で360㎡の計420㎡である。

(3)　調査では縄文時代中期末葉の竪穴住居跡が2ヶ所で合計4棟検出された。ＳＴ１は確認面からの深さが60㎝の保存状況の良い深い竪穴であり、ＳＴ４群の切り合いのある住居跡からダルマ形から前庭部のないものへと変化する複式炉の変遷が捉えられた。

(4)　複式炉の形態や遺構堆積土内から出土した土器、複式炉内の埋設土器から判断してＳＴ１とＳＴ４ｂは中期末の大木10式古段階から中段階にかけてのもの、ＳＴ４ａは大木10式新段階の所産であると考えられる。切り合い関係から見てＳＴ４ｃは中段階よりは古いことになる。

(5)　土坑が25基検出されたが、この中には貯蔵穴と見られる袋状の形態となるものも含まれる。所属時期はその大半が竪穴の時期とほぼ同時期の大木10式の中段階から新段階のものと考えられるが、ＳＫ23は後期前半の所産であり、ＳＴ１と重複するＥＰ304も後期の所産である。

(6)　石器の中には当該期に特有な縦長剥片(石刃)素材の掻器が本遺跡でも目立った。ＳＴ１の床面には石錐1点と使用した形跡のある剥片4点が遺棄されたような状況で出土した。剥片も石器として使われたことを示しているものと考えられる。

参考文献

山形県教育委員会(1979)『山辺条里遺構発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第22集

山形県教育委員会(2003)『分布調査報告書』(29)　山形県埋蔵文化財調査報告書第203集

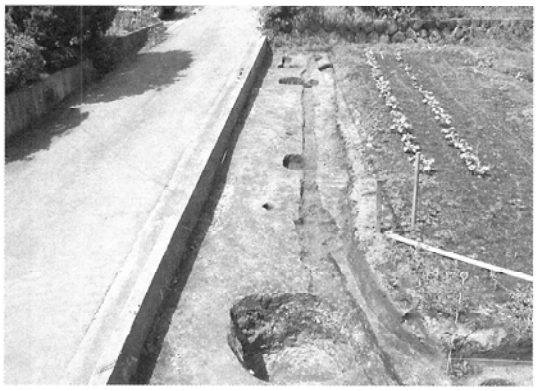
茨木光裕(1997)『大塚天神古墳－第1次調査概要－』山形県山辺町埋蔵文化財調査報告書第6集

茨木光裕(1999)『大塚天神古墳－第2次調査概報－』山形県山辺町埋蔵文化財調査報告書第7集

菅原哲文(2005)「山形県における複式炉と集落の様相」『日本考古学協会2005年福島大会シンポジウム資料集』pp117～130

1区東西トレンチ発掘前（東から）

1区南北トレンチ発掘前（東から）



1区東西トレンチ検出遺構（東から）

1区南北トレンチ検出遺構（東から）

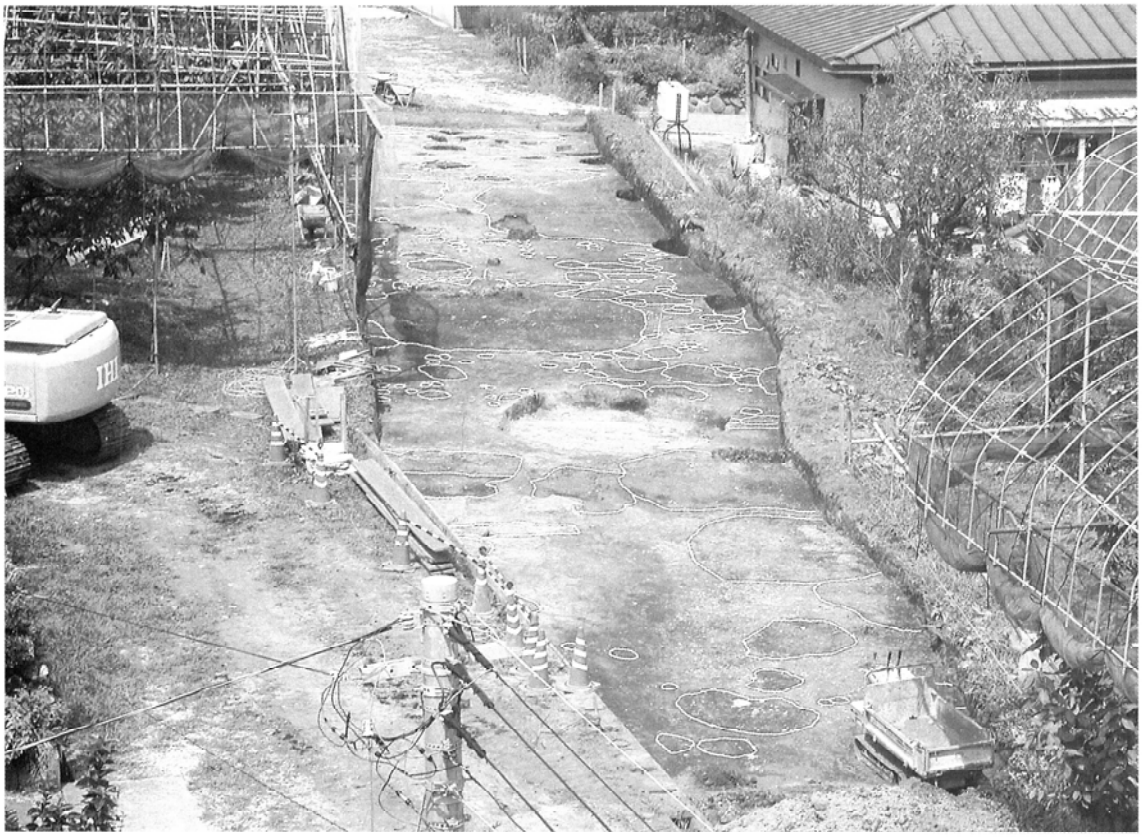
2区表土除去、粗掘り（北から）

2区遺構検出作業（北から）

2区検出遺構の精査状況（南西から）

2区ST4堅穴群の精査状況（北から）

図版1　根際的場遺跡1区、2区調査状況

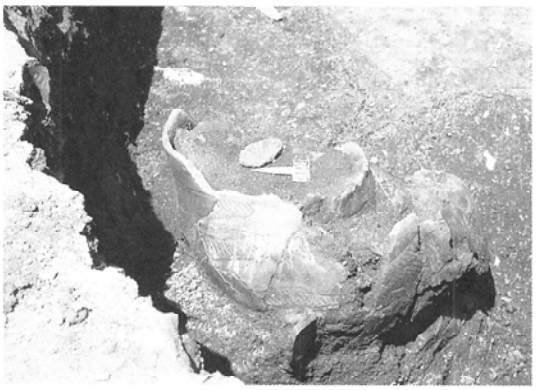


2区遺構検出状況（南から）

2区ST1検出状況（南西から）

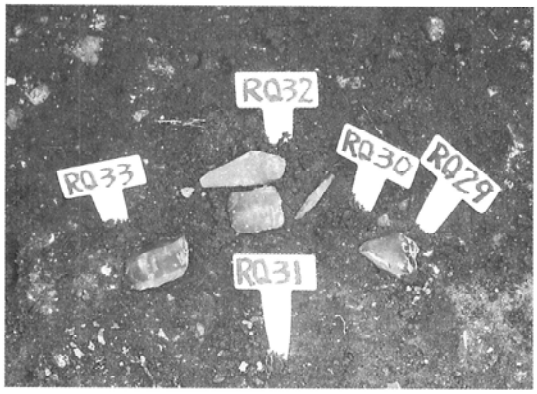
2区ST1精査状況（西南西から）

2区ST1F3･4石器出土状況（北から）



2区ST1RP15出土状況（南東から）

図版2　根際的場遺跡2区遺構検出、ST1調査状況



2区ST1床面直上の石器群（南西から）

2区ST1東西土層断面（南から）

2区ST1EL401半截（北西から）

2区ST1床面検出状況（北から）

2区ST1完掘（北から）

図版3　根際的場遺跡2区ST1調査状況

2区ST4群検出状況（南東から）

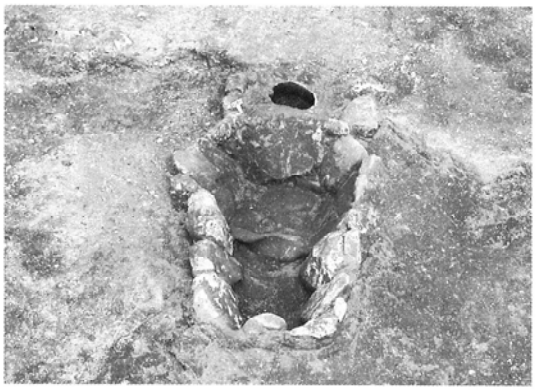
2区ST4群検出状況（北から）

2区ST4a･b調査状況（北東から）

2区ST4a石匙出土状況（北東から）

2区ST4a石錐出土状況（北東から）

2区ST4a･b床面検出（北東から）



2区ST4aEL411完掘（南東から）

2区ST4a完掘（南から）

図版4　根際的場遺跡2区ST4群調査状況

2区ST4a完掘（北東から）

2区ST4b床面検出状況（東から）

2区ST4bEL421土層断面（東から）

2区ST4bEL421埋設土器土層断面（東から）

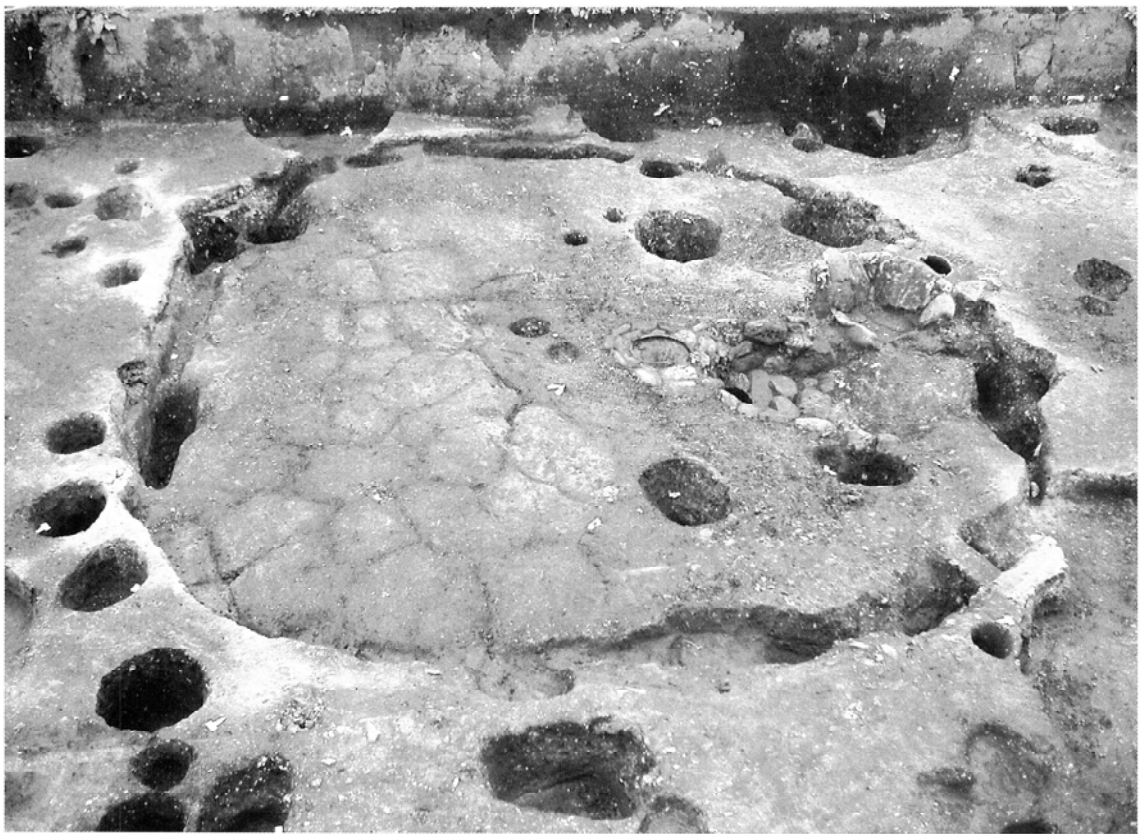
2区EL411、EL421の重複（北東から）

2区ST4bEL421完掘（東から）

2区ST4c検出状況（東南東から）

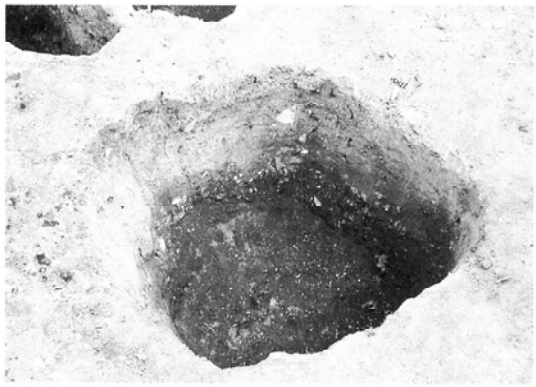
2区ST4c完掘（東南東から）

図版5　根際的場遺跡2区ST4群調査状況

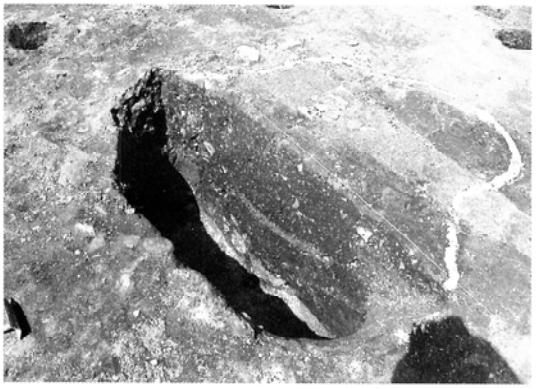


2区ST4b完掘（東から）

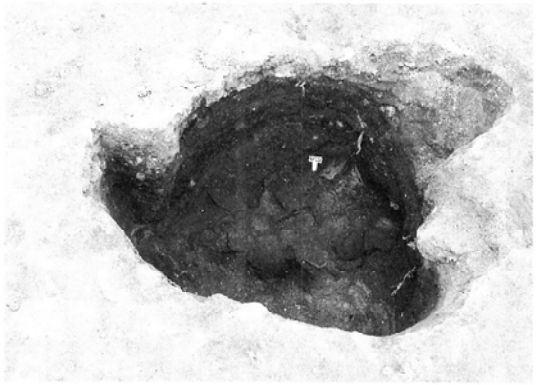
2区SK21完掘（北東から）



2区SK22完掘（南東から）



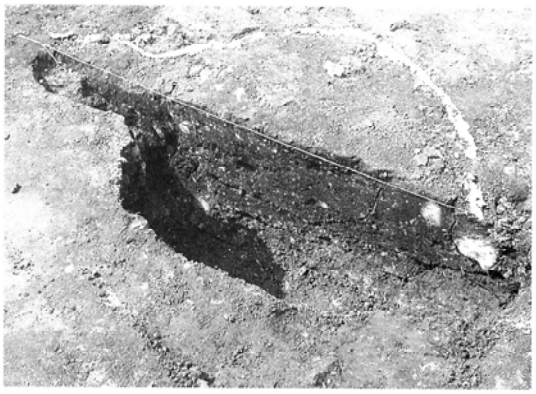
2区SK23土層断面（南東から）



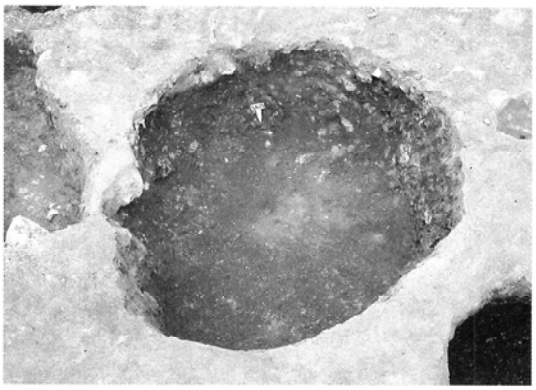
2区SK23完掘（南東から）

図版6　根際的場遺跡2区ST4群、土坑群調査状況

2区SK24土器出土状況（南から）



2区SK24土層断面（南から）

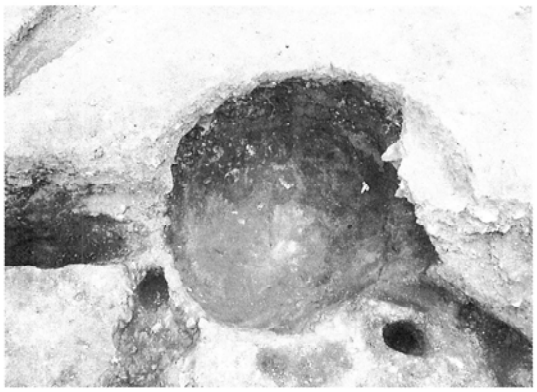


2区SK25完掘（北から）

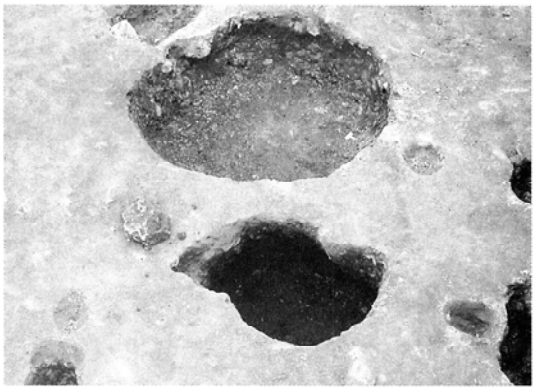
2区SK26・27完掘（北西から）

2区SK29・30完掘（北西から）

2区SK32～34、45完掘全景（西から）

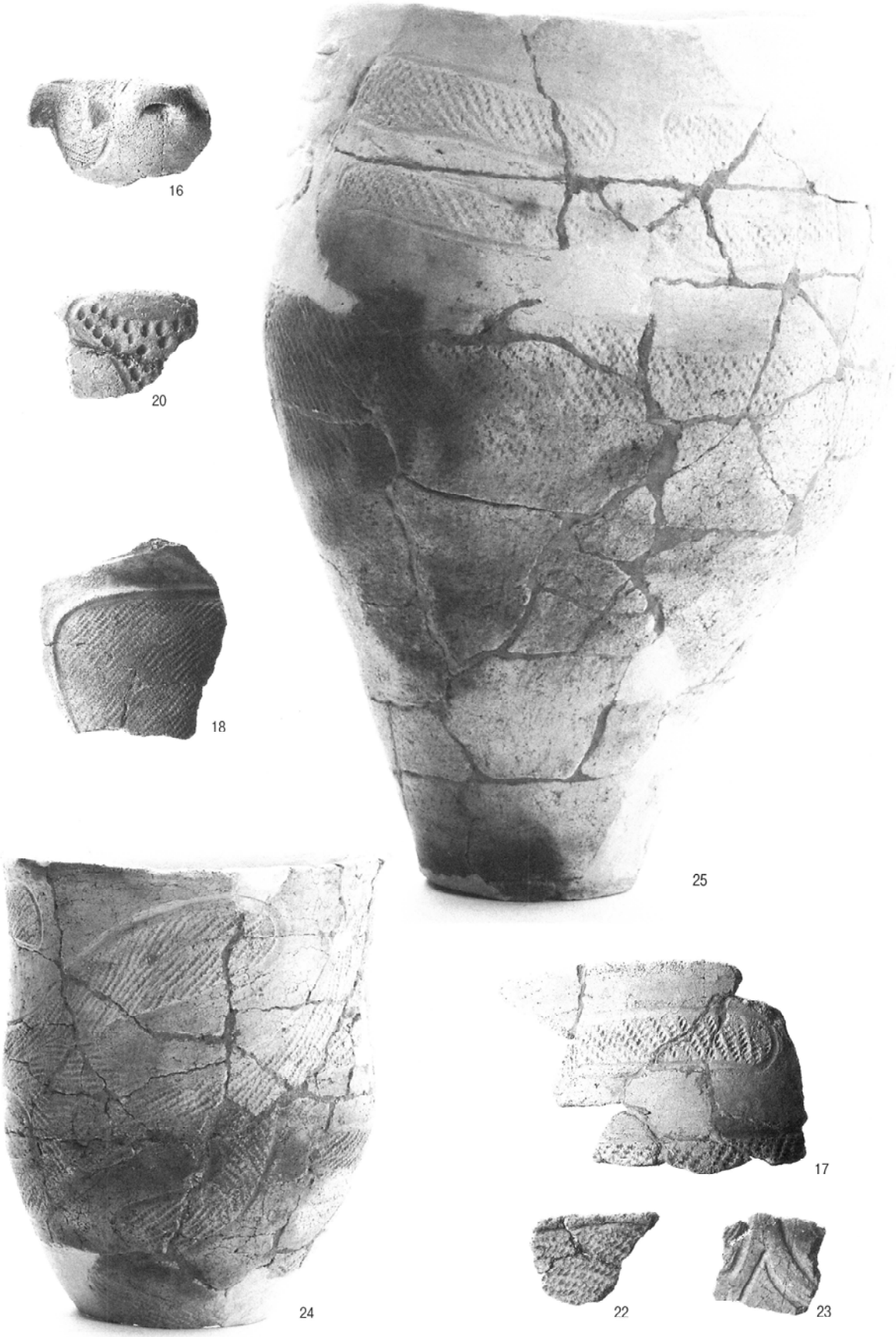


2区SK39完掘（東から）



2区SK42・25（奥）（北から）

図版7　根際的場遺跡2区土坑調査状況



図版８　根際的場遺跡出土遺物（１）

26

27

28

29

30

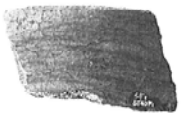
32

33

図版９　根際的場遺跡出土遺物（２）

31

35



36

39

34

図版10　根際的場遺跡出土遺物（３）

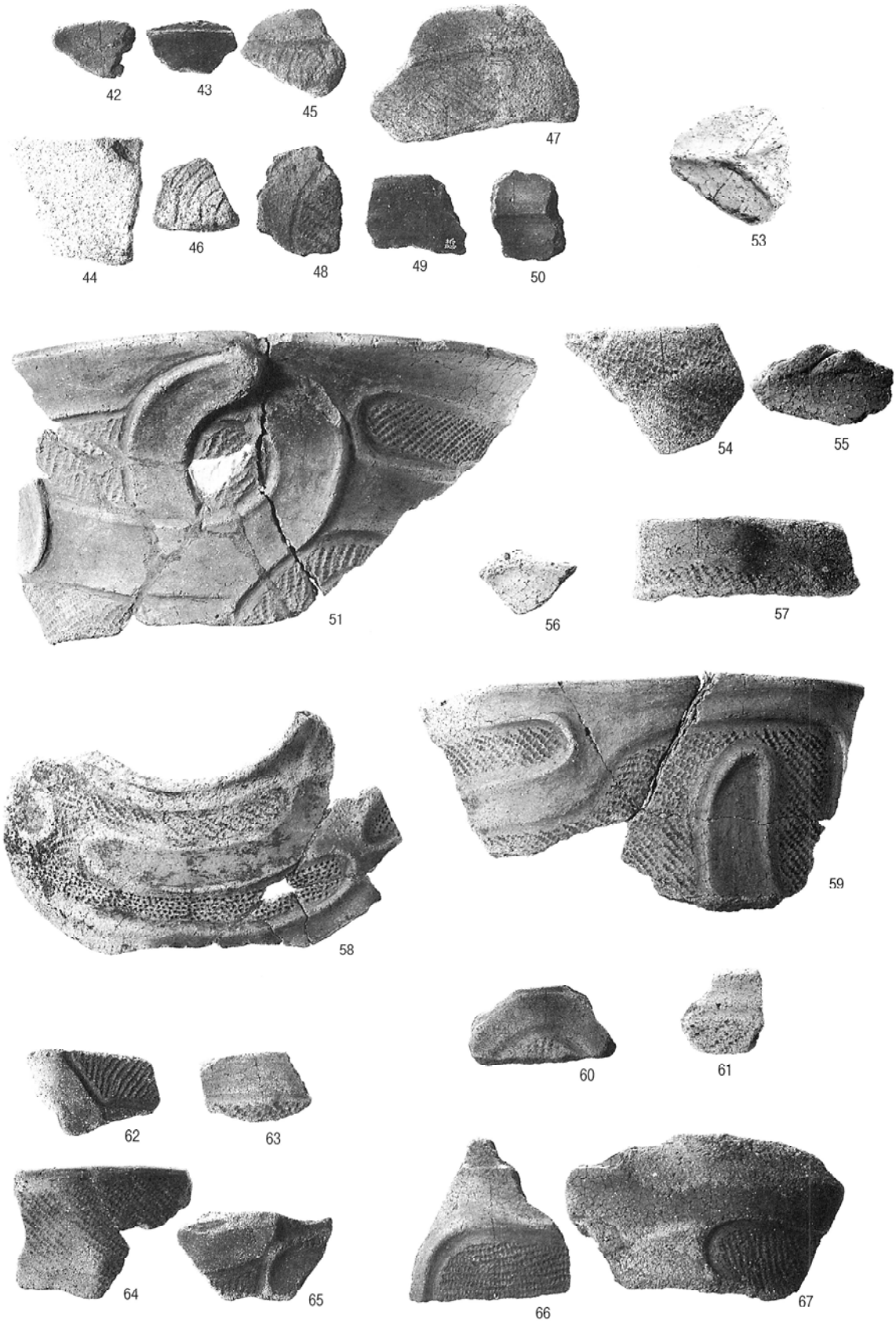
37

38

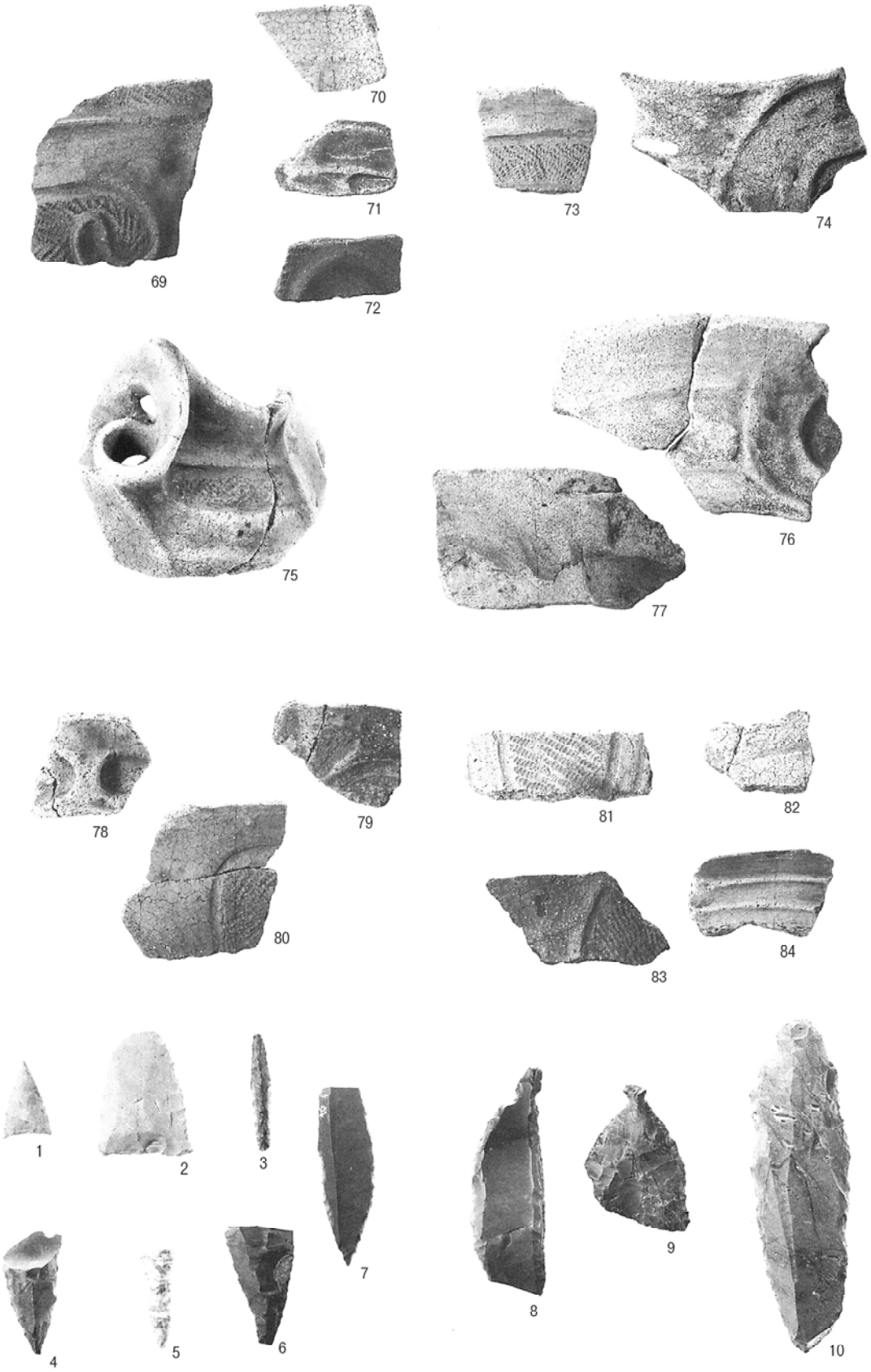
41

40

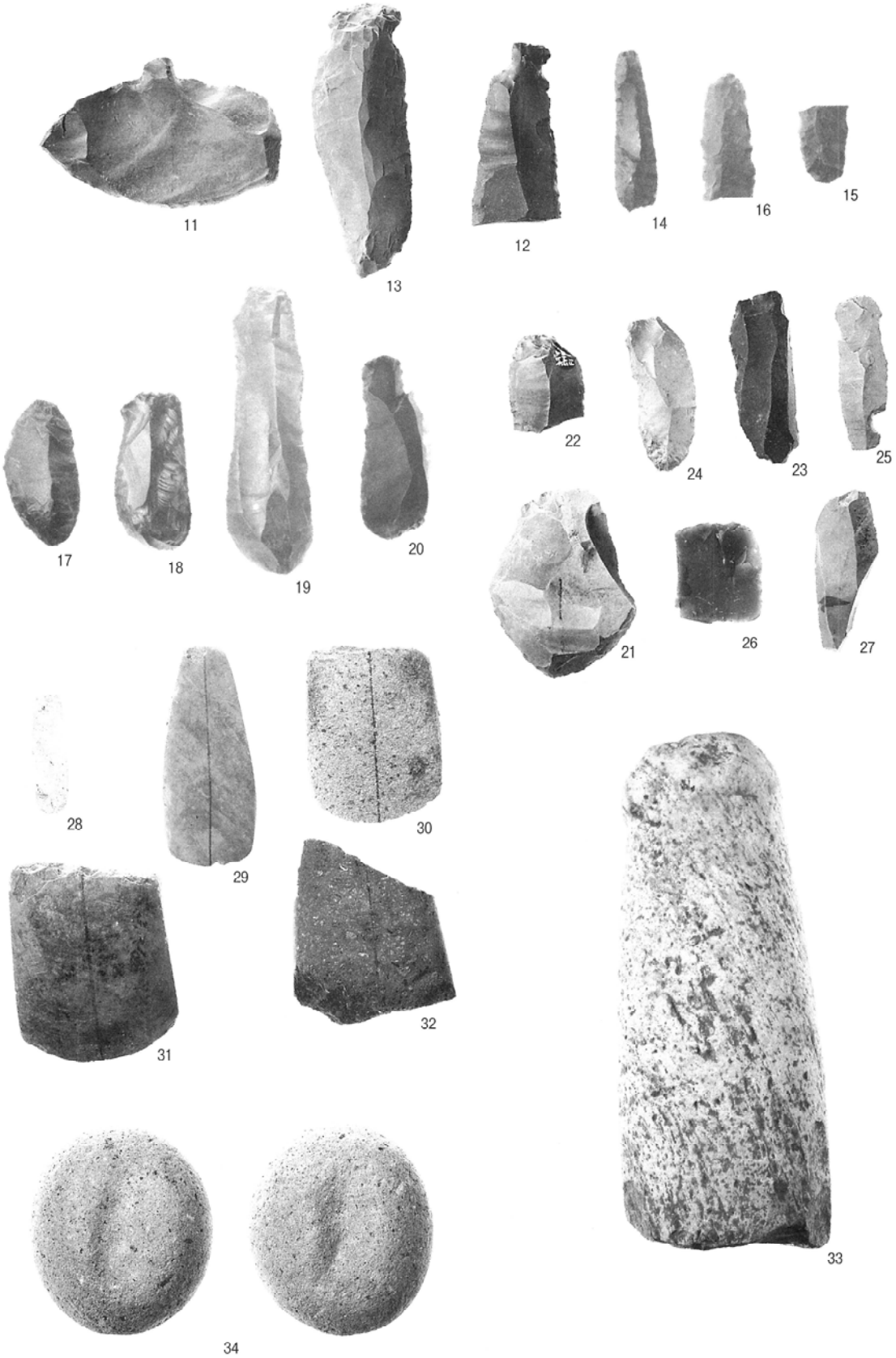
図版11　根際的場遺跡出土遺物（４）



図版12　根際的場遺跡出土遺物（５）



図版13　根際的場遺跡出土遺物（6）



図版14　根際的場遺跡出土遺物（７）

表－３　掲載遺跡位置図使用図幅一覧（２万５千分の１）

NO	遺　跡　名	図　幅　名	NO	遺　跡　名	図　幅　名
1	熊野堂前	寒河江	28	山形西高敷地内	山形南部
2	蓮台寺	山形北部	29	亀ヶ崎城跡	酒田南部
3	宮山坂Ｆ	吹浦	30	上ノ山館跡	羽前中山
4	東増川山	大網	31	中落合	赤湯
5	生石５	羽後観音寺	32	本田	湯野浜
6	寝鹿	糠野目	33	長瀞本楯	谷地
7	トフキ塚	糠野目	34	上の寺	寒河江
8	長者原	手の子	35	上野	赤湯
9	東山Ｄ	羽黒山・大網	36	北沢	羽後観音寺
10	河倉Ｂ	下名川	37	石畑	羽前中山
11	尾浦城跡	湯野浜	38	八幡西	羽前小松
12	田川館跡	三瀬・鶴岡	39	山形城三の丸	山形北部・山形南部
13	釜淵Ｃ	及位	40	庚壇	赤湯・羽前小松
14	北向	山形北部	41	百刈田	赤湯
15	湯坂山	山形南部	42	川前飛地	山形北部
16	梅野木前１	山形北部	43	上敷免	山形北部
17	檜原	羽前小松・赤湯	44	堤屋敷	米沢東部
18	大在家	糠野目	45	町在家館跡	米沢東部
19	源徳原館跡	羽前小松	46	梓山ａ	米沢東部
20	船止	羽後観音寺	47	玉作１	鶴岡
21	楯岡小学校校地内	楯岡	48	玉作２	鶴岡
22	七郎ヶ沢	米沢東部	49	玉作３	鶴岡
23	板小屋	白布温泉	50	興屋川原	鶴岡
24	八森Ａ	羽後観音寺	51	行司免	三瀬
25	八森Ｂ	羽後観音寺	52	木ノ下館跡	三瀬
26	高瀬山	寒河江	53	万治ヶ沢	三瀬
27	角二山	海谷・尾花沢			

Ⅲ　まとめ

平成16年度の遺跡詳細分布調査は、平成17年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにし、開発との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会調査も行った。

1　調査遺跡数

調査遺跡数64遺跡（表面踏査・試掘調査・発掘調査・立会調査　新規発見遺跡含む）その他に調査遺跡数には含めないが、登録遺跡外で遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施したもの（調査の結果、遺跡とはならないもの）や、表面踏査により各種開発事業予定地で抽出した遺跡可能性地（今後の試掘調査等で遺跡となるかを判断するもの）などについても調査を実施した。

2　新規発見遺跡、範囲の訂正、遺跡登録抹消

今年度の新規発見遺跡数　22遺跡

範囲の訂正、名称の変更等の措置が講ぜられた遺跡数　　6遺跡

以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

（1）県教育委員会が発見し登録した遺跡

	（遺跡名）	（所在地）	（種別）	（時期）
1	川前飛地遺跡	中山町長崎字川前	集落	平安時代
2	上敷免遺跡	山形市成安字上敷免	集落	平安時代
3	上の寺遺跡	寒河江市大字慈恩寺字上の寺他	寺院跡	中世
4	東増川山遺跡	東田川郡羽黒町大字川代字東増川山	散布地	縄文時代
5	上野遺跡	南陽市大字上野字上野	散布地	縄文時代・中世
6	北沢遺跡	酒田市大字北沢	散布地	縄文時代
7	七郎ヶ沢遺跡	米沢市関根字七郎ヶ沢	散布地	縄文時代
8	玉作1遺跡	鶴岡市大字中清水字玉作	集落	古墳、平安時代
9	玉作2遺跡	鶴岡市大字中清水字玉作	集落	平安時代
10	玉作3遺跡	鶴岡市大字中清水字玉作	散布地	平安時代
11	万治ヶ沢遺跡	鶴岡市大字矢引字万治ヶ沢	散布地	縄文時代
12	矢引遺跡	鶴岡市大字矢引字矢引	散布地	縄文時代
13	興屋川原遺跡	鶴岡市大字田川字興屋川原他	集落	平安時代
14	行司免遺跡	鶴岡市大字水沢字行司免	集落	平安時代

（2）国等の機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出で登録した遺跡

1	伊勢塚遺跡	酒田市大字吉田字伊勢塚	散布地	平安時代
2	村東遺跡	酒田市大字吉田字村東	散布地	平安時代
3	稲荷遺跡1	酒田市大字吉田字稲荷	散布地	平安時代
4	稲荷遺跡2	酒田市大字吉田字稲荷	散布地	平安時代

5	下中割遺跡	酒田市大字上野曽根字下中割	散布地　平安時代
6	大方Ｂ遺跡	高畠町大字高畠２３４０	
7	三学院跡	羽黒町大字手向字羽黒山	寺院跡　中世
8	鉄砲町三丁目遺跡	山形市鉄砲町三丁目	集落　古墳・奈良平安時代

（３）範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡

	（遺跡名）	（変更内容）	（変更を必要とする文献名）
1	中落合遺跡	範囲の修正	平成９年3月『分布調査報告書（24）』
2	庚壇遺跡	範囲の修正	平成９年3月『分布調査報告書（24）』
3	生石５遺跡	範囲の修正	昭和53年3月『山形県遺跡地図』
4	梅ノ木前１遺跡	範囲の修正	平成17年3月『分布調査報告書（31）』
5	石畑遺跡	範囲の修正	平成12年3月『分布調査報告書（26）』
6	町在家館跡	範囲の修正	平成17年3月『分布調査報告書（31）』
7	梓山ａ遺跡	範囲の修正	平成17年3月『分布調査報告書（31）』

山形県埋蔵文化財調査報告書第206集

分布調査報告書（32）

平成14年度、16年度以降農林土木事業他関係遺跡
国土交通省事業関係遺跡
東北中央自動車道関係遺跡

平成18年３月25日　印　刷
平成18年３月31日　発　行
発　行　　山形県教育委員会
印　刷　　山形印刷株式会社